



エディション・シナプス & ユーリカ・プレス

日本・アジア研究

洋書学術史資料目録

Primary Western Sources Japan, China & East Asia



Edition Synapse / Eureka Press

CONTENTS

英国のジャポニスム：

ヴィクトリア朝・エドワード朝期雑誌・新聞記事集成	1
マティルド夫人(初代イタリア公使夫人)の日本内地紀行	2
ジョサイア・コンドル英文著作および関連資料集成	4
万国風刺漫画大全	6
駐日英国公使パークス・英国外務次官ハモンド往復私信 幕末期編	8
駐日英国公使パークス・英国外務次官ハモンド往復私信 明治維新时期編	8
翻刻・注釈版 アーネスト・サトウ日記	9
西洋人女性の明治日本記：英文書誌事典	10
分売書籍ご案内：『西洋の語った日本』シリーズ	11
分売書籍ご案内：アジア学レファレンス名著復刻叢書	13
分売書籍ご案内：国際東洋学会議 会議録	13
西洋の会った大琉球 第2期：ペリー来航期から大戦期まで ..	13
英文日本年鑑	14
ジャパン・イラストレイテッド	16
ジャパン・ウィークリー・メール	18
西洋の論じた日中・太平洋戦争同時代英語文献復刻シリーズ 第1回配本：太平洋戦争 戦前期編	20
西洋の論じた日中・太平洋戦争同時代英語文献復刻シリーズ 第2回配本：太平洋戦争 戦中期編	22
欧米ジャーナリストの記した戦前期日本	24
女性ジャーナリストの記した戦前・戦中期の日本・中国・東アジア ..	25
占領下日本 第2回：パンフレット、新聞・雑誌記事復刻集成 ..	26
黄禍論英語文献復刻シリーズ 第1回：英国黄禍論小説集成 ..	27
黄禍論英語文献復刻シリーズ 第2回：黄禍論史資料集成 ..	27
ヘンリー・ダイアー著作集成	28
パーシヴァル・ローエル著作集成	29
フェノロサ手稿「日本絵画蒐集作品解説付総目録」 復刻・翻刻・邦訳集成	30
フェノロサ英文著作集	31
西洋人たちの語ったラフカディオ・ハーン	32
F・V・ディキンズ書簡英文翻刻・邦訳集	33
アーネスト・サトウ著作集 第2期：新聞記事・雑誌論文集成 ..	33
英領マラヤ事典	34
中国におけるヨーロッパ人の植物発見史	34
孔子と儒教の経済理論	34
源氏物語：現代英語論文集成	35
華英・英華辞書集成	35
シリーズ 西洋女性宣教師の語った日本	36
日本のフェミニズムを築いた西洋の書物	38
19世紀英国のアジア・イメージ	39
図説百科 極東アジアの近代	40
王立アヘン委員会調査報告書	41
スモレット編 世界の旅行記	41
鉄道院編纂 東亜英文旅行案内	42
ベイヤード・テイラー編集 19世紀世界旅行百科	43

世界周遊旅行の始まり：英文旅行ガイド・ハンドブック復刻集成 ..	44
【和書復刻版】 世界旅行 萬國名所圖繪	45
マリアヌ・ノース自伝	46
オイレンブルク東アジア・日本遠征公式記録	47
ジョサイア・コンダー編 世界旅行者大全	48
ワールド・イン・ミニチュア： 日本・中国・東南アジア・南洋諸島	50
英領インド人の旅した世界	52
アメリカ少年の旅した 19世紀の日本・中国・アジア・アフリカ ..	54
英文東北案内	55
18世紀英国の風刺作品に描かれた日本	56
日英交流史近世書誌年表	57
日本関連英語文献書誌 1555-1800	57
パリ装飾芸術美術館浮世絵版画展 1909-1914年 全図録集成 ..	58
ジェームズ・ロード・ボウズ：日本美術工芸関連著作集成 ..	60
フランス人コレクターの日本美術品売立目録	62
ジュディット・ゴートイエ：日本・中国趣味著作集+別巻『蜻蛉集』 ..	63
ヨネ・ノグチ(野口米次郎)英文著作集 第1集：詩集・小説・評論浮世絵および日本美術評論集 ..	64
ヨネ・ノグチ(野口米次郎)英文著作集 第2集：浮世絵および日本美術評論集	65
ヨネ・ノグチ(野口米次郎)英文著作集 第3集：ヨネ・ノグチとリトル・ポエトリー・マガジン ..	65
エツ・イナガキ・スギモト(杉本鉞子)英文著作集	66
アメリカ女性作家の描いた日本 第1回：メアリー・フェノロサ&フランセス・リトル作品集 ..	68
アメリカ女性作家の描いた日本 第2回：オノト・ワタンナ作品集	69
フランス小説に描かれた日本シリーズ	70
フィラデルフィア万国博覧会(1876年)： 公式資料と日本関連文献集成	72
万国宗教会議 第1回 1893年大会講演集	72
1862年国際博覧(第2回ロンドン万国博覧会)資料総覧	73
日英博覧会(1910年)：公式史料と関連文献集成	74
英領インドと女性	75
坂本達哉英文著作集	76
経済学史研究と日本 田中敏弘(関西学院大学名誉教授)英文論文集	76
幕末・明治初期邦訳経済学書	77
アフリカ学の系譜	78
イスラム学の古典：神学・倫理学・形而上学	79



英国のジャポニスム

新刊

ヴィクトリア朝・エドワード朝期雑誌・新聞記事集成 全 3 巻+別冊日本語解説

Japonisme in Britain, Selected Articles from British Periodicals, 1825-1911

編集・解説 ■ 小野文子 (信州大学准教授)

前文 ■ マーガレット・F・マクドナルド (グラスゴー大学名誉教授)

2022 年 1 月刊行 A4 判・全約 850 頁 (図版多数) 限定 100 部

本体セット価 ¥98,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-224-9



←収録文献の詳細はこちら
からご覧いただけます。

- 日本美術・工芸品の人気の高まるヴィクトリア朝の前期から、日英博覧会が開催されエドワード朝が終わりを迎える 20 世紀初頭に、英国の定期刊行物に発表された日本芸術・美術工芸・建築に関する文献約 150 点を復刻集成する資料コレクション。
- シリーズ第 1 回配本 (英文単行本集成) に収録した、オルコック、ジャーヴス、アンダーソン、ヒュイッシュュら英語圏ジャポニスムの立役者や、リバティー、ピニョン、フライ等この時代の著名文化人が主要美術雑誌に執筆した記事をはじめ、評論誌、文芸誌に掲載された評論や書評などを 25 タイトル以上の雑誌、新聞から選書。また、専門家の論評だけでなく、ロンドン万国博覧会やジャポニスム期の日本美術展についての多くの無署名記事等も加え、英国での日本美術・工芸の初期受容史を、同時代の多様な文献で通観することを可能にする。
- ホイッスラー研究の第一人者マーガレット・F・マクドナルド氏の前文および编者 (Routledge 刊 *Japonisme in Britain -Whistler, Menpes, Henry, Hornel and Nineteenth-century Japan* の著者) による解説 (英語および日本語) を含み、ジャポニスム研究のみならず、広く英国での日本文化受容史研究・教育用の資料として貴重な資料集。



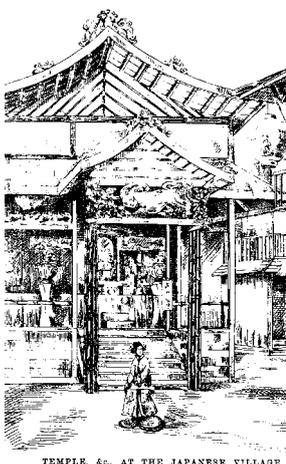
FROM A MODERN JAPANESE CARVING

推薦文 馬淵明子 (ジャポニスム学会顧問・日本女子大学名誉教授)

このたび、『英国のジャポニスム—ヴィクトリア朝・エドワード朝雑誌・新聞記事集成』が刊行の運びとなった。言うまでもなく、19 世紀の英国は、中国をはじめとするアジアへの経済的・外交的な高い関心のもとに、多くの人材を派遣し、情報収集に努めた。日本の鎖国政策はそうした英国の姿勢に対して長い間高い壁であり続けたのだが、彼らは開国前後には他の西欧諸国に先んじていち早く多くの情報を得、またその分析に取り組んでいる。今回刊行される論文や記事は、日本では入手できにくい雑誌や新聞を含み、日本の開国前後から日英博覧会が行われた 1910 年頃までをターゲットに、長い期間の英国の日本文化、日本美術観を読み解くための、極めて有効な試みと言えよう。

日本の文物が流入して、いち早くジャポニスムを展開したのも英国はフランスと並んで最も早い国の一つだった。外交官や旅行者として来日し、質の高いコレクションを形成した人々のみならず、お雇いとして日本に生活の拠点をもち本格的に日本美術を学んだアンダーソンのような人物もいて、いっぽう美術家たちはその強い好奇心から新しい造形原理をかぎつけた。

このシリーズで、英国の人々が日本と日本美術に何を見、どんなジャポニスムを生み出したのか、さらに研究が深まることを期待する。そしてこれだけの貴重な資料を惜しみなく提供して下さった小野文子氏に心から感謝したい。



TEMPLE, &c., AT THE JAPANESE VILLAGE.

マティルド夫人（初代イタリア公使夫人）の 日本内地紀行 全2巻

The Travel Journals of Mathilde, Contessa Sallier de La Tour into the Interior of Japan, 1867-1870 including Letters, Notes and Sketches

編集・解説：Giulio Antonio BERTELLI（ベルテッリ ジュリオ アントニオ 大阪大学言語文化研究科）

2021年1月刊行 クロス装 B5判・総約610頁（全2巻）*図版多数（一部カラー）含む

本体セット価：¥78,000（+税）*限定100部出版 ISBN：978-4-86166-223-2

イザベラ・バードの約10年前、明治2年に西洋人女性として初めて日本内地を旅し記録した、マティルド夫人の手稿の待望の公刊。

- 旅の日記に加え、スケッチブックや書簡、横浜・江戸での生活記など、6つの文書（ド・ラ・トゥール家に残るマティルド夫人の日本関連文書全点）のフランス語翻刻とその英訳に、2か国語の解説、解題、註を加えた学究版。多数の図版入り。
- 戊辰戦争終結直後、いまだ大きな危険が伴う居留地外への初の外国視察団だったイタリア養蚕地視察団に同行し、数年後（明治5年）に富岡製糸場が設立される地域を含む関東北部養蚕業の中心地（上尾、前橋、渋川、大宮、八王子、町田等）を20日かけて旅した日記。各地の人々の生活、風俗の克明な記録と旅行中に描いたスケッチを含む。
- 併録される居留地のノートは、イタリア公使館の整備に奔走する夫人の日常、英国公使パークス一家やフランス公使ロッシュをはじめとする横浜の要人との交流など、開国期の外交官の生活や幕末・維新史の裏側を語る貴重な情報源。
- また、イタリアの家族、友人に宛てた、日本へ向かう船旅や日本・中国滞在中の本音を吐露する書簡や、明治2～3年の大阪、神戸、瀬戸内海、長崎から上海、廈門、香港への旅を中心とした旅行記も収録。
- 本資料がイタリアで発見された後、2017年には研究者間だけでなく日本の新聞紙上でも話題となったが、私文書の上、判読の非常に難しいフランス語手稿であったため、その詳細を知ることは困難であった。本書は長年にわたる編者の原資料の解説、調査、研究をまとめ公刊するもので、幕末・明治期の西洋と日本の研究に新たな一石を投じる画期的出版。

Chapter 2: Notes about Yokohama and Edo (1867)

the joists decorated with dragons painted in red, and the pious Japanese that we had seen taking his shower [at the waterfall] legitimately came to bow down on the steps and with a bang struck the bell of the heavy cord that was dragging down on the ground. Do not forget the beautiful green trees which stand out against the blue sky and frame the red-painted temple, with a black and white roof gilded and decorated with different bronzes, flowers and fantastic figures; and the statues which are in front on sentry duty, and the silence, and the murmur of the waterfall, and you will admit that it is a really beautiful scene.

Here is another excursion of a different kind, which deserves to be pointed out. The Baron von Brandt⁸⁵, the Prussian chargé d'affaires, invited us to come to dine or have lunch at Oggi [sic]⁸⁶, a tea house in the surroundings of Yeddo. We were 6 people going there.

"Tea house" is the usual name for anything that falls into the category of restaurants, cafes, or hotels. The one we went to was renowned as the Ledoyen⁸⁷ of the Capital, two hours from the Legations district and in the middle of the countryside. The site was, as always, well chosen, on the edge of a small river, a waterfall, a thicket of trees and the house in the middle.

フランス語手稿の翻刻と英訳、序文、各文書の解説、注釈などすべて英仏二か国語にて記載しています。

que leur chat se penche sur les jalousies et se met à miauler.
[ic] comme des petits chats, qui ont commencé à se mettre à 6 autour de
les broderies de geai⁹¹ de mon jupon qui a fait l'objet de leur admiration.

August Scipio Von Brandt (1835-1920) était un diplomate allemand qui est
okohama en 1862, et de 1872 à 1875, il a été ministre plénipotentiaire résidant
plié de nombreux ouvrages sur le Japon, la Chine et l'Asie orientale. Voir:

est également écrit en diagonale sur le côté gauche de la page. L'endroit que
est probablement la célèbre maison de thé Ōgi-ya (扇屋) à Ōji (王子), un
ans la partie nord de Tokyo, face au Sumidagawa. Cette maison de thé a été
on activité se poursuit aujourd'hui sous le même nom comme magasin de plats
dans l'atsuyaki-tamago (厚焼き卵 - une sorte d'omelette aux œufs mous).
oyen est un célèbre et ancien restaurant parisien, ouvert en 1779, et, à partir
ns les jardins des Champs-Élysées (son emplacement actuel).

tre parenthèses carrées sont restés vides: Mathilde avait probablement
re la taille moyenne d'un tatami (environ 1800x900 mm).
appelle sudare (簾) en japonais.

⁹⁰ Ce mot se réfère à la ozen (お膳), c'est-à-dire un plateau avec des pieds, semblable à une petite table traditionnellement utilisée au Japon pour servir la nourriture.

⁹¹ Il s'agit d'oiseaux européens à plumes bleues, de la famille des corbeaux.

プロイセン代理公使フォン・ブランドと王子の扇屋で日本料理を会食した際の日誌

CONTENTS

Volume 1: [手稿フランス語翻刻および解説、写真、スケッチ]

Transcriptions of Mathilde's Manuscripts in French & Sketchbook

Images and Photographs & Manuscripts

Preface & General Introduction (in French)

Acknowledgements & Editorial Notes (in French)

Part I: Le cahier de croquis de Mathilde / Mathilde's Sketchbook (1869)

Part II: Transcriptions of Mathilde's Notes, Letters and Travel Journals

Chapitre 1: Le voyage jusqu'au Japon - Égypte et Asie (avril-juin 1867)

Chapitre 2: Notes à propos de Yokohama et Edo (1867)

Chapitre 3: Cinq lettres envoyées du Japon et de la Chine (1867-70)

Chapitre 4: Une expédition dans l'intérieur du Japon (8-28 juin 1869)

Chapitre 5: Le voyage dans la mer intérieure du Japon et en Chine (1869-70)

Volume 2: [手稿英訳および解説、参考文献、索引]

English Translations of Mathilde's Writings

Preface & General Introduction (in English)

Acknowledgements & Editorial Notes (in English)

Part III: Translations of Mathilde's Notes, Letters and Travel Journals

Chapter 1: The Journey to Japan - Egypt and Asia (April-June 1867)

Chapter 2: Notes about Yokohama and Edo (1867)

Chapter 3: Five Letters sent from Japan and China (1867-70)

Chapter 4: An Expedition into the Interior of Japan (June 8th-28th, 1869)

Chapter 5: A Journey in the Inland Sea of Japan and China (1869-70)

References & Index

●本書に登場する主な人物●

Ｌ・ロッシュ、Ｈ・パークス夫妻、Ｍ・フォン・ブラント、Ｊ・ブリュネ、イタリア王妃マルゲリータ、Ｆ・デ・レセップス、ホッグ兄弟、クレッサー夫妻、明治天皇、徳川慶喜、瀧善三郎、寺島宗則、榎本武揚など

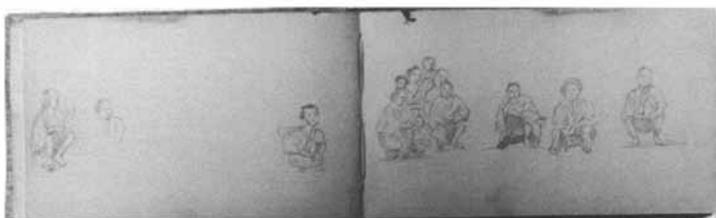
11- page 20 / page 21 (Sketch 13)



F: Le croquis 13 représente une traversée aventureuse de la rivière Tone, telle qu'elle est décrite dans le journal. En bas à droite de la page 21, il y a une petite inscription en italien: "Tonogawa 13 giu." (Tonogawa, 13 juin).

E: Sketch 13 depicts an adventurous crossing of the Tone river, as it is described in the journal. On the lower right side of page 21 there is a small inscription in Italian: "Tonogawa 13 giu." (Tonogawa, June 13th).

12- page 22 / page 23 (Sketches 14 & 15)



F: Les croquis 14 et 15 illustrent quelques figures japonaises: des femmes portant des enfants, un groupe de curieux ou une famille, des hommes et des femmes assis, etc...

E: Sketches 14 and 15 depict some Japanese people: women carrying children, a group of curious people or a family, men and women sitting, and so on.

編者からの言葉

バルテッリ ジュリオ アントニオ
(大阪大学言語文化研究科准教授)

本書にて初めて全文翻刻、英訳とともに公刊される初代イタリア公使夫人マティルドの手稿一式は、西洋人女性の観点から明治維新前後の日本を注意深く観察する傍ら、未知なる日本の内地を旅する女性の記録として最も早いものである上に、多彩な魅力を秘める貴重な一次資料であると言える。

第一に、新鮮味がある。1880年に刊行物として公開されたイサベラ・バードの『日本奥地紀行』と異なり、マティルドの史料は全て家族や友人に宛てた生の私文書であるため、刊行物に必要な文体の整理や修正が行われておらず、自己検閲の影響も受けていないため、150年前に彼女の心を揺さぶったあらゆる感情はありのままに、現在を生きる我々にも新鮮に伝わる。

第二に、鋭い観察力に満ちた描写とユーモラスな逸話のバランスは絶妙である。マティルドは長期滞在者かつ外交官の妻であったため、彼女の日本とその文化に対する好奇心と理解力は特に深く、広範囲にわたる。彼女は日本の自然、美術、政治、歴史、日本人の文化、生活様式、美的感覚、外国人に対する接し方等に注目しながら、時折ユーモアと皮肉に満ちた逸話や刺のあるコメントで読者を驚愕させ、退屈させない。

総じて、繊細な心の持ち主であるマティルドと極度に刺激的な環境である日本との出会いは非常に興味深い成果をもたらしたと言える。そしてこの成果を公開しようという忘れられたマティルドの夢は150年の年月を経て、ついに実現した。

日本内地旅行中のスケッチブック（縮小掲載）。彩色された1点を除き42点の素描は鉛筆によるもので識別が難しいものがありますが、解説（二か国語）により、本文日誌と相互参照が可能になっています。

ジョサイア・コンドル 英文著作および関連資料集成

【復刻集成版】 全4巻＋別冊日本語解説

Collected English Writings of Josiah Conder

[Series: Collected Works of Japanologists]

- 監修● 山口静一（埼玉大学名誉教授）
- 解説● 山口静一 & 穎原澄子氏（千葉大学工学研究院准教授）

2019年11月刊行 本体セット価：148,000円（＋税） ISBN:978-4-86166-211-9

限定80部 判型：B5判（Vol. 1 & 2）・B4判（Vol. 3 & 4）・全約1,250頁 図版多数（カラー&白黒）

- 鹿鳴館、三菱一号館、ニコライ堂などを設計し、近代建築学の礎を日本で築いたジョサイア・コンドルの英文著作および関連文献計65点を図版（一部カラー）含め復刻する初の著作集。
- 数多くの日本建築論をはじめ、日本の服飾、生け花、芸術論など英文紙・誌に発表した記事・論文を網羅。濃尾地震後の建築物被害に関する報告、クリストファー・ドレッサーやF・T・ビゴットとの芸術論争、国内外で報じられたコンドル死亡記事や死後のコレクションの売り立て目録など関連資料も多数収録。
- 日本画の師河鍋暁斎の没後に発表された大著、*Paintings and Studies by Kawanabe Kyosai* 及びコンドル死後にコンドル博士記念表彰会が編集出版した写真・図版集は、コンドルの日光、京都訪問時のスケッチなど、カラー図版含め原寸復刻。

推薦文

藤森照信（東京都江戸東京博物館館長・東京大学名誉教授）

明治の初期、ヨーロッパの進んだ文明を日本に移植するため、多くのヨーロッパ人が政府に雇われて来日するが、任を果たすとほとんどは帰ってゆく。そうしたなかで、イギリス人建築家のコンドルは、鹿鳴館を作り終えても、ニコライ堂を完成させてもなぜか帰らなかった。

日本の文化が好きで好きでたまらなかったからだ。河鍋暁斎について絵を習い、庭を調べ、歌舞伎と落語を演じ、自宅に出稽古に来た花柳流の師匠を妻とし、日本の伝統文化に囲まれて日本の土に帰っている。

もちろん身を浸した日本の文化と建築について何冊もの本を書き、論文を発表した。しかし英文で書かれ主に海外向けに発表されたため、欧米では高い評価を得たものの日本では忘れられているものも少なくない。このたび集成された成果に接すれば、コンドルという優れた知性と個性を通して、今や失われた日本の伝統文化をまざまざと目にする事ができるだろう。



●収録文献● [* = コンドル関連文献 / 無印 = コンドル著作]

第1巻：建築と日本庭園 B5判・約350頁

1) 英国建築協会 1876年ソーン賞受賞関連文献

1. 'Prize Designs at the Institute of Architects'*, *The Builder*, 18 March 1876
2. 'RIBA Soane Medallion Prize Drawings, 1876 – Design for a Country House, By J. Conder'*, *The Building News and Engineering Journal*, 21 April 1876
3. 'General Conference of Architects'*, *The Building News and Engineering Journal*, 16 June 1876

2) 日本建築関連文献 1878-1879

1. 'Note on Japanese Architecture', *Transactions of the Royal Institute of British Architects*, 1878
2. 'Discussion on Mr. Conder's Paper - Notes on Japanese Architecture'*, *Transactions of the RIBA*, 1878
3. 'Theatre in Japan', *The Builder*, 5 April, 1879

3) クリストファー・ドレッサーとの五重塔論争 1882-1886

1. 'Japanese Architecture and Art' A Book Review of Japan: Its Architecture, Art and Art Manufactures, by Christopher Dresser*, *The Building News*, 24 November, 1882
2. 'Japanese Pagodas and their Construction', *The Building News*, 20 April, 1883
3. 'Japanese Architecture and Ornament' by Christopher Dresser*, *The Building News*, 12 December, 1884
4. 'Japanese Pagoda' by Roger T. Conder*, *The Building News*, 19 December, 1884
5. 'The Suspended Beam in Japanese Pagodas'*, *American Architect and Building News*, June 26, vol. XIX, 1886

4) 日本建築関連文献 1883-1887

1. 'Opening of the Rokumei-Kwan'*, *The Japan Weekly Mail*, Dec. 1, 1883.
2. 'Tokio University'*, *The Builder*, 13 Dec. 1884
3. 'Further Note on Japanese Architecture', *Transactions of the RIBA*, vol. II (New Series), 1886
4. 'The Mausoleum at Nikko' by Roger T. Conder*, *Transactions of the RIBA*, vol. II (New Series), 1886
5. 'Association of Japanese Architects', *The JWM*, Aug. 28, 1886
6. 'Domestic Architecture in Japan', *Transactions of the RIBA*, vol. III (New Series), 1887
7. 'A Japanese Gentleman's House at Tokio' by Roger T. Conder*, *Transactions of the RIBA*, vol. III (New Series) 1887
8. 'Domestic Architecture in Japan'*, *American Architect and Building News*, Volume 21, April 1887

5) 濃尾地震による建築被害調査 1889-1893

1. 'Building in Earthquake Countries', *The JWM*, July 22, 1889
2. 'The Effects of the Earthquake.' *The JWM*, Nov. 7. 1891
3. 'The Neo Valley' & 'Gifu, Ogaki, and Osaka', *The JWM*, Nov. 14. 1891
4. 'The Earthquake District', *The JWM*, Nov. 14. 1891
5. 'Osaka', *The JWM*, Nov. 21, 1891
6. 'The Effects of the Recent Earthquake upon Buildings', *The JWM*, Dec. 12, 1891
7. 'Earthquake versus Buildings', *The JWM*, January 30, 1892
8. 'Building Material and Earthquakes'*, *The JWM*, Aug. 6, 1892,
9. 'An Architects Note on the Great Earthquake of October 1891', *Seismological Journal of Japan*, vol. 18, 1893

6) 日本建築関連文献 1890-1901

1. 'The Tokyo Hotel', *The JWM*, Sept. 20, 1890
2. 'S. Hilda's Hospital and Dispensary, Azabu, Tokyo'*, *The JWM*, Oct. 23, 1890
3. 'Opening of the Cathedral of the Greek Church in Japan.'*, *The JWM*, March 14, 1891
4. 'Japanese Architectural Decoration'*, *The JWM*, Feb. 12, 1898

5. 'Christ Church'*, *The JWM*, July 2, 1899
6. 'New Christ Church'*, *The JWM*, July 2, 1899
7. 'New Christ Church'*, *The JWM*, Nov. 25, 1899
8. 'Yokohama United Club', *The JWM*, Oct. 13, 1900
9. 'Christ Church'*, *The JWM*, Feb., 1901
10. 'Christ Church'*, *The JWM*, June 1, 1901

7) 日本建築学会 15周年表彰

1. 'Presentation and Addresses by Tatsuzo Sone, the President of the Institute & by Names of Your Pupils and others' / 2. 'Reply to Addresses and Presentation by Dr. J. Conder', *Kenchiku Zasshi*, No. 402, 1920

8) 日本庭園関連文献

1. 'The Art of Landscape Gardening in Japan', *Transactions of the Asiatic Society of Japan*, vol. XIV, 1886
2. 'Review of Landscape Gardening in Japan'*, *The JWM*, July 15, 1893

第2巻：日本文化と芸術 B5判・約400頁

1) 日本の服飾関連文献

1. 'The History of Japanese Costume – Court Dress', *TASJ*, vol. VIII, 1880
2. 'The History of Japanese Costume – Armour', *TASJ*, vol. IX, 1881

2) 日本美術

1. 'Conservatism in Japanese Art'*, *The JWM*, Aug. 28, 1886

[F. T. ピゴットとの論争] -----

2. 'Of Art in General and Japanese Art in Particular' * by F. T. Piggott, *The JWM*, Nov.9, 1889 / 3. 'The Meiji Art Society', *The JWM*, Dec. 14, 1889 / 4. 'Japanese Art' by F. T. Piggott*, *The JWM*, Dec.28, 1889 / 5. 'Japanese Art'*, *The JWM*, January 4, 1890

6. 'Buddhism in Japanese Art'*, *The JWM*, Sept. 24, 1892

3) 生け花関連文献

1. *Theory of Japanese Flower Arrangement*, New edition, Kobe: J.L. Thompson & Co, 1935
2. 'Mr. Conder's Art of Flower Arrangement', *The JWM*, Sept. 5 1891
3. 'Flowers of Japan'*, *The JWM*, April 16, 1892
4. 'Mr. Conder's Work on Japanese Flowers'*, *The JWM*, March 18, 1893
5. 'Japanese Flower Arrangement', *The Studio*, 1896-97, 1896

4) 売立目録

1. *Doctor Josiah Conder's Sampling of Japansk Kunst, 1942*, V. Winkel & Manussen, Kobenhavn
2. *Catalogue of Fine Japanese Paintings and Colour Prints*, Day of Sale: Monday, January 18th 1965, Japanese Paintings and Screens from the Collection of the late Dr. Josiah Conder

第3巻：河鍋暁斎論 B4判・約260頁

1. Kyōsai, *The JWM*, May18, 1889* (unsigned obituary, attributed to Josiah Conder)
2. *Paintings and Studies by Kawanabe Kyosai*, 1911
Contents: Plates and Illustrations / Life of Painter / Painting Materials / Painting Methods / Examples of Technique / Signature and Seals / Catalogue of Collection / Glossary

第4巻：コンドル博士記念表彰会編『コンドル博士遺作集』(昭和六年刊) および英文紙誌の訃報 B4判・約120頁
Collection of the Posthumous Works of Dr. Josiah Conder; F.R.I.B.A., Committee of The Memorial Album of Dr. Conder's Posthumous Works, Tokyo, 1932 / 『昭和6年

[英文新聞・雑誌の訃報]

1. *Japan Times and Mail*, June 23, 1920 / 2. *Japan Advertiser*, June 23, 1920 / 3. *The Builder*, Sept. 10, 1920 / 4. *RIBA Journal*, Vol. 27, Sept. 1920 / 5. *The Building News*, Nov. 19, 1920, p. 256

万国風刺漫画大全

第3期：戦間期の世界

【復刻集成版】全3巻+別冊

Caricatures and Cartoons: A History of the World 1921-1930

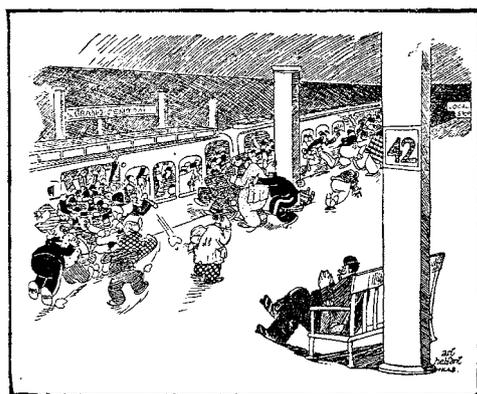
■編集・解説■ 橋本順光 (大阪大学文学部)

[British Satirical Periodicals of the Nineteenth Century Series IV]

2018年11月刊行 B5判・1620ページ上製 本体セット価 ¥138,000- (+税) ISBN 978-4-86166-196-9



- 世界各国で発行された雑誌、新聞の風刺画コレクションのシリーズ第3期は、第一次大戦終戦から10年間の戦間期を対象にし、世界35か国で刊行された約360紙誌から、*The Review of Reviews* 『評論の評論』誌に転載された4700点以上の風刺漫画を集成。
- アイルランドやインドでの独立運動など、大英帝国の没落と米ソの台頭が顕著となるこの時代、欧米のメディアだけでなく、インドの *Hindi Punch*、中国の *North China Herald*、日本の『大阪パック』などアジアも含めた各国のプロパガンダとしての風刺漫画が増す一方、20年代前半の政治的な小康状態を反映し、解放された女性たちやそのファッションを揶揄する漫画や、チャップリンのような映画スター、アインシュタインのような科学者やスポーツ選手が風刺の対象として登場、漫画のスタイルも今日の表現方法に近づき大きく変化してゆく。
- 20年代後半になるとファシズムを生む要因の一つとなった移民問題を風刺する漫画なども増加し、ムッソリーニに続いてヒトラーが登場、短かった平和の時代の終焉と第2次大戦へ向かう世界が、この風刺漫画コレクションを通して視覚的にはっきりと読み取れる。



Judge
Tramp: "I'm darn glad that I haven't any home to go to!"



■好評既刊■ 第1期：世紀転換期の世界 全3巻+別冊

Caricatures and Cartoons, 1890-1905: A History of the World

B5判・約1,200頁 本体セット価 ¥118,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-186-0

在庫僅少

第2期：戦争の世紀の幕開け 全4巻+別冊

Caricatures and Cartoons: A History of the World 1906-1920

B5判・総1,970頁 本体セット価 ¥148,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-195-2

在庫僅少

ファシズムの時代を諷刺した世界各国の雑誌・新聞漫画約 3,200 点を収録

万国風刺漫画大全

第4期：第二次大戦へ向かう世界

【復刻集成版】全3巻+別冊

Caricatures and Cartoons: A History of the World 1931-1940

■編集・解説■ 橋本順光（大阪大学文学部）

[British Satirical Periodicals of the Nineteenth Century Series V]

2020年10月刊行 B5判・総約1,660頁

本体セット価¥138,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-197-6



- 19世紀末から1940年までの世界の風刺画コレクションシリーズが完結。
- 第4期では、第二次世界大戦前の10年間を対象に、世界38か国で発行された約380紙誌から、*The Review of Reviews* 『評論の評論』誌に転載された3,200点以上の風刺漫画を集成。
- 欧米の主要な全国紙だけでなく地方紙やその他諸国でも数多く諷刺されたヒトラー、ムソリーニ、日本の軍事主義、日中戦争、カンジーとインド独立運動などに関する世界各地の風刺漫画が満載。
- 政治問題に加えて、経済、貿易、教育や文化芸術、女性や人種問題など戦前期の国際社会のあらゆる側面を映し出した視覚資料集。
- シリーズ全13巻で1890年から半世紀の諷刺漫画18,000点以上を収録。



第4期収録漫画の主な風刺テーマ

- ・ ナチスの台頭・ファシズム・共産主義
- ・ 大恐慌の拡大・死の商人・大英帝国の衰退
- ・ アジアの諷刺漫画（中国のサバジュ・インドのシャンカー）
- ・ 日本の軍事主義化・日中戦争・カンジーとインド独立運動
- ・ 国際連盟・軍縮会議
- ・ 反ユダヤ主義・人種問題
- ・ ヘルリンオリンピック・スポーツ
- ・ 映画・性・検閲
- ・ モダンな女性・社会風俗など

駐日英国公使パークス書簡翻刻シリーズ 第1巻

駐日英国公使パークス・英国外務次官ハモンド 往復私信 幕末期編 【翻刻・注釈版】全1巻

Private Correspondence between Sir Harry Parkes and Edmund Hammond, 1865-1868

Series: Official and Unofficial British Attitudes to Japan, 1865-1883: Private Correspondence between Sir Harry Parkes and the Permanent Under-Secretary in the Foreign Office, Volume 1

【編集・解説】ロバート・モートン（中央大学商学部教授）／序文●佐野真由子（京都大学教育学部教授）

2018年10月刊行 B5判・約220頁 本体価格：¥28,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-206-5

初代英国駐日公使オールコックの後任として1865年に来日したサー・ハリー・パークスは、駐日英国公使・大使として歴代最長となる18年間その職を務め、幕末・維新期の日本と西洋の最前線で活躍した最重要人物の一人です。アーネスト・サトウ、アストン、ミトフォードといった優秀な書記官を部下にもったパークスは、幕府内外から広く情報を収集、中立を保ちながらも、薩長や討幕側と通じることにより新政府の樹立に影の指導力を発揮、英国からの強い影響のもとで明治日本が始動することになります。

本資料は、そのパークスが英国外務省高官らとで交わした非公式な書簡類を翻刻出版するシリーズの第1巻で、英国公文書館に所蔵されている、当時の外務事務次官エドムンド・ハモンドとで交わした幕末期の往復書簡全点を収録、さらに一部関連文書中の書簡も補足、編者による詳しい注釈を付しています。（英国公文書館の該当資料ファイルは「ハモンド文書」として知られますが、この文書については佐野真由子氏の推薦文をご参照ください。）

パークスは外務省宛の公式報告とは別に、信頼する高官ハモンドへ数多くの私信を送り、その時々個人の意見や気持ちを率直に伝えています。その内容は日本国内の政治状況や展望、政治家の人物評といった政治・外交問題から、日本での生活から受けるストレスといった私的なものも含まれ、ハモンドは誠実にそれらに返信しています。

公的な資料とは異なる外交史の側面や、後に日本アジア協会の会長も務めるパークスの日本や日本の近代化に対する様々な思いもここから読み解くことができる貴重な資料です。

駐日英国公使パークス書簡翻刻シリーズ 第2巻

駐日英国公使パークス・英国外務次官ハモンド 往復私信 明治維新时期編 【翻刻・注釈版】全1巻

Private Correspondence between Sir Harry Parkes and Edmund Hammond, 1869-1872

Series: Official and Unofficial British Attitudes to Japan, 1865-1883: Private Correspondence between Sir Harry Parkes and the Permanent Under-Secretary in the Foreign Office, Volume 2

【編集・解説】ロバート・モートン（中央大学商学部教授）

2019年11月刊行 B5判・約230頁 本体価格：¥28,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-207-2

19世紀中期の大英帝国のアジア外交政策の実質的な決定者であった、外務省事務次官エドムンド・ハモンドと駐日公使パークスとの書簡集シリーズの第2巻は、明治維新时期1869年～1872年間の書簡を収録します。

大政奉還から明治政府の成立に影響力を及ぼしたパークスは、普仏戦争や駐日フランス公使として外交力を発揮していたロッシュの帰国、南北戦争からの立ち直りに時間を要していた米国などライバル国の影響力の低下もあり、明治日本と西洋間の外交の中心人物として新政府の国際社会での承認に大きな役割を發揮します。

本巻は英国公文書館に残されている私信（準公文書）約90点の翻刻と注釈に加え、パークスがハモンドへの報告に言及した資料4点を合わせて収録します。その中には、ミトフォードとシーボルトが英訳した明治政府の文書、F. O. アダムスによる日本の養蚕地訪問記、パークスが英国議会の委員会で行った外交実務に関する陳述書の翻刻など、ハモンドへの書簡の中で言及されている重要な資料が含まれます。

翻刻・注釈版

アーネスト・サトウ日記

[Collected Works of Japanologists Series]

幕末維新时期編 全1巻

The Diaries of Sir Ernest Mason Satow, 1861-1869

在庫僅少

【編集・解説】 ロバート・モートン（中央大学教授） & イアン・ラックストン（九州工業大学教授）

【序文】 デイヴィッド・ウォーレン（前駐日英国大使）

2013年11月刊行 B5判・約400頁 上製（クロス装）
本体価 ¥29,800-（+税） ISBN 978-4-902454-83-3

- 英国公文書館所蔵のサトウ日記手稿を完全翻刻、編者による詳細な注釈を付す。
- 特に注釈でのサトウの主著 *A Diplomat in Japan*（邦訳『一外交官の見た明治維新』（岩波文庫））中の記述との比較は、今後の研究に有用。
- 日記の原本に貼付されている図版や写真も一部掲載。
- 来日直後に勃発した生麦事件、薩英戦争や下関戦争、そして西郷隆盛、桂小五郎など明治維新の要人との会談、明治天皇との謁見、日本各地への旅行などの詳細を記した貴重な生の記録。

駐清公使時代編 全2巻

The Diaries of Sir Ernest Satow, British Envoy in Peking (1900-06)

【編集・解説】 イアン・ラックストン（九州工業大学教授）
【序文】 ジェイムズ・ホアー（元在北朝鮮英国臨時代理大使、ロンドン大学主席研究員）

2016年1月刊行 B5判・約820頁 上製（クロス装）
本体セット価：¥59,800-（+税） ISBN：978-4-902454-96-3

- 駐日特命全権公使としての日本での任務ののち1900年から1906年まで駐清公使として北京に滞在した期間の日記。
- 着任早々に全権大使として義和団の乱鎮圧後に北京議定書の調印に活躍、その後日英同盟の発効、対立から戦争へ至る日露と戦争の終結を見届け外交官を退官するまでの時代の日記。
- 外交官として長く中国、朝鮮に滞在し、研究者としても多くの功績のあるスペシャリスト、James Hoare による序文入り。

明治前期編 全1巻

The Diaries of Sir Ernest Mason Satow, 1870-83

【編集・解説】 イアン・ラックストン（九州工業大学教授）
【序文】 ヒュー・コータツツィ（元駐日英国大使）

2015年11月刊行 B5判・約525頁 上製（クロス装）
本体価：¥34,800-（+税） ISBN：978-4-902454-95-6

- 賜暇にて1869年に帰国したサトウが再来日する1870年から、総領事代理としてタイに赴任する1883年までの日記。
- 駐日英国代理公使アダムズを支え、西郷隆盛、木戸孝允、岩倉具視ら明治新政府の要人と面会し、不平等条約問題や日清修好条規など多くの外交交渉の場に立ち会い、キリスト教解禁や西南戦争など激動の明治前期を見つめた約13年の記録。
- この時期のサトウは、長男・栄太郎、次男・久吉（後の武田久吉）が生まれ日本での私生活も安定、日本各地を旅し『中部・北部日本旅行案内』（ホーズとの共著）を著すほか、日本研究者としてもジャパン・ウィークリー・メール紙や日本アジア協会誌などに多くの論文を発表、『英和口語辞典』（石橋政方との共著）や『馬場文英著：開国史談一名元治夢物語』『椒山野史著：近世史略（翻訳）』の英訳出版を行うなど大きな功績を残した。
- 明治史研究者だけでなく、ジャパノロジー（海外の日本研究）の資料としても貴重。

日露終戦、第2回ハーグ平和会議から第一次世界大戦へ 全1巻

The Diaries of Sir Ernest Mason Satow, 1906-1911

【編集・解説】 イアン・ラックストン（九州工業大学教授）
【序文】 イアン・ニッシュ（ロンドン大学名誉教授）
2015年9月刊行 B5判・約525頁（写真入り）上製（クロス装）
本体価：¥34,800-（+税） ISBN：978-4-902454-94-9

- 外交官を退官し英国へ帰国した後の1906年～1911年の日記を収録。
- 駐清公使として外交官を引退後も枢密院顧問官（1906年）や第2回ハーグ平和会議（万国平和会議）に英国代表次席公使（1907年）に選ばれ、国際法や国際問題の専門家として活躍。本書はサトウ研究者にとっても、未だ本格的な研究に至っていないこの時期に焦点を当て、英国公文書館所蔵の手稿を完全翻刻復刻し、編者による詳細な注釈を付す。
- 日露終戦後の日英や国際関係にどのような視線と向けていたのか、第2回ハーグ平和会議や著名な「ハーグ密使事件」にはいかに関わったのか、等々、長く極東アジアで国際政治の表舞台にあった外交官が第一次大戦の足音が近づくイギリスで残した生の記録の初の公開。

西洋人女性の明治日本記 英文書誌事典 全1巻

Meiji Japan as Western Women Saw It A Bibliographic Companion

編・著 Ronald D. Klein / ロナルド・クライン (元広島女学院大学教授)

2016年10月刊行 B5判・クロス装 約345頁 (カラー図版・白黒写真入り)

本体価格：¥34,800 (+税) | ISBN: 978-4-902454-93-2 [Series: *Victorian Lady Travellers in Asia*]



Isabella Bird

- 明治日本を著した西洋人女性約200名の詳しい人物情報と主著600点の解題、さらに雑誌記事や二次文献も含めた1,200件近い書誌情報をまとめた初の本格的英文書誌。
- 著者を①旅行者、②キリスト教宣教師、③日本滞在者、④小説家に分類し、各項目にはその分野での西洋と日本との接触・関係史を詳説する序文が書き下ろされ、さらに原書カバーや挿絵のカラー図版や著者の肖像写真など視覚資料も掲載。

CONTENTS

Book Covers and Illustrations

General Introduction

Chapter I: Tourists and Travelers

[Travel Writers 40 / Annotations 45 / Bibliography 109]

Portraits of Women Travelers

Introduction

1. Victorian Women Travelers
2. Women Tourists and Travelers to Japan
3. Guide Books for Tourists
4. Varieties of Women Tourists and Travelers to Japan
5. Conclusion

Key Works by Women Tourists and Travelers

- Part 1: Early Impressions—1860s and 1870s
- Part 2: The Second Wave—1880s
- Part 3: The Latecomers—1890s
- Part 4: The Last Wave—1900 to the End of the Meiji Era

Bibliography

- Part 1: Works by Women Tourists and Travelers
- Part 2: Secondary Sources
- Part 3: Secondary Sources on Specific Authors

Chapter II: Missionaries

[Missionaries Writers 59 / Annotations 155 Bibliography 574]

Portraits of Women Missionaries

Introduction

1. Women's Work for Women Worldwide
2. The Protestant Church
3. The Roman Catholic Church
4. The Greek Orthodox Church
5. The Church Missionary Society
6. Other Christian Institutions



Mrs. Fraser

7. Women's Education

8. Social Services

9. Conclusion

Key Works by or about Meiji Women Missionaries

- Part 1: Works by Missionaries
- Part 2: Secondary Sources

Appendix 1: Early Women's Missionary Societies

Appendix 2: List of Annual Letters from the Field by CMS Missionaries

Appendix 3: Leading Missionaries in Women's Education

Appendix 4: Key Japanese Women Influenced by Missionaries

Appendix 5: Girls' Schools Founded 1870-1912

Chapter III: Sojourners

[Sojourners Writers 36 / Annotations 133 / Bibliography 159]

Portraits of Women Sojourners

Introduction

Key Works by Sojourners

Bibliography

- Part 1: Works by Sojourners
- Part 2: Secondary Sources

Chapter IV: Writers

[Writers (Authors) 74 / Annotations 286 / Bibliography 330]

Portraits of Women Writers

Introduction

Key Works by Writers

Bibliography

- Part 1: Works by Writers
- Part 2: Secondary Sources

Author Index

●分売書籍ご案内● 全点上製本、価格はすべて本体価格。在庫僅少品。

◆『西洋の語った日本』Japan in English シリーズより◆

マクファーレン『日本の地理および歴史』(JIE Vol. 1) c.378pp ISBN 4-931444-85-7 ¥23,000-
Charles MacFarlane, *Japan: An Account, Geographical and Historical, from the Earliest Period at Which the Islands Composing this Empire Were Known to Europeans, down to the Present Time, and the Expedition Fitted Out in the United States*, 1st edition, New York: Putnam, 1852.

テイラー『インド、中国および日本への訪問記』(JIE Vol. 2) c.310pp ISBN 4-931444-86-5 ¥21,000-
Bayard Taylor, *A Visit to India, China, and Japan*, First published 1855; this edition newly revised and edited by George Frederick Pardon, London: Blackwood, [1859/61?].

[ペリー]『開国した日本』(JIE Vol. 3) c.310pp ISBN 4-931444-87-3 ¥21,000-
Anon., *Japan Opened: Compiled Chiefly from the Narrative of the American Expedition to Japan in the Years 1852-3-4*, First published 1858; this edition 2nd ed., London: Religious Tract Society, 1861.

コーンウォリス『日本への二度の旅』(JIE Vol. 4&5) c.648pp ISBN4-931444-88-1 ¥40,000-
Kinahan Cornwallis, *Two Journeys to Japan, 1856-7*, 1st edition, 2 vols, London: Newby, 1859.

オズボーン『日本近海巡航記』(JIE Vol. 6) c.216pp ISBN 4-931444-89-X ¥19,000-
(Captain) Sherard Osborn, *A Cruise in Japanese Waters*, 1st edition, Edinburgh & London: Blackwood, 1859.

スタインメッツ『日本とその人々』(JIE Vol. 7) c.462pp ISBN 4-931444-90-3 ¥25,000-
Andrew Steinmetz, *Japan and Her People*, First published 1859; this edition 2nd ed., London: Routledge, Warne, 1859.

モージュ『グロ全権公使の中国・日本遠征回想』(英訳)(JIE Vol. 8) c.384pp ISBN 4-931444-92-X ¥23,000-
Marquis de Moges, *Recollections of Baron Gros's Embassy to China and Japan in 1857-58*, First published 1860; this edition 2nd ed., London: Griffin, Bohn, 1861.

オズボーン『日本の断章』(JIE Vol. 10) c.164pp ISBN 4-931444-94-6 ¥19,000-
(Captain) Sherard Osborn, *Japanese Fragments*, with Facsimiles of Illustrations by Artists of Yedo, 1st edition, London: Bradbury and Evans, 1861.

スミス『日本における十週間』(JIE Vol. 11) ISBN 4-931444-95-4 c.492pp ¥25,000-
(Bishop) George Smith, *Ten Weeks in Japan*, 1st edition, London: Longman, Green, 1861.

ティリー『日本、黒竜江地区、太平洋航海記』(JIE Vol. 12) c.434pp ISBN 4-931444-96-2 ¥23,000-
Henry Arthur Tilley, *Japan, the Amoor, and the Pacific; with Notices of Other Places Comprised in a Voyage of Circumnavigation in the Imperial Russian Corvette "Rynda," in 1858-1860*, 1st edition, London: Smith, Elder, 1861.

フォンブランク『日本と中国北部での2週間』(JIE Vol. 13) c.304pp ISBN 4-931444-97-0 ¥21,000-
Edward Barrington de Fonblanque, *Nippon and Pe-che-li; or, Two Years in Japan and Northern China*, First published 1862; this edition 2nd ed., London: Saunders, Otley, 1863.

ジェフソン&エルマースト『日本での生活』(JIE Vol. 14) c.488pp ISBN 4-931444-98-9 ¥25,000-
Richard Mounteney Jephson & Edward Pennell Elmhirst, *Our Life in Japan*, with Illustrations from Photographs by Lord Walter Kerr, Signor Beato, and Native Japanese Drawings, 1st edition, London: Chapman and Hall, 1869.

ポンプリー『北米横断からアジアへー5年間の世界周遊』(JIE Vol. 15) c.500pp ISBN 4-901481-12-6 ¥24,000-
Raphael Pumpelly, *Across America and Asia: Notes of a Five Years Journey around the World and of Residence in Arizona, Japan and China*, 1st edition, New York: Leypoldt and Holt, 1870.

イーデン『日本』(JIE Vol. 16) c.378pp ISBN 4-901481-13-4 ¥22,000-
Charles H. Eden, *Japan: Historical and Descriptive*, 1st edition (revised and enlarged from 'Les Voyages Celebres'), London: Ward, 1877.

カロザース『日出る王国;日本での生活と光景,そして女性と仕事』(JIE Vol. 17) c.442pp ISBN 4-901481-14-2 ¥22,000-
Julia D. Carrothers, *The Sunrise Kingdom, or Life and Scenes in Japan and Woman's Work for Woman There*, 1st edition, Philadelphia: Presbyterian Board of Publication, 1879.

- ディクソン『朝日の国日本』(JIE Vol. 18 & 19) c.720pp ISBN 4-901481-16-9 ¥39,000-
William Gray Dixon, *The Land of the Morning: An Account of Japan and Its People, Based on a Four Years' Residence in That Country, Including Travels into the Remotest Parts of the Interior*, 1st edition, Edinburgh: Gemmell, 1882.
- フォールズ『9年間の日本滞在記』(JIE Vol. 20) c.310pp ISBN 4-901481-17-7 ¥19,000-
Henry Faulds, *Nine Years in Nipon, Sketches of Japanese Life and Manners*, 1st edition, London: Gardner, 1885.
- マクレイ『日本での仕事と生活の思い出』(JIE Vol. 21) c.450pp ISBN 4-901481-18-5 ¥22,000-
Arthur Collins Maclay, *A Budget of Letters from Japan: Reminiscences of Work and Travel in Japan*, 1st edition, New York: Armstrong, 1886.
- バークリー編『西洋人の日本の印象』(JIE Vol. 22) c.272pp ISBN 4-901481-20-7 ¥19,000-
(Commander) Hastings Berkeley, ed., *Japanese Letters: Eastern Impressions of Western Men and Letters, as Contained in the Correspondence of Tokiwara and Yashiri*, 1st edition, London: Murray, 1891.
- マードック『オーストラリアと日本』(JIE Vol. 23) c.316pp ISBN 4-901481-21-5 ¥19,000-
"A.M." (James Murdoch), *From Australia and Japan*, 1st edition, London: Scott, 1892.
- タルボット『開国前の日本と台湾』(JIE Vol. 41) c.185pp ISBN 4-86166-040-8 ¥19,000-
Watts, Talbot, *Japan and the Japanese: from the most authentic and reliable sources; with illustrations of their manners, costumes, religious ceremonies, &c, the Japanese empire and the people, their costumes, customs and traditions, religious celebrations, folklore &c.*, New York: J.P. Neagle, 1852.
- スポルディング『日本遠征記』(JIE Vol. 42) c.387pp ISBN 4-86166-041-6 ¥24,000-
Spalding, J. Willett, *The Japan expedition, Japan and around the world : an account of three visits to the Japanese Empire : with sketches of Madeira, St. Helena, Cape of Good Hope, Mauritius, Ceylon, Singapore, China, and Loo-Choo*, New York: Redfield, 1855.
- ウィリー『最後の航海 — マレー、琉球、日本、東アジア航海記』(JIE Vol. 43) c.537pp ISBN 4-86166-042-4 ¥28,000-
Habersham, Alexander Wylly, *My last cruise, or, Where we went and what we saw : being an account of visits to the Malay and Loo-Choo Islands, the coasts of China, Formosa, Japan, Kamtschatka, Siberia, and the mouth of the Amoor River*, Philadelphia: J. B. Lippincott & co. , 1857.
- トロンソン『バラクータ号航海記』(JIE Vol. 44) ISBN 4-86166-043-2 c.435pp ¥28,000-
Tronson, John M., *Personal narrative of a voyage to Japan, Kamtschatka, Siberia, Tartary, and various parts of coast of China; in H. M. S. Barracouta*. [1854-1856], London: Smith, Elder & co., 1859.
- ジョンストン『ポーハタン号中国・日本航海記』(JIE Vol. 25) c.460pp ISBN 4-901481-51-7 ¥25,000-
James D. Johnston, *China and Japan: Being a Narrative of the Cruise of the U.S. Steam-Frigate Powhatan, in the Years 1857, '58, '59, and '60; Including an Account of the Japanese Embassy to the United States* (1860).
- ケミッシュ『日本帝国史』(JIE Vol.26) c.310pp ISBN:4-901481-52-5 ¥20,000-
S. B. Kemish, *The Japanese Empire: Its Physical, Political, and Social Condition and History ; with Details of the Late American and British Expeditions* (1860)
- ダギラー夫人『マニラ・日本旅行記』(JIE Vol. 27) c.314pp ISBN 4-901481-53-3 ¥20,000-
Anna D'Almeida [D'Aguillar], *A Lady's Visit to Manilla and Japan* (1863)
- フォーチュン『江戸と北京：英国園芸学者の極東紀行』(JIE Vol. 28) c.428pp ISBN 4-901481-54-1 ¥23,000-
Robert Fortune, *Yedo and Peking: A Narrative of A Journey to the Capitals of Japan and China, with Notices of the Natural Productions, Agriculture, Horticulture, and Trade of Those Countries, and Other Things Met With by the Way* (1863)
- アダムス『博物学者の旅した日本・満州』(JIE Vol. 29) ISBN 4-86166-001-7 c344pp ¥24,000-
Arthur Adams, *Travels of a Naturalist in Japan and Manchuria*, 1870 ed.
- F. O. アダムス『日本幕末維新史』全2巻 (JIE Vol.30 & 31) ISBN 4-86166-002-5 ¥39,000-
Francis Otwell Adams, *The History of Japan, from the earliest period to the present time, Vol. 1: 1853 to 1864, with a sketch of the earlier periods, Vol. 2: 1865 to 1871*, completing the work 1874-5 ed.
- バックス『ドワーフ号航海記』(JIE Vol. 32) c.300pp ISBN 4-86166-003-3 ¥24,000-
Bonham Ward Bax, *The Eastern Seas, Being a Narrative of the Voyage of HMS "Dwarf" in China, Japan, and Formosa* 1875 ed.

セント＝ジョン『日本の沿岸の記録とスケッチ』(JIE Vol. 33) c.416pp ISBN 4-86166-005-X ¥24,000-
Henry Craven Saint John, *Notes and Sketches from the Wild Coasts of Nippon, with Chapters on Cruising after Pirates in Chinese Waters*, 1880 ed.

ホルサム『日本での8年間』(JIE Vol. 34) c.370pp ISBN 4-86166-006-8 ¥24,000-
Edmund Gerald Holtham, *Eight Years in Japan, 1873-1881: Work, Travel, and Recreation*, 1883 ed.

チャールズ・ランマン『日本の指導者伝および日本帝国小史』(JIE Vol. 35) c.422pp ISBN 4-86166-007-6 ¥24,000-
Charles Lanman, *The Leading Men of Japan, with an Historical Summary of the Empire*, 1883 ed.

ディクソン『日本拾遺集』(JIE Vol. 36) c.410pp ISBN 4-86166-008-4 ¥24,000-
Walter G. Dickson, *Gleanings from Japan*, 1889 ed.

メアリー・ピカステス『ピカステス主教の妹の日本紀行文』(JIE Vol. 37) c.370pp ISBN 4-86166-010-6 ¥24,000-
Mary Jane Bickersteth, *Japan as We Saw It*, 1893 ed.

パーマー著『タイムズ特派員の日本からの手紙』(JIE Vol. 38) c.328pp ISBN 4-86166-011-4 ¥24,000-
Henry Spencer Palmer, *Letters from the Land of the Rising Sun, Being a Selection from Correspondence Contributed to "The Times" between the Years 1886 and 1892*, 1894 ed.

◆アジア学レファレンス名著復刻叢書 Reference Library of Asian Studies より◆

モール著『東洋研究の27年』全2巻(フランス語:底本1879-80年刊) ISBN 4-901481-45-2 ¥48,000-
Jules Mohl, *Vingt-sept ans d'histoire des etudes orientales:Rapports faits a la Societe Asiatique de Paris de 1840 a 1867*.

デュガ著『東洋学者列伝』全2巻(フランス語:底本:1868-70年刊) ISBN 4-901481-46-0 ¥36,000-
Gustave Dugat, *Histoire des orientalistes de l'Europe du XIIe au XIXe siecle, precedee d'une esquisse historique des etudes orientales*.

◆国際東洋学会議 会議録 International Congress of Orientalists 1873-1881 より◆

ロンドン大会 1874年 全1巻 512pp ISBN 4-931444-15-6 ¥28,000-
Transactions of the Second Session of the International Congress of Orientalists, Held in London in September 1874
Edited by Robert K. Douglas, London, 1876.

サンクトペテルブルク大会 1876年 全2巻 1432pp ISBN 4-931444-16-4 ¥77,000-
Travaux de la troisieme session du Congres international des orientalistes, St.-Petersbourg 1876
Edited by W. W. Grigorieff & Victor de Rosen, St. Petersburg & Leyden, 1879.

フィレンツェ大会 1878年 全2巻 870pp ISBN 4-931444-17-2 ¥47,000-
Atti del IV congresso internazionale degli orientalisti tenuto in Firenze nel settembre 1878, Florence, 1880-81.

ベルリン大会 1881年 全3巻 1258pp ISBN 4-931444-18-0 ¥72,000-
Verhandlungen des fnften internationalen Orientalisten Congresses gehalten zu Berlin im September 1881, Berlin, 1881-2.

西洋の出会った大琉球

第2期：ペリー来航期から大戦期まで 全5巻

Ryukyu Studies: Western Encounter

Pt.2 : Around-Perry and Post-Perry Material

残部僅少

編集・解説：Patrick Beillevaire, Centre de Recherche sur le Japon, EHESS, Paris

2002年5月刊行 本体セット価¥115,000 (+税) ISBN:4-931444-48-2

- ペリー日本遠征に関する各種の航海記や、英国海軍バックス大佐などの航海記からの抜粋。
- レオン・ド・ロニー、チェンバレン、コルディエやシモンの琉球研究、レブンワースの琉球記等の主要研究文献
- 「世界周遊誌」や様々なアジア研究学術誌に発表された論文
- フランス宣教師メルメ・カシヨンの手紙や、編者がパリ宣教師文書のなかから発見した未公刊資料
- 1879-80年に日清間でおきた統治権をめぐる「琉球問題」に関する英字新聞紙上の報道記事集成(約35記事)

英文日本年鑑

The Japan Year Book:

Complete Cyclopaedia of General Information and Statistics
on Japan and Japanese Territories, 1905-1911

Edited by Takenobu Yoshitarō (武信由太郎) /

Published by The Japan Year Book Office

New Introduction by Peter O'Connor (英文序文:ピーター・オコーノ 武蔵野大学教授)

(『戦前期英文日本年鑑コレクション』シリーズ /

Pre-war Japan: A Collection of Yearbooks in English Series)



第1回配本：1905年～1911年 全6巻

2013年4月刊行 A5判 (原本を約10%拡大)・全約3,900頁 本体セット価¥148,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-160-0

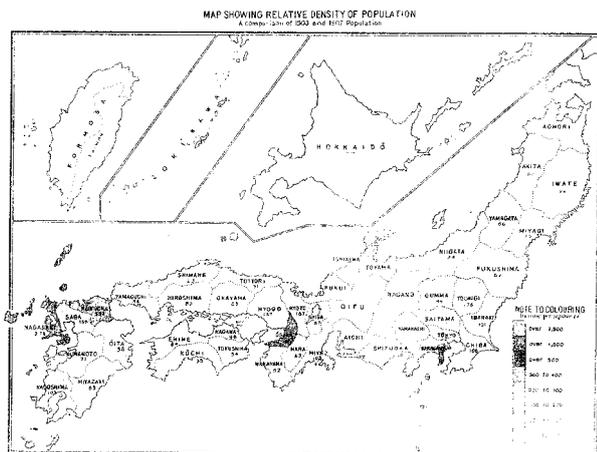
第2回配本：1912年～1917年 全6巻

2015年1月刊行 A5判 (原本を約10%拡大)・全約4,500頁 本体セット価¥168,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-161-7

第3回配本：1918年～1923年 全5巻

2016年11月刊行 A5判 (原本を約10%拡大)・全約4,800頁 本体セット価¥168,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-162-4

- 『ジャパン・タイムズ』を設立し副主筆を務めた武信由太郎(1863-1930)が創刊した、日本初の本格的英文年鑑。
- 武信は官立英語学校卒業後、札幌農学校、横浜英字新聞社などを経て、福澤諭吉ら政財界の後押しで創設された日本人による初の日刊英字新聞『ジャパン・タイムズ』に参画、日本情報の海外への発信に力を注いだ。同時に早稲田大学教授として英語教育の分野でも名を残し、『英語青年』誌の創刊や『武信ポケット新和英辞典』、『武信和英辞典』(研究社・新和英大辞典の前身)など本格的な辞書を編集したことも知られる。
- 本年鑑は1905年に創刊、当初ジャパン・タイムズ社が印刷を請け負っていたことから、同紙と編集、製作面などで連携していたと思われる。
- その後出版社が変わるものの、戦中から戦後まで継続された唯一の英文日本年鑑で、政治、経済、社会、文化などあらゆる分野の動向を各巻500～800頁強にまとめ、詳細な統計資料とともに出版した。台湾、朝鮮、樺太や満州に関する情報も独立した章に掲載された。
- ロンドン、ニューヨークに販売代理店を置き、海外でも広く販売、一時期英国タイムズ紙主宰のブッククラブにも採用され会員に頒布されたこともある。
- Japan Times* とならび20世紀前半の日本人による西洋への情報発信に重要な役割を果たし、当時の海外報道機関なども日本情報源として高く信用、利用した。



●主な執筆者●

- 池田謙三（第百銀行頭取、東京貯蔵銀行頭取を務め、日本興業銀行、台湾銀行の創立に参画。）
 岡村司（明治・大正期の法学者・弁護士。京都帝国大学教授。）
 木下淑夫（鉄道官僚。観光産業の重要性を説き、ジャパン・ツーリスト・ビューロー（日本交通公社）の生みの親となった。）
 呉文聡（統計学者。内務省、農商務省で統計の開発・整備に当たる。）
 桑田熊蔵（社会政策学会を創設した経済学者。中央大教授、内務省社会局参与などをつとめた。）
 煙山専太郎（西洋史学者、政治学者、早稲田大学教授。国際・外交問題専門誌『外交時報』の数多くの論文を寄稿し執筆面を支えた。）
 小崎弘道（牧師。熊本洋学校で学んだ後、同志社に転入、新島襄と出会い伝道をともに行う。霊南坂教会を創設し、同志社第2代社長（総長）、日本組合基督教会会長、日本基督教連盟会長などを務めた。）
 阪田貞一（工学者。欧米で機械工学を研究したのち帰国、東京高等工業学校（東京工業大学）校長をつとめた。）
 阪谷芳郎（大蔵官僚、政治家。大蔵大臣、東京市長、専修大学学長を歴任。）
 佐藤昌介（札幌農学校第1期生としてクラークに学び渡米。新渡戸稲造らと初の農学博士の称号を授与。札幌農学校校長、東北帝国大学総長を歴任後。北海道帝国大学の初代総長。）
 下田次郎（女子教育家。女子高等師範学校（お茶の水女子大学）教授。大日本女子教育会を設立し女子の教育の振興に大きな功績を残した。）
 頭本元貞（伊藤博文や渋沢栄一に重用され国際的に活躍したジャーナリスト。衆議院議員。）
 添田壽一（大蔵官僚、銀行家、官庁エコノミスト。日本法律学校（日本大学）の設立に加わった。）
 高田早苗（政治家、教育者、法学博士。文部大臣、早稲田大学総長などを歴任。）
 武信由太郎（『ジャパン・タイムズ』創設に参画した、明治・大正期を代表する英語学者。早稲田大学教授。日本初の本格的な和英辞典『武信和英大辞典』を編纂した。）
 留岡幸助（感化院教育、社会福祉の先駆者。）
 中松盛雄（特許局長、日本基督教會理事長、化学工業協會会長などを歴任した官僚、弁護士、弁理士。）二階堂保則（統計専門家。内閣統計局で「人口動態調査」や国勢調査局で第1回国勢調査の実施に当たった。人口統計、統計学に関する論著多数。）
 本多静六（林学博士、造園家。東京農林学校（東京大学農学部）教授。日本の「公園の父」といわれ、日比谷公園はじめ明治神宮、北海道の大沼公園、福岡の大濠公園など多数の公演の設計に携わった。関東大震災からの復興の原案作成したことで知られる。）
 和田維二郎（鉱物学者、書誌学者。大学東京大学創設にあたり、ナウマンの助教として理学部地質学科に加わる。農商務省地質局長、鉱山局長、地質調査所所長、東京大学教授を歴任。）

ADVERTISEMENTS



THE BANK OF TAIWAN, Limited.

Incorporated under Special Imperial Charter.

Capital Subscribed - - - Yen 10,000,000
 Capital Paid-up - - - " 6,250,000
 Reserve Funds - - - " 1,880,000

President - - - KAZUOSHI YAMAI, Esq.
 Vice President - - - HOKURO SHIMIZU, Esq.

DIRECTORS.
 ISHITSUKU KAWABARA, Esq., MOTOYASU SUGIYAMA, Esq.,
 IWATE-GOHE SAKAI, Esq.

HEAD OFFICE: Taipei, Formosa (Taiwan).

Branches and Agencies:

Aomori	Chungking	Hankow	Hongkong
Kobe	Kobe	London	Manila
Nagasaki	Peiping	San Francisco	Tientsin
Shanghai	Singapore	Tokyo	Yokohama

LONDON BANKERS:
 Parr's Bank, Ltd. Yokohama Specie Bank, Ltd.

HEAD OFFICE:
 Interest allowed on Current Accounts and Fixed Deposits on terms to be ascertained on application. Every description of Banking business transacted. KURAZO NAGAO, Manager.

* PRESS COMMENT ON THE 1910 EDITION *

DAILY TELEGRAPH (May 26th, 1910) – The work constitutes a most comprehensive cyclopaedia of general information and statistics concerning Japan.

FINANCIAL TIMES (May 30th, 1910) – This very useful manual should be of greater service than ever this year, on the one hand, of the steady expansion of business between Great Britain and Japan and, on the other hand, of the interest which is now being directed to Anglo-Japanese matters by the exhibition at Shepherd's-Bush. ... The book should prove extremely useful to those who desire information with regard to anything "Japanese".

THE TIMES (July 19th, 1910) – Those who are interested in the Japanese Empire will find this little book of great value. It is to a larger extent what it claims to be – namely, "a complete cyclopaedia of general information and statistics on Japan". The editor, Professor Y. Takenobu, of Waseda University, formerly editor of the Japan Times, is a well-known economist and writer. He has apparently spared no pains to include in the fifth annual volume of his publication the most recent data, and in many cases the figures have been brought down to 1909. Not the least important feature of the Japan Year Book is Chapter V., which comprises a "Who's Who in Japan". In the compilation of the Japanese number of The Times frequent reference has been made to Mr. Takenobu's work, and in nearly all instances the information sought has been found.

CHAPTER XXIV

RAILWAYS

The laying of the Tokyo-Yokohama line, a distance of 48 miles, in 1872 by the Government heralded the general activity of railway service in Japan. The work of extension steadily advanced and ten years later the total mileage of state railways reached 214. In 1883 a private railway company was established, and soon others appeared in quick succession. In 1905 the private lines extended long, and the state lines as shown elsewhere. This relation was soon reversed in the following year when several important private lines were converted into state lines in accordance with the Railway Nationalization Programme to be described later on.

GENERAL STATISTICS

At end of March	Mileage open to traffic.			Rolling stocks.		
	State.	Private.	Total.	Locomotives.	Passenger Wagons.	Freight Wagons.
1904	1,241	5,170	6,495	1,544	1,161	22,281
1905	1,276	5,232	6,508	1,641	1,242	24,408
1906	1,318	5,221	6,539	1,747	1,219	25,153
1907	1,318	4,924	6,242	1,827	1,145	25,418
1908	1,452	445	1,897	2,037	1,066	31,009
1909	1,452	477	1,929	2,326	1,015	34,045

1904	State Railways		Private Railway Co's.	
	Cost of Construction (Y. 1,000)	Cost of Operation (Y. 1,000)	End of 1909	Revenue (Y. 1,000)
1904	1,202,250	215, 11	208, 355	6,088
1905	1,111,103	241,004	215,027	6,804
1906	1,010,685	254,609	223,336	8,069
1907	1,051,286	147,840	125,145	3,651
1908	1,485,207	37,384	24,245	448
1909	1,520,973	31,450	27,750	524

戦前期の日本を視覚的に海外に発信した英文写真年鑑

『ジャパン・イラストレイテッド』全10巻

Japan Illustrated, 1934-38

完結

A Year Book of Japan with Official Information and Statistical Data on All Phases of the Empire combined with Special Articles and a Complete Guide Book

Edited by Nippon Dempo News Agency (日本電報通信社)

【復刻版 監修・解説】土屋礼子（早稲田大学政治経済学術院教授）※ 解説書は第1回配本に付録されます。

第2回配本（完結）Japan Illustrated, Part 2: 1937-1938 in 4 volumes

[Pre-war Japan: A Collection of Yearbooks in English, Series 5]

2018年6月刊行 B5判・全約1,300頁 本体セット価：¥128,000-（+税）※ 分売可 ISBN: 978-4-86166-166-2

Volume 7-8 : Japan Illustrated 1937（総676頁、カラー／白黒図版多数）

分売価格：¥68,000-（本体）ISBN: 978-4-86166-201-0

Volume 9-10 : Japan Illustrated 1938（総626頁、カラー／白黒図版多数）

分売価格：¥68,000-（本体）ISBN: 978-4-86166-202-7

- 多数の白黒写真とカラー図版により日本を海外に広く紹介した、豪華英文写真年鑑 *Japan Illustrated* 復刻版が完結。
- 戦前期の日本の国家の宣伝の一端を担った出版物で、時事情報やデータをまとめた一般の「年鑑」の内容に加え、各年後半は *General Guide for Foreign Travellers* と題し、日本の各地を海外に紹介する日本ガイドとなっている。日本ほぼ全土の自然や名所旧跡を地域ごとに紹介、建築、美術工芸品は一部カラー図版も使い掲載し、教育、スポーツや芸術活動など文化的な国家イメージのPRにも多くのページを割き、また外国人外交官や海外からの来日した著名人なども写真入りで報じている。
- 植民地台湾、朝鮮、南方諸島、樺太などに加え、満州に関しては独立したセクションが設けられ産業や人々の生活に関する貴重な写真も多数掲載。
- メディア史、広告史、写真史、観光史などの資料としてのみならず、近代日本史に関するあらゆる側面のデータおよび視覚的資料として利用が可能。



■ Japan Illustrated 第1回配本

Part 1: 1934-1936 全6巻＋別冊解説（既刊・在庫）■

[Pre-war Japan: A Collection of Yearbooks in English, Series 4]

2017年11月刊行 B5判・全約2,650頁

本体セット価：¥168,000-（+税）*分売可 ISBN: 978-4-86166-165-5

Volume 1-2 : Japan Illustrated 1934（総957頁、カラー図版14、白黒図版約多数）

2巻セット分売価：¥68,000-（本体）ISBN: 978-4-86166-198-3

Volume 3-4 : Japan Illustrated 1935（総886頁、カラー図版14、白黒図版多数）

2巻セット分売：¥68,000-（本体）ISBN: 978-4-86166-199-0

Volume 5-6 : Japan Illustrated 1936（総768頁、カラー図版7、白黒図版多数）

2巻セット分売：¥68,000-（本体）ISBN: 978-4-86166-200-3

監修者より

土屋礼子

1934年に日本電報通信社（のちの電通）から創刊された『Japan Illustrated』は、「英文電通年鑑」とも称され、明治末から同社によって刊行された『新聞総覧』や、戦後の『電通広告年鑑』のように長く続いた年鑑類に比べるとあまり知られていないが、この時代の英文年鑑としてひとときわ分厚く豪華な特筆すべき出版物である。

1932年の満州国成立以降、国策通信社・同盟通信創設のため通信部門をもぎ取られることになった電通は、一方で国策に沿うような海外向けの雑誌や書籍を出版しており、この年鑑もその一つである。その内容は、日本の国勢に関する概説と外国人観光客に向けての観光案内を二つの柱として構成されている。先行していた武信由太郎の『The Japan Year Book』に比べると、紳士録に相当する要人名簿がなく、データ類は少ないが、日本への旅に誘うような風景や人物の写真がカラー写真も含めて多く織り込まれているのが特徴である。

太平洋戦争時に制作された連合軍側の宣伝ビラに用いられた写真も散見され、欧米ではこの年鑑が一般的な参考文献として活用されたことが伺える。その意味でも、戦前・戦中・戦後と日本に対する欧米諸国のまなざしを日本側がどのように意識して宣伝していたのか、そして実際どのように編成されたのか、考察するためにも重要な文献だといえる。

Attractions in Gifu prefecture :

- ① A general view of current fishing on the River Nagara
- ② Champion cornucopiants ready for catching the trout
- ③ Foreign tourists in summer kimono enjoying watching this peculiar fishing on the Nagara River
- ④ How cornucopiants are handled
- ⑤ Gifu Park



Japan Illustrated 1937 CONTENTS

VOLUME 7

PART I: A Year Book of Japan

Chapter I: The Imperial Court of Japan

Chapter II : The Influence of Geography on Industry

Chapter III : The Present and Future of the Japanese Population

Chapter IV : Government

Chapter V: Principal Domestic Events

Chapter VI: The Army

Chapter: VII The Imperial Japanese Navy and Naval Limitation

Chapter VIII: Foreign Relations

Chapter IX: The Press

Chapter X: Communications

Chapter XI: Education

Chapter XII: Religion

Chapter XIII: Social Work

Chapter XIV: Patents

Chapter XV: Olympic Games (The 1940 Olympic Games to be Held in Tokyo)

Chapter XVI: Finance

Chapter XVII: Economic Affairs

Chapter XVIII: Aviation

Appendix: The Constitution / The Imperial House Law / Diplomatic Representatives in Tokyo / The German-Japanese Agreement Against the Comintern

VOLUME 8

PART II General Guide for Foreign Travellers

Chapter I: Kwanto and Tohoku

Chapter II: Chubu Region

Chapter III: Kinki Region

Chapter IV: Chugoku Region

Chapter V: Shikoku Region

Chapter VI: Kyushu Region

Chapter VII: Hokkaido

Chapter VIII: Overseas Possessions: Chosen / Taiwan / Karafuto / Kwantung Province / South Sea Islands

ILLUSTRATIONS IN COLOURS (The Flowers of the Field, by Taikwan Yokoyama / In Search of Autumnal Beauty / A Multi-coloured Pot, by Ninsei Nonomura / Kirishima Azalea / Iris Garden / Flower and Birds, by a Master of the Kano School)

SUPPLEMENT ON MANCHOUKUO

Chapter I: Introduction (March of Progress / Government and Foreign Affairs / Area and Population / Judiciary / Local and Municipal Administration)

Chapter II: Finance

Chapter III: Currency and Banking

Chapter IV: Economy and Industry

Chapter V: Transportation and Communications

APPENDICES (Japan's Declaration on Abolition of Extrality / Exchange Control Law / Manchoukuo-German Trade Agreement / Japan-Manohoukuo Treaty on Extrality / Supplementary Agreement / Foreign Trade Statistics)

INDEX TO ADVERTISERS

ジャパン・ウィークリー・メール

The Japan Weekly Mail, 1870-1917 in 135 vols.

【総発売元 紀伊國屋書店】

横浜開港資料館の協力により 2005 年より刊行が開始されました、英字新聞 *The Japan Weekly Mail* の復刻版全 135 巻が完結いたしました。同資料館が収集した原本に、本復刻刊行中に発見された号も加え、わずかの未発見頁をのぞきほぼ全号が原寸サイズにて収録され、各巻の見出し語一覧が別冊にて付録されています。

明治 2 年に横浜で創刊後、1917 年に *Japan Times* 紙に吸収されるまで、日本の西洋列強入りを支援し、西洋各国との不平等条約の解消など政治、外交上の影響力を発揮したこの新聞には、外国商社や国内貿易会社を始めとした企業情報や輸出入統計、そしてハーン、サトウ、チェンバレンなど西洋人ジャパノロジストの日本研究やヨネ・ノグチのような西洋に向け日本を発信した日本人作家の英文寄稿も多数掲載され、まさに明治・大正期の日本の対外発信を担ったメディアといえます。

多様な側面からの日本研究が国内外で進む今日、近代日本の国際化の原点ともいえる本資料を是非広く研究・教育にご活用ください。

○明治期を代表する日本発の英字新聞を、横浜開港資料館所蔵のコレクションに加え海外から提供された号も含め、ほぼ全号を復刻。
○経済、貿易などの貴重なデータや居留地の情報に加え、政治・外交・社会の問題について西洋ジャーナリズムならではの視点で日本を海外に発信した。
○お雇い外国人やジャパノロジストの日本研究の場としても機能し、投稿欄での論争や日本アジア協会での討議など、当時の西洋人日本研究者・愛好家の生の声が紹介された。
○日本の近代化と西洋の関係史やメディア史研究には必携の資料。

推薦のことば

日本近代史再叙述のために

東京大学各名誉教授・京都造形芸術大学名誉学長 芳賀 徹

「その明治初年から大正半ばまで、約半世紀の日英間の政治・経済・文化の面での相互交渉を、週ごとに、ときには日ごとに、記録するのが、このたび復刻の『ジャパン・ウィークリー・メール』である。この時期ほど日本社会が急激な変化を経験したことはかつてなかった。それに応じて西欧側の日本認識も、この新聞ではおおむね好意的だったとはいえ、刻々に変転した。この復刻版によって、在日欧米人の日本像の変遷を克明にたどるのは、日本近代史再叙述のために、まことに意義深く、また楽しかろう。」

質量ともに他紙を圧倒

横浜市立大学名誉教授・前学長 加藤祐三

「十九世紀中頃に来日した欧米人や中国人がどのように日本に受容されていたか、彼らが新生日本をどう見ていたか、それを世界史のなかで（とくに日中を対比しつつ）位置づけること、このあたりに私の関心がありました。そのための膨大な一次文献を探す過程で、横浜刊行の英字新聞に注目した次第です。いくつもの英字新聞が外国人により発刊されていましたが、今回復刻出版される *Japan Weekly Mail* は、政治・経済のみならず、日本の社会・文化に関する報道に高い比重を置く編集方針を取っており、その内容は質量ともに他紙を圧倒しています。日本の近代化や対外関係を社会史・政治史・文化史の各方面から分析する上でも、貴重な材料を提供してくれそうです。原本を系統的に蔵する図書館が限られている中で、各方面で本紙活用の試みがあると聞きます。今回の復刻により、この貴重な資料が広く共有・活用されることを願ってやみません。」

『ジャパン・ウィークリー・メール』の復刻出版を心から歓迎

近代日本研究者 廣瀬靖子

「関東大震災や第二次世界大戦の戦災で外字紙の多くは失われましたが、そうした中で本紙ジャパン・ウィークリー・メールが、短命紙は別として最もよく残っているのは、ジャパン・タイムズの後身から出発し変動を経ながら代表的な外字紙へ発展を遂げたこの新聞の声価と内実の然らしめる所と言えましょう。ただ、その本紙にしても、私の渉猟当時国内に全号揃いで所蔵は見当りませんでしたし、更に言えば、大体外字紙はどこでも殆ど利用されず、死蔵に等しいというのが実情でした。近年、歴史研究や問題意識の多様化に伴い外字紙もどんどん利用されるようになり、悦ばしい限りです。」

明治維新时期から近代化する日本の情報を 世界に発信しつづけた英字新聞 創刊号からの全巻復刻、ついに完結

◆シリーズ既刊◆ ～好評発売中～

第1回配本：1870～1874全10巻＋別冊

● ¥331,429- (+税) ●2010年9月増刷 ●約4,850頁 ●ISBN: 978-4-86166-020-7
別冊：『ジャパン・ウィークリー・メール』について
斎藤多喜夫（元横浜開港資料館調査研究員）＋記事見出し索引

第2回配本：1875～1879全13巻＋別冊

● ¥331,429- (+税) ●2010年10月増刷 ●約7,060頁 ●ISBN: 978-4-86166-021-4
別冊：「初期『ジャパン・ウィークリー・メール』と明治政府」
浅岡邦雄（中京大学）＋記事見出し索引

第3回配本：1880～1884全12巻＋別冊

● ¥379,048- (+税) ●2007年10月刊行 ●約6,990頁 ●ISBN: 978-4-86166-022-1
別冊：「英字新聞の船舶情報欄」
伊藤久子（元横浜開港資料館調査研究員）＋記事見出し索引

第4回配本：1885～1889全10巻＋別冊

● ¥379,048- (+税) ●2008年9月刊行 ●約6,300頁 ●ISBN: 978-4-86166-023-8
別冊：「日本文学ことはじめ—『ジャパン・ウィークリー・メール』に於いて」
生野椋子（鶴見大学名誉教授）＋記事見出し索引

第5回配本：1890～1894全14巻＋別冊

● ¥379,048- (+税) ●2010年9月刊行 ●約7,200頁 ●ISBN: 978-4-86166-024-5
別冊：「明治初期生糸取引における横浜外国商人の実相—居留地貿易史料としての『ジャパン・ウィークリー・メール』」
井川克彦（日本女子大学教授）＋記事見出し索引

第6回配本：1895～1899全13巻＋別冊

● ¥379,048- (+税) ●2010年9月刊行 ●約7,700頁 ●ISBN: 978-4-86166-025-2
別冊：「明治初期の『ジャパン・メール』と『横浜毎日新聞』」上田由美（横浜開港資料館調査研究員）＋記事見出し索引

第7回配本：1900～1903全12巻＋別冊 ※在庫切れ

●2011年11月刊行 ●約5,700頁 ●ISBN: 978-4-86166-138-9 別冊：記事見出し索引

第8回配本：1904～1906全12巻＋別冊

● ¥331,429- (+税) ●2012年9月刊行 ●約4,700頁 ●ISBN: 978-4-86166-139-6 別冊：記事見出し索引

第9回配本：1907～1909全12巻＋別冊

● ¥331,429- (+税) ●2013年10月刊行 ●約4,950頁 ●ISBN: 978-4-86166-140-2 別冊：記事見出し索引

第10回配本：1910～1912全12巻＋別冊

● ¥331,429- (+税) ●2014年10月刊行 ●約4,950頁 ●ISBN: 978-4-86166-141-9 別冊：記事見出し索引

第11回配本：1913 - Oct. 1917全15巻＋別冊

● ¥405,556- (+税) ●2015年10月刊行 ●約6,500頁 ●ISBN: 978-4-86166-142-6 別冊：記事見出し索引



F. プリンクリー（Japan Punchより）
1881年にジャパン・メール社社主となる。後にロンドン・タイムズの東京通信員も兼任し、ジャパン・ウィークリー・メールに黄金期をもたらす。

西洋の論じた日中・太平洋戦争

同時代英語文献復刻シリーズ

第1回配本：太平洋戦争 戦前期編 全6巻

【編集・解説】 ロジャー・バックリー（元国際基督教大学教授）

Wars and Rumours of War - Japan, the West and Asia Pacific, 1918-1945

Selected Contemporary Readings on Crises and Conflict, Series I: 1918-1937

Edited and Introduced by **Roger Buckley**, Former Professor of International Christian University, Tokyo

Foreword by **Anthony Best**, London School of Economics

2016年1月刊行 全約3,600頁 本体セット価¥148,000-（+税） ISBN: 978-4-902454-91-8

第二次世界大戦後70年を迎え、歴史学をはじめ、政治学や国際関係学分野でも多様な太平洋戦争研究が盛んになっていますが、公文書や様々な一次資料を扱いつつこの戦争に至った経緯や原因などに関する重要な歴史研究が展開している一方、この時代に海外からどのような視線が日本や極東アジアに向けられ、戦時色の強まるこの地域に関して世界全体でどのような議論がなされていたのかについて、同時代に海外で読まれていた文献を検証しての研究はまだ充分になされてはいないと言えます。本コレクションは、今後国内外でより深い研究対象となると思われるこのテーマに関しての文献を広く集め、時代別に2回配本、各6巻、合計12巻の研究資料集として提供するものです。

■第1回配本：日中・太平洋戦争戦前期編（全6巻）収録文献■

Foreword by **Anthony Best**

Preface & Acknowledgements

Introduction: 'The Rise and Fall of the Coming Power of Asia', by **Roger Buckley**

VOLUME 1: JOURNALS

- 1-1 G. Shibata, What Japan is Thinking, *The New Republic*, 13 July 1918, pp. 313-315
- 1-2 James Thayer Addison, The Value of Japanese Promises, *The New Republic*, 17 September 1919, pp. 202-205
- 1-3 John Dewey, The American Opportunity in China, *The New Republic*, 3 December 1919, pp. 14-17
- 1-4 Masujiro Honda, National, Racial and International Sentiments: Japanese-Chinese-American Relations in the League of Nations, *The Journal of International Relations*, 10, 3, January 1920, pp. 245-250
- 1-5 Payson J. Treat, The Shantung Issue, *The Journal of International Relations*, 10, 3, January 1920, pp. 289-312
- 1-6 Benny Kumar Sarkar, The International Fetters of Young China, *The Journal of International Relations*, 11, 3, January 1921, pp. 347-368
- 1-7 Kenneth Scott Latourette, Japan and America, *The Journal of International Relations*, 12, 1, July 1921, pp. 14-26
- 1-8 Frederick Moore, The Washington Conference and the Foreign Policies of Japan, *The Journal of International Relations*, 12, 4, April 1922, pp. 474-484
- 1-9 B, anonymous, The Situation in the Far East, *Foreign Affairs*, June 1923
- 1-10 Stanley K. Hornbeck, Has the United

States a Chinese Policy?, *Foreign Affairs*, 5, 4, July 1927, pp. 617-632

- 1-11 Hiram Bingham, New China's Political Bible, *Foreign Affairs*, 6, 2, January 1928, pp. 203-216
- 1-12 K. K. Kawakami, Manchuria: The Crux of Chino-Japanese Relations, *Foreign Affairs*, 6, 3, April 1928, pp. 379-394
- 1-13 Franklin D. Roosevelt, Our Foreign Policy: A Democratic View, *Foreign Affairs*, 6, 4, July 1928, pp. 573-586
- 1-14 Harold S. Quigley, Foreign Concessions in Chinese Hands, *Foreign Affairs*, 7, 1, October 1928, pp. 150-155
- 1-15 Walter H. Mallory, China's New Tariff Autonomy, *Foreign Affairs*, 7, 3, April 1929, pp. 497-499
- 1-16 Comparative Naval Strengths, *Foreign Affairs*, 7, 3, April 1929, pp. 500-501
- 1-17 Nathaniel Peffer, What Next in China? I. Relations with the Great Powers, *The New Republic*, 17 July 1929, pp. 225-227
- 1-18 Harold S. Quigley, The United States in the Pacific: A Survey of the Relations of the United States with China and American Opinion Thereon. August 1, 1927 - June 1, 1929, *Pacific Affairs*, 2, 8, August 1929, pp. 470-495
- 1-19 K.K. Kawakami, The Russo-Chinese Conflict in Manchuria, *Foreign Affairs*, 8, 1, October 1929, pp. 52-68
- 1-20 Walter Lippmann, The London Naval Conference: An American View, *Foreign Affairs*, 8, 4, July 1930, pp. 499-518
- 1-21 Editorial, The Stimpson Letter, *The New Republic*, 9 March 1932, pp. 85-87

1-22 P., Communism in China, *Foreign Affairs*, 9, 2, January 1931, pp. 310-316

- 1-23 Yusuke Tsurumi, Japan in the Modern World, *Foreign Affairs*, 9, 2, January 1931, pp. 254-265
- 1-24 A. Lawrence Lowell, Manchuria, the League, and the United States, *Foreign Affairs*, 10, 3, April 1932, pp. 351-368
- 1-25 Kikujiro Ishii, The Permanent Bases of Japanese Foreign Policy, *Foreign Affairs*, 11, 2, January 1933, pp. 220-229
- 1-26 E.M. Gull, Second Thoughts on the Lytton Report, *Transactions of The Japan Society London*, Vol. XXX, 1933, pp. 39-51
- 1-27 Yosuke Matsuoka, Speech to Japan Society, *Transactions of The Japan Society London*, 1933, pp. 4-7
- 1-28 William V. Pratt, The Setting for the 1935 Naval Conference, *Foreign Affairs*, 12, 4, July 1934, pp. 541-552
- 1-29 Political Parties of Japan in Critical Period, *Japan Today and Tomorrow*, No. 7, 1933/34, pp. 56-57
- 1-30 Bosworth Goldman, China Old and New, *The Spectator*, 21 December 1934, p. 970
- 1-31 Kichisaburo Nomura, Japan's Demand for Naval Equity, *Foreign Affairs*, 13, 2, January 1935, pp. 196-203
- 1-32 Nathaniel Peffer, We Drift Toward War in the Orient, *The New Republic*, 20 March 1935, pp. 154-156
- 1-33 Walter Lippmann, Britain and America: The Prospects of Political Cooperation in the Light of Their Paramount Interests, *Foreign Affairs*, 13, 3, April 1935, pp. 363-372

- 1-34 A.J. Grajdanzev, Profit and Loss in Manchuria, *Pacific Affairs*, 8, 2, June 1935, pp. 144-158
- 1-35 Hector C. Bywater, Japanese and American Naval Power in the Pacific, *Pacific Affairs*, 8, 2, June 1935, pp. 168-175
- 1-36 Reijiro Wakatsuki, The Aims of Japan, *Foreign Affairs*, 13, 4, July 1935, pp. 583-594
- 1-37 Nathaniel Peffer, America: The Jellyfish of the Pacific, *Pacific Affairs*, 8, 3, September 1935, pp. 284-291
- 1-38 Frederick Whyte, The Institute of Pacific Relations and the Crisis in the Far East, *Pacific Affairs*, 9, 1, March 1936, pp. 5-12
- 1-39 Guenther Stein, Through the Eyes of a Japanese Newspaper Reader, *Pacific Affairs*, 9, 2, June 1936, pp. 177-190
- 1-40 Norman H. Davis, The New Naval Agreement, *Foreign Affairs*, 14, 4, July 1936, pp. 578-583
- 1-41 George E. Taylor, The Powers and the Unity of China, *Pacific Affairs*, 9, 4, December 1936, pp. 532-543
- 1-42 Hu Shih, The Changing Balance of Forces in the Pacific, *Foreign Affairs*, 15, 2, January 1937, pp. 254-259
- 1-43 Freda Uitley, Population and Conquest, *Pacific Affairs*, 10, 1, March 1937, pp. 16-30
- 1-44 William Henry Chamberlin, Naval Bases in the Pacific, *Foreign Affairs*, 15, 3, April 1937, pp. 484-494
- 1-45 Yosuke Matsuoka, The South Manchuria Railway Company: Its Great Mission and Work, *Contemporary Manchuria*. Vol. 1, No.1, April 1937, pp. i-ii, 1-14
- 1-46 Bruno Lasker, Propaganda as an Instrument of National Policy, *Pacific Affairs*, 10, 2, June 1937, pp. 152-160
- 1-47 Ching-Chun Wang, China Still Waits the End of Extraterritoriality, *Foreign Affairs*, 15, 4, July 1937, pp. 745-749
- 1-48 Gregory Bienstock, Japan and the Future of Europe, *The Spectator*, 27 August 1937, p. 339
- 1-49 Robert S. Morton, Japan and China: A War of Minds, *Pacific Affairs*, 10, 3, September 1937, pp. 305-314
- 1-50 Jonathan Mitchell, Roosevelt's Far Eastern Policy, *The New Republic*, 15 September 1937, pp. 147-148
- 1-51 Ralph Morton, Manchuria: After Six Years, *The Spectator*, 24 September 1937, p. 498
- 1-52 Nathaniel Peffer
The Price of Japanese Imperialism, *Foreign Affairs*, 16, 1, October 1937, pp. 21-33
- 1-53 Franz Michael, Japan's 'Special Interests' in China, *Pacific Affairs*, 10, 4, December 1937, pp. 407-411
- 1-54 A. Morgan Young, The Press and Japanese Thought, *Pacific Affairs*, 10, 4, December 1937, pp. 412-419
- VOLUME 2: JAPAN**
- 2-1 Kojiro Sato, *If Japan and America Fight*, 1921, pp. 1-10, 179-189
- 2-2 K.K. Kawakami, *What Japan Thinks*, 1921, pp. 1, 5-9, 93-141, 160-170
- 2-3 Vice Admiral Tetsutaro Sato, Japan's Navalism, *What Japan Thinks*, 1921, K.K. Kawakami (ed.), pp. 93-103
- 2-4 Henry Satoh, Militarism and Navalism in America, *What Japan Thinks*, 1921, K.K. Kawakami (ed.), pp. 104-131
- 2-5 Premier Takashi Hara, Harmony between East and West, *What Japan Thinks*, 1921, K.K. Kawakami (ed.), pp. 132-141
- 2-6 Marquis Shigenoru Okuma, Illusions of the White Race, *What Japan Thinks*, 1921, K.K. Kawakami (ed.), pp. 160-170
- 2-7 The Japanese Association in China, *Presenting Japan's Side of the Case*, 1931, pp. iii, v-vii, 1-77
- 2-8 Motosada Zumoto, *Sino-Japanese Entanglements, 1931-1932, a military record*, 1932, pp. title, copyright, i-iii, 7-29, 71-79, 105-145, 174-185, 204-231, 291-302
- 2-9 K.K. Kawakami, *Japan Speaks on the Sino-Japanese Crisis*, 1932, pp. iii-xvi, 1, 21-39, 85-118, 131-184
- 2-10 Ambassador to USA Hirohi Saito, *Japan's Policies and Purposes*, 1935, pp. iii-xi, 1-56, 82-102, 118-152, 216-224
- 2-11 Tatsuji Takeuchi, *War and Diplomacy in the Japanese Empire*, 1935, pp. iii-xix, 9-21, 337-421
- VOLUME 3: CHINA-PART I**
- 3-1 Ge-Zay Wood, *The Shantung Question*, 1922, pp. contents, 13-17, 102-117, 213-265
- 3-2 Shuhsi Hsu, *Essays on the Manchurian Problem*, 1932, pp. xxiv + 150
- 3-3 Edwin Lo-Tien Fang, *Manchuria: A Second Korea?*, 1934, pp. iii, 58-213
- 3-4 E. Krueger, Sino-Japanese Relations Reviewed, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 575-586
- 3-5 A Commentator, Sino-Japanese War in Shanghai, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 609-627
- 3-6 C.L. Hsia, Some Pre-Requisites to the Shanghai Neutralisation Scheme, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 629-641
- 3-7 Harry Paxton Howard, Japan's Claim to Combat Bolshevism in China, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 659-673
- 3-8 Wang Chung-hui, Symposium on the Sino-Japanese Conflict: How America Can Support China, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 691-694
- 3-9 Alfred S. K. Sze, Symposium on the Sino-Japanese Conflict: Boycotting Japanese Goods, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 697-699
- 3-10 Madame Chiang Kai-shek, Symposium on the Sino-Japanese Conflict: China Fights for Freedom, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 699-702
- 3-11 T. V. Soong, Symposium on the Sino-Japanese Conflict: Isolation and Constructive Pacifism, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 702-704
- VOLUME 4: CHINA-PART II**
- 4-1 Edward Bing-Shuey Lee [Li, Ping-ju], *Two Years of the Japan-China Undeclared War And the Attitude of the Powers*, 2nd Edition, Shanghai: The Mercury Press, 1933. With forewords by Sun Fo, Hu Han-Min, C.T. Wang, Lo Wen-Kan, C.C. Wu & Wellington Koo and Introduction to 2nd Edition by Eugene Chen, pp. xxiv+613+8 maps + 45 pages of illustrations
- VOLUME 5: USA**
- 5-1 Yamato Ichihashi, *The Washington Conference and After* [extracts], Stanford University Press, 1928
- 5-2 Sherwood Eddy, *The World's Danger Zone* [extracts], Farrar & Rinehart, New York, 1932
- 5-3 Frederick Field, *Battle of the Bankers, Empire in the East*, 1934, Joseph Barnes (ed.), pp. iii-vii, map, 149-181
- 5-4 Pearl Buck, *Missionaries of Empire, Empire in the East*, 1934, Joseph Barnes (ed.), pp. 241, 254-266
- 5-5 Nathaniel Peffer, *Peace or War, Empire in the East*, 1934, Joseph Barnes (ed.), pp. 297-318
- 5-6 Walter Millis, *The Future of Sea Power in the Pacific*, 1935, pp. cover, inner cover, 1-51
- 5-7 E.E.N. Causton, *Militarism and Foreign Policy in Japan*, 1936, pp. title, contents, 131-183
- 5-8 Eleanor Tupper and George McReynolds, *Japan in American Public Opinion*, 1937, pp. iii, vii-xiii, xvii-xix, 112-169, 240-454
- VOLUME 6: UK**
- 6-1 An Ex Counsellor of legation in the Far East [Sidney Osborne], *The Problem of Japan*, 1918, pp. cover, i-viii, 1-272
- 6-2 Hector C. Bywater, *The Great Pacific War: A History of the American-Japanese Campaign of 1931-33*, 1925, pp. iii-ix, 1-14, 297-304
- 6-3 Lieut-Colonel P.T. Etherton & H. Hessel Tiltman, *The Pacific: A Forecast*, 1928, pp. iii, iv, vii-ix, 149-199
- 6-4 Hugh Latimer, *Naval Disarmament: A Brief Report*, 1930, pp. i-x, 1-112
- 6-5 Hessel Tiltman, *The Far East Comes Nearer*, 1937, pp. 3-6, 97-121, 181-199, 324-337

西洋の論じた日中・太平洋戦争

同時代英語文献復刻シリーズ

第2回配本：太平洋戦争 戦中期編 全6巻

【編集・解説】ロジャー・バックリー（元国際基督教大学教授）

Wars and Rumours of War - Japan, the West and Asia Pacific, 1918-1945

Selected Contemporary Readings on Crises and Conflict, Series II: 1941-1945

Edited and Introduced by Roger Buckley, Former Professor of International Christian University, Tokyo

Foreword by Anthony Best, London School of Economics

2017年3月刊行 全約3,600頁 本体セット価¥118,000- (+税) ISBN: 978-4-902454-91-8

■第2回配本：日中・太平洋戦争戦中期編（全6巻）収録文献■

Foreword by AKIRA IRIYE

Introduction “The End of Western Supremacy in Asia” by ROGER BUCKLEY

VOLUME I: JAPAN

- 1-1 Hikomatsu Kamikawa, *The Bolshevization of Asia, Contemporary Japan*, December 1937, 393-404
- 1-2 Ujiro Ohyama, *The American Position: Cat'spaw or Common Sense, Contemporary Japan*, December 1937, 464-474
- 1-3 Lt-Comdr Tota Ishimaru, I.J.N., *Japan Must Fight Britain*, The Paternoster Library, no. XI, 1937, 288pp.
- 1-4 Dr Kazutami Ukita, *Humanity at the Crossroads, Dai Nippon 1938*, 1938, 26-33
- 1-5 Shingoro Takaishi, *Japan Speaks Out*, 1938, ii, iii, v-ix, 1-73, 93-128, 135-147, 151-159
- 1-6 Yosuke Matsuoka, *Building Up Manchuria*, 1938, i-ii, 1-6, 1-2, 1-2, 2pp, 1-11, 28-35, 48-89, 103-116, 126-135, 173-213, 227-236
- 1-7 Shigemitsu, Shigemitsu speech, *Proceedings of the Japan Society London*, xxxvi, 1939, xviii-xxii
- 1-8 Viscount Kano, Viscount Kano speech, *Proceedings of the Japan Society London*, xxxvi, 1939, xxv-xxix
- 1-9 Yakichiro Suma, *Where Japan Stands: Addresses Delivered in America on the Sino-Japanese Conflict*, 1940, 49-76, 196-201, 214-225
- 1-10 Kinaoki Matsuo, trans Kilsoo K. Haan, *How Japan Plans to Win*, 1942, cover, iii-xxiv, 1-46, 196-201, 202-226, 234-323

VOLUME II: CHINA

- 2-1 Shuhsi Hsu, *The War Conduct of the Japanese*, 1938, 217pp.
- 2-2 Stephen C.Y. Pan, *American Diplomacy Concerning Manchuria*, 1938, i-iii, xix, 293-346
- 2-3 D.K. Lieu, *The Sino-Japanese Currency War, Pacific Affairs*, December 1939, 413-426
- 2-4 Chiang Kai-shek, *Crimes and Corruption of the Japanese Militarists*, 7 July 1940, 15pp.

- 2-5 Tan Pei-Ying, *The Building of the Burma Road*, 1945, prelims + map (7), 24-25, 37-60, 194-200
- 2-6 Chiang Kai-shek, *The Northeast - Fourteen Years After*, 18 September 1945
- 2-7 F.C. Jones, *Shanghai and Tientsin: with special reference to foreign interests*, 1940, cover, ii-iii, vii-xxxii, 1-9, 18-20, 36-49, 57-83, 87-93, 104-105
- 2-8 Eugene Staley (International Labour Office), *World Economic Development: Effects on Advanced Industrial Countries*, 1944, 68-75, 94-104
- 2-9 Gunther Stein, *The Challenge of Red China*, 1945, extracts

VOLUME III: USA [1]

- 3-1 Julia E. Johnsen, *Chinese-Japanese War, 1937-*, 1938, 1-21, 66-74, 87-93, 99-111, 132-133, 147-161, 180-183, 188-197, 220-223, 255-257
- 3-2 William Henry Chamberlin, *Japan Over Asia*, 1938, i-xii, 13-72, 122-146, 302-318
- 3-3 John Gunther, *Inside Asia*, 1939, 1-92, 102-134, 234-249
- 3-4 James Farquharson Leys, *The Better Earth*, 1940, i-v, 43-45, 97-101, 109-114
- 3-5 Chitoshi Yanaga, *Recent Trends in Japanese Political Thought, Pacific Affairs*, June 1940, 25-127
- 3-6 Charles B. Fahs, *Government in Japan: Recent Trends in its Scope and Operation*, 1940, xi-xiii, xv, 3-61, 81-89
- 3-7 Lawrence K. Rosinger, *Soviet Far Eastern Policy, Pacific Affairs*, 13, 3, September 1940, 263-278
- 3-8 William Henry Chamberlin, *Japan in China*, 1940, 7-43, 44-74, 127-143

VOLUME IV: USA [2]

- 4-1 Claude A. Buss, *War and Diplomacy in Eastern Asia*, 1941, 42-195, 499-550
- 4-2 William H. Taylor and Robert A. Brady, *Policy Centralization in Japan Under the Kokutai Principle, Pacific Affairs*, 14, 1, March 1941, 51-77

シリーズ

欧米ジャーナリストの記した近代日本・中国・東アジア

Western Journalists on Japan, China and Greater East Asia

【編集・解説】 Peter O'Connor (ピーター・オコーノ 武蔵野大学教授)

第1 回配本：欧米ジャーナリストの記した戦前期日本

残部僅少 16 文献 合本 10 巻

Western Journalists on Japan, China and Greater East Asia, Series 1: Japan 1897-1942

2012 年 12 月刊行 約 4,000 頁 本体セット価 ¥168,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-171-6

西洋列強に対抗し東アジア各地の植民地化を進めた日本は、当時の西洋メディアが最も力を注いだ報道対象の地域の一つで、多くのジャーナリストが日本・アジアを舞台に積極的な報道合戦を繰り広げました。彼らの中には日本の立場に好意的で、その言論が日本政府に利用される者から、中国を擁護し反日報道を西洋向けに発信する者まで、それぞれ異なる主義、主張を持ち活動を続けました。弊社ではこれまでに、この時代の日本に関する西洋文献を、『ジャパニーズ・プロパガンダ』(全 20 巻)、『日本批判』(全 20 巻)のシリーズにまとめてまいりましたが、新たに企画されたシリーズでは、戦前・戦中期に活躍した西洋人ジャーナリストによる著述を、時代、地域別に編集復刻いたします。全 40 巻中に 60～70 点の文献を収録する予定で、日本だけでなく中国や東アジア全体に関する文献も幅広く対象とし、中国や日本の英字新聞社からの出版物も含まれます。また、女性ジャーナリストによる著作のみをまとめたコレクションも第 2 回に配本予定です。

2012 年秋刊行の第 1 回配本は、戦前期に日本を主な拠点として活動した英米ジャーナリスト 14 名の日本に関する著作集です。幕末維新から 19 世紀末に出版された西洋人の日本関連書の多くが、旅行家やジャパノロジストによる日本文化への憧憬から著されていたのに対し、19 世紀末から 20 世紀前半のこれらの日本関連書は、ジャーナリストならではの冷徹な視線で世界の一員となった日本を語り、その多くが太平洋戦争へとつきすすむ日本を批評的に論じています。

戦前の日本と中国、東アジアや西洋の関係、国際政治とメディアの関わりなどの包括的研究の資料集として、広くご活用ください。

■収録文献■

VOL. 1: General Introduction: Peter O'Connor

Young, Robert, 'The Case of the Foreign Residents in Japan'. In *The Nineteenth Century*, Vol. XLII, 1897, London: Sampson, Low, Marston & Stebbing, 1897.

Gallagher, Patrick, *America's Aims and Asia's Aspirations*, New York: The Century Co., 1920.

VOL. 2: Pooley, A.M., *Japan at the Cross Roads*, London: George Allen & Unwin Ltd., 1917.

Mason, Gregory, *Japan, Germany, Russia and the Allies. An Authorized Interview with Count Masataka Terauchi, Premier of Japan*, New York: *The Outlook*, May 1918, pp18-22.

Henry W. Kinney, *Japan Since the Earthquake, A Series of articles on recent developments. Peking Leader Reprints No.6*, Peking: Peking Leader Press, 1925.

VOL. 3: *Japan Chronicle, The Great Earthquake of September 1st 1923*, Kobe: The Japan Chronicle, 1923.

Young, Douglas M. (ed.), *Kobe - The Premier Port of Japan. Illustrated. Issued in Commemoration of the First Port Festival, November 1933*, Kobe: Kobe and Osaka Press Ltd., 1933.

VOL. 4: Captain Kennedy, Malcolm, *The Problem of Japan*, London: Nisbet & Co., 1935.

Kennedy, M.D., *Behind the News in Tokio*, London: Transactions and Proceedings of The Japan Society, Vol. XXXIII, 45th Session, 1935-1936, [pp.93-09].

VOL. 5: Price, Willard, *Children of the Rising Sun*, New York: National Travel Club, 1938.

VOL. 6: Oliver, Frank, *Special Undeclared War*, London: Jonathan Cape, 1939.

VOL. 7: Young, A. Morgan, *The Rise of a Pagan State. Japan's Religious Background*, London: George Allen and Unwin, 1939.

May, Henry John, *Little Yellow Gentlemen*, London, Toronto, Melbourne and Sydney: Cassell, 1937.

VOL. 8: Chamberlin, William Henry, *Japan Over Asia*, London: Duckworth, 1938.

VOL. 9: Fleisher, Wilfrid, *Volcanic Isle*, New York: Doubleday Doran and Company, 1941.

VOL. 10: Abend, Hallett, *Japan Unmasked*, London: The Bodley Head, 1941.

第2回配本

女性ジャーナリストの記した戦前・戦中期の 日本・中国・東アジア 11文献 合本10巻

Western Journalists on Japan, China and Greater East Asia,
Series 2: Pioneering Women Journalists, 1919-1949

編集・解説：Peter O'Connor（武蔵野大学教授） 序文：土屋礼子（早稲田大学教授）

2014年5月刊行 約4,150頁 本体セット価¥198,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-172-3

戦前・戦中期に活躍した西洋人ジャーナリストによる日本・アジア関連著述を復刻集成するシリーズの第2回配本は、20世紀前半に東アジアからの報道の場で活躍した、英米女性ジャーナリストたちの著作を集めます。19世紀後半、社会的に自立し、活動の場を世界に求めた欧米の「新しい」女性たちは、当初、教師、宣教師や看護婦などの職につきアジアやアフリカの植民地を目指しますが、20世紀に入ると国際報道に職を得て、ジャーナリストとして世界各地で活躍する女性たちが現れます。彼女たちの内には新聞・雑誌社の記者として中国や日本に派遣され、様々な記事を送ると同時に、その経験や見聞を執筆、単行本として出版した者もいました。

本コレクションではそのような女性ジャーナリスト11名による著書15点を復刻集成します。戦前、戦中期に東アジアの最前線に身を投じた彼女たちは、当時の政治情勢だけでなく、社会の内面へもより強い関心を持ち、幅広い問題に関する著述を残しており、そのなかには、*Gentlemen of Japan: A Study in Rapist Diplomacy*のような戦中の日本に関する書籍や、Ellen Thorbeckeによる香港や上海の報道写真集のように、入手の困難な中国の英文出版社の刊行物なども含まれます。

東アジア近代史、メディア史研究だけでなく、女性史、ジェンダー史研究の資料としてもお勧めいたします。



■収録内容■

Vol. 1: General Introduction: Peter O'Connor / Preface: Reiko Tsuchiya

La Motte, Ellen, *Peking Dust*, New York: Century, 1919, c. 250 pp.

La Motte, Ellen, *The Ethics of Opium*, New York: Century, 1924, c. 205 pp.

Vol. 2: Harrison, Marguerite, *Red Bear or Yellow Dragon?*, New York: George H. Doran Company, 1924, c. 300 pp.

Vol. 3: Munday, Madeleine C., *Far East*, London: S. Paul, 1935, c. 290 pp.

Munday, Madeleine C., *Rice Bowl Broken*, London: Hutchinson, 1947, c. 145 pp.

Vol. 4: Booker, Edna Lee [Edna Lee Potter], *News is My Job: A Correspondent in War-Torn China*, New York: Macmillan, 1941, c. 400 pp.

Vol. 5: Oakes, Vanya (1943) *White Man's Folly*, Boston: Houghton Mifflin, pp.415

Vol. 6: Sues, Ilona Ralf (1944) *Shark's Fins and Millet*, New York: Garden City Publishing, pp.331

Vol. 7: Haven, Violet Sweet, *Gentlemen of Japan: A Study in Rapist Diplomacy*. With a Foreword by James R. Young, Chicago, New York: Ziff-Davis, 1944, c. 350 pp.

Vol. 8: Hahn (Hahn Boxer), Emily, *Hong Kong Holiday*, New York, Doubleday & Company, 1946, c.315pp.

Thorbecke, Ellen, *Hong Kong*, photographed and depicted by Ellen Thorbecke with sketches by Schiff, Shanghai: North China Daily News & Herald Ltd., c. 1938, c. 70 pp.

Vol. 9: Thorbecke, Ellen, *Shanghai*, photographed and depicted by Ellen Thorbecke with sketches by Schiff, Shanghai: North China Daily News & Herald Ltd., c. 1937, c. 88 pp.

Argall, Phyllis, *Prisoner in Japan*, London: Geoffrey Bles, 1945, c. 256 pp.

Vol. 10: Strong, Anna Louise, *China Fights for Freedom*, London L. Drummond, 1939, c. 240 pp.

Strong, Anna Louise, *The Chinese Conquer China*, New York: Doubleday, 1949, c. 282 pp.

占領下日本—同時代英語文献集成

第2回配本：パンフレット、新聞・雑誌記事復刻集成 全10巻

The Post-War Occupation of Japan 1945-1952,
from Pre-Surrender to Post-San Francisco Treaty,
Series 2: Pamphlets, Journal Articles & Press

残部僅少

【編集・解説】 Roger Buckley (元国際基督教大学教授) 【序文】 Arthur Stockwin (オックスフォード大学名誉教授)

2013年5月刊行 B5判変形 本体セット価¥168,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-151-8

★貴重な一次史料含む 240点強の文献のコレクション★

占領期日本に関する同時代の主要英語文献・資料を編集復刻するシリーズの第2回(完結)編です。第2回は雑誌、新聞やパンフレットに発表された記事、論文やGHQの報告書など240点強を10巻に収録します。第2次大戦末に始まっていた占領日本に関する米国内あるいは連合国間の議論、占領期の政策、東京裁判や新憲法制定、サンフランシスコ平和条約等々に関する公的な報告や新聞・雑誌に報道など、同時代の英文主要史資料の一覧参照を可能にする至便な文献集です。

占領下日本の統治については、連合各国間だけでなくアメリカ政府やメディア、世論の間にも多くの異論がありました。その議論の過程は公式な資料とともに、一般の新聞、雑誌、専門・学術誌などの記事を広く通観することにより、より鮮明に浮かび上がってきます。しかしながら、公的機関、半官的な組織の報告書、会報やパンフレット、*New York Times*、*Fortune*、*The Economists* など一般誌紙、Institute of Pacific Relations (太平洋問題調査会) の出版した *Pacific Affairs* 誌、American Institute of Pacific Relations 刊行の *Far Eastern Survey*、そして日本人ジャーナリストや知識人が英文で刊行した *Contemporary Japan* 誌のような民間のオピニオン誌等々、膨大な量の出版物に発表されたこの時代の調査、探索には多大な時間を要します。これら多数の文献から立場の異なる著者、出版団体による報告、記事、論文などをバランスよく選書している本コレクションは、占領期研究だけでなく、より広く日本近代史、戦中・戦後史の研究や教育に必携のレファレンスです。

◆推薦文◆

60年間維持されてきた日米同盟の原点は、終戦前後米国その他の国で、日本の将来が真剣に、そして細部にわたって考慮されていたことにある。まだ当時の段階ではその後の日米関係の枠組みが明確にとらえられていたわけではなかったが、多くの学者、ジャーナリスト、政治家などが敗戦後の日本の国内政治・社会や対外関係について検討し、意見を交換していたことは、現代の例えばアフガニスタン、イラクなどにおける米国側の準備不足とは対照的である。日本にかんする膨大な量の書物が当時出版されたのは、日米間の知的心理的距離を縮める役割をはたすものだったといえる。この書物の大部分は長い間埋もれたままになっていたが、今回その中から特に占領史、戦後日米関係史の理解に役立つものが選択され、出版される運びとなったことを喜ぶたい。選択にあたったバックリー博士による解題も、占領そしてその後の日米関係の特徴について、突っ込んだ解説を提供している。 入江 昭 (ハーバード大学名誉教授)

●各巻テーマ●

VOLUME 1: War / Surrender / Occupation, 1942-1945

VOLUME 2: US Policies and Commentaries, 1946-1950

VOLUME 3: Allied and Japanese Voices, 1943-1951

VOLUME 4: Peace-making, 1951

VOLUME 5: The Aftermath, 1952-1955

VOLUME 6: US Handbooks and Initial Directives, 1944-1945

VOLUME 7: Japan's New Constitution, 1945-1949

VOLUME 8: Financial and Economic Reportage, 1949

VOLUME 9: Economic, Welfare and Educational Reforms, 1949-1950

VOLUME 10: Educational Review, 1952



黄禍論－英語文献復刻シリーズ－

第1回配本：英国黄禍論小説集成 全7巻

Yellow Peril, Collection of British Novels 1895 - 1913

【編集・解説】橋本順光（大阪大学）

2007年1月刊行 本体セット価 ¥138,000-(+税) ISBN: 978-4-86166-031-3

残部僅少

- 世紀転換期に欧米で吹き荒れた反東洋、黄禍論に関する同時代の一次資料を集成する新シリーズ
- 第1回配本は「怪人フー・マンチュー博士」シリーズに代表される英国の小説9編の初版または今日の研究に重要な版を図版含め復刻
- 続刊では黄禍論に援用された日本人、東洋人の著作も収録し、この時代の西洋 vs. 東洋のメディア戦争を再現

黄禍論－英語文献復刻シリーズ－

第2回配本：黄禍論史資料集成 全4巻

Primary Sources of Yellow Peril Series II

Yellow Peril, Collection of Historical Sources

【編集・解説】橋本順光（大阪大学）

2012年6月刊行 A5判・約1,900頁 本体セット価 ¥118,000-(+税) ISBN: 978-4-86166-033-7

- 反日・反アジア主義小説集の第一回配本に続き、今回はそれらの小説とも密接に関連する史資料40点を復刻集成。
- 19世紀末から第一次世界大戦まで、作家、外交官、研究者、ジャーナリストらの論説や研究書からの抜粋、パンフレット、雑誌論文などを収録し、経済的・軍事的脅威論の系譜を追う文献集。
- 同時に、日本やアジアのナショナリストたちの反論も収載、東西の複雑なメディア戦争を再現する。
- 日本、東アジア、英国の近代史研究だけでなく、明治から大正初期のアジアと西洋間の関係史、そして比較文学・文化、メディア史の資料として広く利用可能なコレクション

◆収録内容◆

第1巻：Pearson's Prediction: Yellow Peril or White Hope?

「黄禍論の予言者ピアソンとその余波」

Introduction and Bibliographic Notes by Yorimitsu Hashimoto

第2巻：The Boxer Rebellion - Letters to and from China

「中国と西洋の覚醒 義和団事件をめぐる往復書簡」

第3巻

Part 1: The Spectre of Genghis Khan: Japan as Model and Monster

「第1部：ジンギスカンの亡霊とモデルとしての日本」

Part 2: The Russo-Japanese War as Racial Conflict

「第2部：人種戦争としての日露戦争」

第4巻：The Breakup of China and Asia for the Asiatics

「アジア主義への警戒と辛亥革命」

※収録文献の詳細は、<http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-033-7.html> でご覧いただけます。



復刻集成版「コレクション・ジャパノロジスト」

ヘンリー・ダイアー著作集成 全5巻

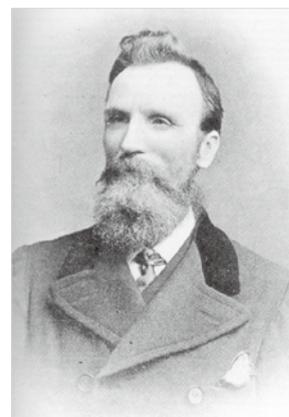
Collected Writings of Henry Dyer

【編集・序文】三好信浩（広島大学名誉教授）

2006年1月刊行 B5判・全2,180頁 本体セット価¥118,000-(+税) ISBN 978-4-901481-83-0

工部大学校初代校長を務めた お雇い外国人ダイアーの初の英文著作集成

『大日本』の著者として知られるヘンリー・ダイアー Henry Dyer (1848-1918) は、東京大学工学部の前身校、工部大学校の初代校長（正式には都検）として明治6年（1873年）に来日した「お雇い外国人」です。24歳の若さで初代工部卿伊藤博文に任命された彼は、その後10年間工部学校長の職を務め、ともに来日した電気工学のAyrton、化学のDiversなど8人のイギリス人教師らと協力し日本の工学研究の礎を築きました。本書はダイアーの著作を、滞日時代に発表した工学教育に関するパンフレット類や雑誌記事を含め復刻集成。「ダイアーの日本」（福村出版、1989）の著者である編者の序文および書誌も収録されています。



■収録文献■ *約2200頁

VOL.1 Writings on Engineering Education and Japanese Problems (c.448)

Introduction by Nobuhiro Miyoshi (c. 15pp)

Bibliography (5pp)

- 1873 Calendar of the Imperial College of Engineering, 1873-74 (35pp)
- 1877 Imperial College of Engineering. General Report by the Principal (62pp)
- 1879 The Education of Engineers (60pp)
- 1880 The Education of Civil and Mechanical Engineers (E. & F. N. Spon) (44pp)
- 1882 Valedictory Address to the Students of the Imperial College of Engineering (6pp)
- 1887 On the Education of Engineers (45pp)
- 1887 Technical Schools (Scotland) Act, 1887 and Some of its Relations to Elementary and Higher Education (25pp)
- 1889 On a University Faculty of Engineering (C. F. Hodgson & Son) (40pp)
- 1893 Technical Education in Glasgow and the West of Scotland: A Retrospect and a Prospect (30pp)
- 1905 Introductory Address on the Training and Work of Engineers in their Wider Aspects (23pp)
- 1906 Japanese Industries and Foreign Investments (10pp)
- 1906 Legal Aspects of Foreign Investment in Japan (9pp)
- 1906 Commercial Morality of Japan (10pp)
- 1906 The Japanese Loan Conversion (8pp)
- 1908 Some Lessons from Japan (21pp)

VOL.2 Writings on Industry and Social Problems (c.421pp)

- 1888 The Foundations of Social Politics; An Address delivered to the Ruskin Society of Glasgow (32pp)
- 1890 Christianity and Social Problems; An Address delivered in Bridgeton Free Church (23pp)
- 1890 Missions and Missionaries (11pp)
- 1891 The Influence of Modern Industry on Social and Economic Conditions (48pp)
- 1895 The Evolution of Industry (Macmillan) (307pp)

VOL.3 Dai Nippon (466pp)

- 1904 Dai Nippon, the Britain of the East, a Study in National Evolution (Blackie & Son) (466pp)

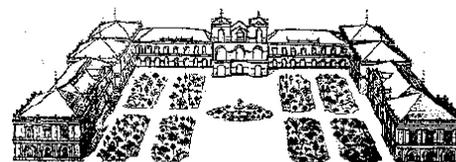
VOL.4 Japan in World Politics (438pp)

- 1909 Japan in World Politics, a Study in International Dynamics (Blackie & Son) (438pp)

VOL.5 Writings on Education (c. 443pp)

- 1889 A Modern University with Special Reference to the Requirement of Science (25pp)
- 1892 Science Teaching in Schools (Blackie & Son) (129pp)
- 1894 Education in Citizenship (28pp)
- 1906 The Continuation Classes of the School Board of Glasgow (31pp)
- 1912 Education and National Life (Blackie & Son) (112pp)
- 1913 Education and Industrial Training of Boys and Girls (Blackie & Son) (118pp)

+別冊日本語解説（約60頁）



復刻集成版「コレクション・ジャパノロジスト」

パーシヴァル・ローエル著作集成

全5巻＋別冊付録

Percival Lowell -

Collected Writings on Japan and Asia, including Letters to Amy Lowell and Lafcadio Hearn

編集・解説 David Strauss, Professor Emeritus of History, Kalamazoo College

別冊付録 小泉 凡（島根県立島根女子短期大学）著

「パーシヴァル・ローエルのラフカディオ・ハーン宛書簡に関する考察および邦訳」

2006年6月刊行 B5判・約1,650頁 本体セット価¥98,000-(+税) ISBN: 978-4-901481-48-9

本書の特色

- 19世紀末の日本に滞在、『能登』『極東の魂』などの名著を残した「知られざるジャパノロジスト」パーシヴァル・ローエルの日本、アジア関連著作を、雑誌、新聞記事も含め網羅
- 妹でモダニズム詩人として著名なエイミー・ローエルとラフカディオ・ハーン宛ての書簡も収録
- 'Percival Lowell' (Harvard Univ. Press) の著者 David Strauss の書き下ろし解説入り

ローエル天文台を創設し火星人を「発見」したローエルの名前は、20世紀アメリカの異才として現在でも語りつがれおり、日本においても朝日新聞のミレニアム企画「20世紀の100人」の一人として取り上げられています。このような天文学での名声を得る以前、彼は30代に何度もアジアを訪れ、約3年間日本に滞在し日本・アジア文化に関する多くの記事・論文、そして研究書を発表しています。この日本・アジア研究者としての彼の側面と功績は見落とされがちでしたが、近年、David Strauss 著 *Percival Lowell: The Culture and Science of a Boston Brahmin* (Harvard Univ. Press, 2001)、宮崎政明著『知られざるジャパノロジストローエルの生涯』（丸善ライブラリー）等の出版、そして日本ローエル協会の設立など、日米両国でローエルと彼の目を通した19世紀末の日本やアジアは関心を集め始めています。また、彼の妹でジャポニズム的作品を残した、20世紀初頭の詩人エイミー・ローエルが吸収した兄の異国趣味は、今後さらに注目される文学史、比較文学のテーマでしょう。

今回集成されたこの文献集は、前述の David Strauss 教授編集によるローエルの初めての著作集で、彼の主著4作の原書（『朝鮮』『極東の魂』『能登』『神秘の日本』）に加え、日本、アジア関連の雑誌論考や新聞記事をほぼすべて網羅しています。また、ローエルの妹エイミーに宛てた書簡35点と近年ハーンの曾孫小泉凡氏により発見された、ローエルからハーンへ宛てた書簡3点の翻刻も収録されています。



■内容明細■

第1巻 雑誌論文・新聞記事集成

Korean Architecture (*Proc. Soc. of Arts Meeting*, 1885) / The New Palace at Soul (*Science*, 1885) / A Korean Coup-d'etat (*Atlantic Monthly*, 1886) / Fuji: the Sacred Mountain, Poem (*Scribner's*, 1888) / A Visit to Shirane San (*Appalachia*, 1888) / The Danger of Imitation (*Japan Weekly Mail*, 1889) / Sakura no saku (*Boston Post*, 1889) / The Fate of a Japanese Reformer (*Atlantic Monthly*, 1890) / A Comparison of the Japanese and Burmese Language (*TASJ*, 1891) / Azumaya, Poem (*Japan Daily Advertiser*, 1893) / Esoteric Shinto (*TASJ*, 1893) / Ontake (*Liber Scriptorum*, 1893) / Korea (*The Churchman*, 1904)

35 Letters from Percival to Amy Lowell 1883-1914, transcribed by Naoki Onishi (International Christian Univ.)

By permission of The Houghton Library, Harvard University

3 Letters from Percival Lowell to Lafcadio Hearn, 1893, by permission of Ikeda Foundation, Niigata

第2巻 *Choson: The Land of the Morning Calm*, 1886

第3巻 *The Soul of the Far East*, 1888

第4巻 *Noto: An Unexplored Corner of Japan*, 1891

第5巻 *Occult Japan or the Way of the Gods*, 1894

フェノロサ手稿 「日本絵画蒐集作品解説付総目録」

復刻・翻刻・邦訳集成 全1巻

Complete Catalogue of Collection of Specimens of Japanese Art including
Notes and Commentaries and Reference to the Other Note Books belonging to
the Collector, by Ernest Francisco Fenollosa

山口静一（埼玉大学名誉教授）編・著

2020年7月刊行 B5判・約370頁（カラー図版8頁）

本体価¥38,000（+税） ISBN: 978-4-86166-212-6

ボストン留学中の故秋山光夫氏（当時東京博物館鑑査官）が1930年に現地の古書店で発見、購入した、アーネスト・フェノロサの自筆ノート（現在早稲田大学津八一記念博物館所蔵）の初の公刊です。

お雇い外国人教師として来日後日本美術蒐集を開始したフェノロサが、入手した日本絵画の作品名、作者や流派などの基本情報を記し目録化した自筆ノートで、作品の図様や特色についての自らの解説や、助言を得た日本人美術専門家（鑑識家や画家）の意見が加えられています。ノート末にはフェノロサ自身が作成した索引も付されています。記載されている日本絵画は、米国帰国後、初代日本部部长となるボストン美術館に寄託され、現在同館の日本絵画コレクションの核の一つとなっています。フェノロサの日本での美術品蒐集の履歴や日本美術への理解を研究する資料としてだけでなく、明治期の専門家による日本美術の評価、そして日本美術の海外への流出史などを研究する上で極めて貴重ですが、現在まで公刊されることはなく、その内容は一部が紹介されるのみにとどまっていた。

本出版では、手稿ノート全ページの影印復刻に英文全文を翻刻、さらに編者による邦訳、解説および註解を加えます。また、目録中の各作品とボストン美術館の収蔵番号との対照表を作成し、現在同美術館のウェブサイトで公開されている美術品へのアクセスの利便性を図ります。



「本書はその（日本古美術保護活動の）最初期の現場でのいわばフェノロサの肉声、彼が何を考えていたのかをリアルに伝えている。ここから読み取れる情報は甚だ多く、作品情報から鑑定方法、アドバイザー、当時の日本・中国美術の知識など、140年前からの同時中継を聞いているようでワクワクさせられる。様々な新知見が切り出されることを期待したい。」

佐藤道信（東京芸術大学教授）

【収録内容】

- ① カラー図版（ボストン美術館 フェノロサ・ウェルド・コレクションより） / Plates of Selected Paintings from The Fenollosa-Weld Collection, Museum of Fine Arts, Boston, c. 8 pp.
- ② 英文解説 / Introduction by Seiichi Yamaguchi, c. 8 pp.
- ③ フェノロサ手稿目録影印復刻（含む索引） / Facsimile Reprint of Complete Catalogue of Collection of Specimens of Japanese Art including Notes and Commentaries and Reference to the Other Note Books belonging to the Collector Ernest Francisco Fenollosa, c. 200 pp.
- ④ 英文翻刻（含む索引） / Transcription of the 'Catalogue' including Index by Ernest Francisco Fenollosa c. 60 pp.
- ⑤ 編者英文註 / Editor's Notes & Glossary, c. 8 pp.
- ⑥ 日本語解説 / Introduction in Japanese c. 5 pp.
- ⑦ 邦訳「日本語絵画蒐集作品解説付総目録」 / Translation of the 'Complete Catalogue' in Japanese c. 60 pp.
- ⑧ 作者および引用人物等日本語註解 / Editor's Notes in Japanese, c. 10 pp.
- ⑨ ボストン美術館所蔵品アクセス対照表 / List of Access Numbers of Museum of Fine Arts, Boston, c. 5pp.

フェノロサ英文著作集

【復刻集成】 全3巻+別冊日本語解説

Ernest Francisco Fenollosa: Published Writings in English

【編集・解説】 山口静一（埼玉大学名誉教授）

(Series: *Collected Works of Japanologists*)

2009年3月刊行 判型：B5判・約1,270頁 本体セット価¥78,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-112-9

■フェノロサ没後 100周年記念出版■

「日本美術の恩人」と称されるフェノロサの英文著作の初の集成です。

明治11年に米国より来日し、前年開校した東京大学の政治学、理財学、哲学教授に着任したお雇い外国人フェノロサは、教育者として、後の日本教育界をリードすることになる多くの人材（井上哲次郎、岡倉天心、嘉納治五郎、高田早苗など）を育てますが、同時に、西洋崇拜の明治にあって見捨てられていた日本の伝統美術を高く評価し、美術品収集、研究を進め、岡倉天心とともに東京美術学校の創立に尽力します。米国帰国後もボストン美術館日本美術部キュレーターを務め、米国での日本美術の紹介や、ボストンだけでなくフリーア美術館など米国での代表的日本美術コレクションの礎をつくったことでも知られています。

しかし、その業績や人物に対する評価に比べると、詩集 *East and West* のほかには大きな単行本著作を残さず急逝したフェノロサの執筆活動や著作に対する研究は、未だ限定的にしかなされていないといえます。前述の詩集や、死後未亡人メアリー・フェノロサが遺稿をまとめた *Epochs of Chinese and Japanese Art*、そしてエズラ・パウンドがフェノロサ訳として編んだ謡曲集、そして日本での講演の日本語による記録などが現在でもフェノロサの著書として一般に言及されていますが、フェノロサ自身が日本語をほとんど解さなかったことなどを考慮すると、これらの出版物のどこまでを本来の彼の著作とするのかは、議論が分かれるところでしょう。

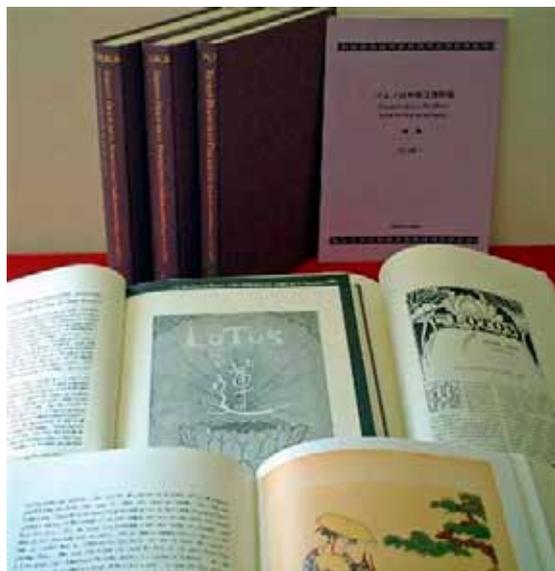
没後100年を期に編集される今回の著作集は、フェノロサが自らの名前で活字化していたほぼすべて（ペーパーバック等で刊行されている詩集 *East and West* および遺著 *Epochs of Chinese and Japanese Art* を除く）の文献を復刻にて収録します。ハーバード大学卒業文集に発表した長詩や、東京大学で出題した試験問題から、日本の英字新聞や雑誌に投稿されたゴンズやアンダーソンの日本美術書への書評や日本文化論、美術展カタログへの解説、シカゴ万国博覧会の教育会議での発表、帰国後アメリカの雑誌に発表された美術論や美術教育論など計51点の文献を全3巻に収録します。そのほとんどが初出後初めて再刊されるものです。编者による別冊解説、そして巻末には编者がフェノロサの業績と参考事項を詳説する年表と、夫人メアリーの浮世絵に関する論文2点を付録しています。

今後のフェノロサ研究、近代日本美術史、米国・西洋での日本美術の受容の研究には必携の文献です。

※収録文献の詳細は

<http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-112-9.html>

でご覧いただけます。



西洋人たちの語ったラフカディオ・ハーン — 初期英文伝記集成 — 【復刻集成】 全4巻+別冊解説

Early Biographical Sources of Lafcadio Hearn

【監修・解説（日本語&英語）】梅本順子（日本大学国際関係学部教授）

2008年10月刊行 A5判・約2,200頁 本体セット価 ¥88,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-102-0

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の作品は、その生存中から数多く欧米で発行され、世紀末からのジャポニズム小説の人気もあり英語圏でも広く読まれ、友好的な日米・日英の関係を背景に、ハーンも一定の評価を得、戦前には多様な伝記やその業績に関する書物が出版されました。しかし著名なエリザベス・ピスバンドのハーン伝を除き、それらのほとんどは現在絶版となっており、研究者、学生が容易に利用することができなくなっています。今回の復刻出版は、これら今日入手の困難になっている、英文で出版された戦前のハーンの伝記や人物研究10点を集成します。合わせて、新聞や雑誌などに掲載されたハーンの人物評価に関する文献も付録する予定です。監修者による解説（日本語&英語）が書き下ろされています。

◇収録内容◇

VOL.1:

Gould, George Milbry,
*Concerning Lafcadio Hearn, with a Bibliography by
Laura Stedman,*
London: T. F. Unwin, 1908, c.318pp.

Thomas, Edward,
Lafcadio Hearn,
London: Constable & Boston: Houghton Mifflin,
1912, c.96pp

VOL.2:

Kennard, Nina H.,
*Lafcadio Hearn, containing Some Letters from Lafcadio
Hearn to His Half-Sister, Mrs. Atkinson,*
London: Eveleigh Nash, 1912, c.403pp.

VOL.3:

Tinker, Edward Larocque,
Lafcadio Hearn's American Days,
London: John Lane, 1925, c.396pp.

Ball, Chas E.,
Lafcadio Hearn: An Appreciation,
London: Caxton Books, 1926, c.12pp

Hendrick, Elwood,
Lafcadio Hearn,
New York: New York Public Library, 1929, c.10pp

VOL.4:

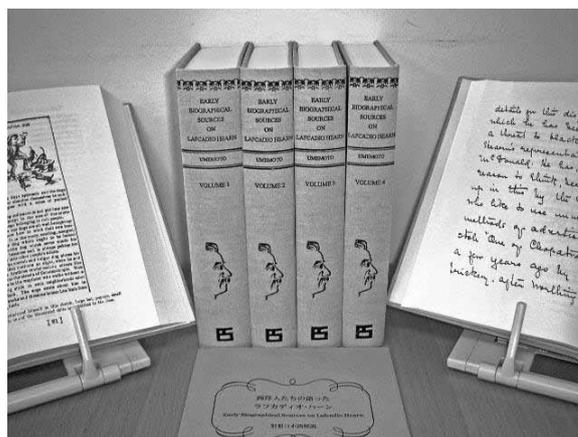
Lewis, Oscar,
*Hearn and His Biographers: The Record of a Literary
Controversy,*
San Francisco: Westgate Press, 1930, c.120pp

Barel, Leona Queyrouze,
*The Idyl: My Personal Reminiscences of Lafcadio
Hearn,*
Tokyo: Hokuseido Press, 1933, c.71pp

Kirkwood, Kenneth Porter,
Unfamiliar Lafcadio Hearn,
Tokyo: Hokuseido Press, 1936, c.110pp.

Lafcadio Hearn in New Orleans,
Lafcadio Hearn Society of New Orleans & Japan
Institute New York, 1941, c.47pp.

Appendix: Miscellaneous articles on Lafcadio Hearn



F・V・ディキンズ書簡英文翻刻・邦訳集

—アーネスト・サトウ、南方熊楠（他）宛— 全1巻

F. V. Dickins' Letters to Ernest M. Satow, Kumagusu Minakata and others,
A Collection of Transcriptions and Japanese Translations

【編集・解説】岩上はる子（滋賀大学） & ピーター・コーニッキ（ケンブリッジ大学）

2011年12月刊行 B5判（上製）・約400頁 本体価¥24,800-（+税） ISBN: 978-4-86166-144-0

- 日本文学英訳の先駆者F・V・ディキンズのアーネスト・サトウや南方熊楠宛書簡の初の公刊。
- 英文の翻刻とともに全文邦訳、解説、注釈、索引（英和）入り。
- 日本文学の英訳史、日英交流史等、比較文学・文化研究のための幅広い史料として利用可能。

幕末・維新期に来日したディキンズは、英国海軍医や弁護士として居留地で働くかわら日本文化への造詣を深め、日本語、日本民族の起源やアイヌ民族に関する論文をネイチャー誌など英国学術誌に発表します。また、日本文学の英訳にも取り組み、初の本格的英訳とされる『百人一首』を出版（1866年）、その後、『竹取物語』、『忠臣蔵』など日本文学の海外への紹介に先駆的な役割を果たし、晩年まで続けた日本文学研究は、後年の日本研究者にも大きな影響を与えた『古代中世日本文学テキスト』（全2巻）（1906年）に結実します。このように、海外の日本文学研究に大きな足跡を残したディキンズは、この時代の多くのジャパノロジストや日本人学者と交流し自らの学識を深めてゆきました。なかでも滞日中の日本理解の大きな手助けとなり、その交流は死の直前まで続いたアーネスト・サトウ、そして帰国後ロンドンで知り合い、その協力のもと『方丈記』を英訳した南方熊楠の存在はディキンズの日本研究に極めて大きなものでした。本書簡集は、英国国立公文書館（The National Archives）に保管されるディキンズのサトウ宛書簡と、南方熊楠顕彰館所蔵の南方宛書簡全点の英文翻刻とその全文邦訳です。またディキンズが伝記を執筆した英国駐日公使ハリリー・パークス宛のディキンズ書簡（ジャーディン・マセソン商会文書＝Jardine Matheson Archives所蔵）や、ロンドン・タイムズ紙へ投稿した記事なども邦訳とともに付録いたします。編者による解説、注釈が加えられています。明治期の日英交流史、日本文学の英訳史など比較文化・文学研究に大変貴重な一次史料です。



◆ CONTENTS ◆

1. 凡例 / Editorial Notes
2. Introduction by Peter F. Kornicki
3. 和文序文 岩上はる子
4. F. V. Dickins' Letters to Ernest M. Satow, 1904-1920, transcribed and annotated by Peter F. Kornicki : 72 letters to Ernest Mason Satow in The National Archives in London (May 31, 1904 to December 8, 1920)
5. サトウ宛ディキンズ書簡邦訳 岩上はる子（訳）：イギリス公文書館所蔵 May 31, 1904 to December 8, 1920 (72 通)
6. F. V. Dickins' Letters to Kumagusu Minakata, 1896-1912, transcribed and annotated by Haruko Iwakami : 46 letters to Kumagusu Minakata in the Minakata Kumagusu Archives in Tanabe, Wakayama Prefecture (March 24, 1896 to July 9, 1912) & 2 letters in the Minakata Kumagusu Memorial Hall (January 21, 1898 and June 4, 1904)
7. 南方熊楠宛ディキンズ書簡邦訳 岩上はる子（訳・注）：南方熊楠顕彰館所蔵（南方熊楠来簡：March 24, 1896 to July 9, 1912）（46 通）及び南方熊楠記念館所蔵（南方熊楠来簡：1898年1月21日、1904年6月4日）（2 通）
8. Miscellaneous Letters from F. V. Dickins (to Sir Harry Parkes etc.), transcribed and annotated by Peter F. Kornicki : 6 letters to Sir Harry Parkes and others in the Jardine Matheson Archives at the University Library, Cambridge & 5 letters published in The Times between 28 February 1880 and 10 May 1904
9. その他のディキンズ書簡邦訳 岩上はる子（訳）：ジャーディン・マセソン商会文書（ケンブリッジ大学図書館所蔵）（6 通） & The Times 投稿記事（February 28, 1880 to May 10, 1904）（6 通）
10. 索引 / Index

アジア学レファレンス名著復刻叢書 第2回配本 *Series: Reference Library of Asian Studies*

N. B. Dennys 編著 **英領マラヤ事典** 全1巻

A Descriptive Dictionary of British Malaya

残部僅少

新序文 ■ Kingsley Bolton, University of Hong Kong

2002年6月刊行 本体価¥28,800-(+税) ISBN 978-4-901481-01-4 A5判・約450頁 ■底本 1894年刊

本書の特色

- 英国植民地時代のマレー地域に関する最大のレファレンス
- 見出し語3000件は歴史、地理、文化、言語などあらゆる分野をカバー
- アジア学、東南アジア史、コロニアリズム研究に携わる研究室必携

アジア学レファレンス名著復刻叢書 第3回配本 *Series: Reference Library of Asian Studies*

ブレットシュナイダー著

中国におけるヨーロッパ人の植物発見史 全2巻

History of European Botanical Discoveries in China

残部僅少

新序文 ■ Kerrie MacPherson, University of Hong Kong

2002年6月刊行 本体セット価¥49,800-(+税) ISBN 978-4-901481-00-7 A5判・約1,200頁 ■底本: 1898年刊

本書の特色

- ブレットシュナイダーの名著復刊
- 19世紀オリエンタリズム、比較文明史研究の基礎文献
- 中国から中央アジア、チベット、韓国、琉球、小笠原まで対象
- 中国科学史研究者ケリー・マクファーソンの新序文入り

孔子と儒教の経済理論 全2巻

The Economic Principles of Confucius and His School

残部僅少

陳桓昌 (Chen Huan-Chang) ※底本: 1911年刊 【新序文】 Morgen Witzel

2002年7月刊行 本体セット価¥37,500-(+税) ISBN 1-85506-994-6

清朝末期の官僚だった陳桓昌は、中国のオーソドックスな教育を受けた後、儒教に詳しい改革派のリーダー康有為の影響を受けました。その後渡米し、コロンビア大学で Edwin Seligman や John Bates Clark と共に学び、ついには博士号も取得しています。伝統的な中国の教育と改革的な学派の思想そして西洋の経済思想の全てを修めるといったユニークな経験を元に、陳は本書において中国の古典的な経済学理論と西洋の古典的な経済学理論の綿密な比較を行っています。陳の改革派的立場とは、中国の理論を無条件に擁護しないものの、それは強固で重要であるべきだと考え、この時代の他の改革論者が唱えたように西洋的な思想の雛型に置き換えてしまうことは奨励しませんでした。全2巻からなる本書は、1911年の辛亥革命以前の中国における経済学思想を詳細に表しています。孔子ばかりでなく道教、墨子、律法主義など多数の学派も取り上げられています。陳の記述は今日でも高く評価できるものです。この分野の研究が英語によってこのように詳細に著された例は少なく、その内容は現代にも通じます。中国が世界経済に大きな影響力を持つ今日、この著作はすべての経済学者、歴史家、中国研究者必読の書です。

- 斬新な視点から著された稀観書
- 経済史や中国研究に必須
- 書誌・索引・新序文付き

源氏物語：現代英語論文集成

全3巻+別冊日本語解説

The Tale of Genji

【編集・解説】 Richard H. Okada, Professor of Japanese Literature, Princeton University

2010年12月刊行 総頁数：c.1,200pp. 本体セット価¥83,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-099-3

源氏物語に関する国際研究のなかで、この30年間に発表された先駆的英文論文約50点を収録。日本語解説別冊付。

源氏物語千年紀を越え海外でも「源氏」への関心はさらに高まり、学術研究の分野でも今日の文学理論や学際的側面からの「源氏」の読み直しが進んでいます。現在編集の進んでいる本書は、これからの「源氏研究」への新しい視座を提供し、より国際的な研究が促進することを目的に、文学研究誌や評論集などに掲載された英語論文のなかから、今後の研究に不可欠な論述をテーマ別に約50点の英語論文を全3巻にまとめるものです。

第1巻はナラトロジー、詩学、文化・芸術研究からのアプローチ、第2巻はセクシャリティーやジェンダーの視点から研究、そして第3巻は能研究、絵巻研究など他分野との関わりと海外での「源氏」受容についての論集となる予定です。1980年、90年代の研究を中心に最新の研究動向まで、今日の源氏物語に関する国際研究を俯瞰できる貴重な文献集です。収録はすべて版を組み直し、編者リチャード・オカダ（プリンストン大学教授）による詳しい英文解説に加え日本語での概説が別冊で付録されます。「源氏」をめぐる比較文学研究や様々な文学・文化研究にどうぞご活用ください。

【収録内容】

Volume I: Cultures of Reading The Tale of Genji (16 論文)

Acknowledgements / Chronological Table / Introduction by Richard H. Okada

Volume II: Gender, Sexuality, Women, and Men in The Tale of Genji (14 論文)

Volume III: The Tale of Genji and Its Others (18 論文)

+別冊日本語解説

※収録文献の詳細は、<http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-099-3.html> でご覧いただけます。

華英・英華辞書集成 全7巻

Western Linguists and the Languages of China

残部僅少

【編集】 Kingsley Bolton & Christopher Hutton, *Hong Kong University*

2001年11月刊行 B5判・約4,500頁 本体セット価¥172,500- (+税) ISBN 978-4-931444-74-4

分売可

【内容明細】

Robert Morrison 著 **Vocabulary of the Canton Dialect (漢文名：廣東省土話字彙) 全1巻**
(Series Volumes 1) ●底本 1828年刊初版 ●ISBN 978-4-931444-77-5 ●分売価¥35,000- (本体)

Ernest John Eitel 著 **A Chinese-English Dictionary in the Cantonese Dialect (広東方言事典) 全2巻**
(Series Volumes 2 & 3) ●底本 1910-11年改訂版 ●ISBN 978-4-931444-78-2 ●分売価¥53,000- (本体)

Samuel Wells Williams 著 **A Tonic Dictionary of the Chinese Language in the Canton Dialect (漢文名：英華分韻撮要*) 全2巻** *漢文タイトルは英華となっているが実際は華英
(Series Volumes 4 & 5) ●底本 1856年刊初版 ●ISBN 978-4-931444-79-9 ●分売価¥48,000- (本体)

Samuel Wells Williams 著 **A Syllabic Dictionary of the Chinese Language (漢英韻府) 全2巻**
(Series Volumes 6 & 7) ●底本 1874年刊初版 ●ISBN 978-4-931444-80-5 ●分売価¥53,000- (本体)

復刻シリーズ 西洋女性宣教師の語った日本

Japan as Seen by Western Women in Christian Mission

エディション・シナプスでは *Japan in English* (『西洋の語った日本』) 等のシリーズにて、19世紀末から20世紀初頭の日本の近代化を見つめた西洋の視線による、様々な日本関連洋書の復刻出版を試みていますが、本企画はこの時代に日本を訪れたキリスト教女性宣教師(宣教師の妻も含む)らによる日本に関する書籍をシリーズ化し復刻するものです。

英米プロテスタントの海外伝道事業が組織化されていった19世紀後半から20世紀初頭にかけて、多くの女性宣教師が日本を含むアジア諸国へ派遣されてゆきます。彼女たちは、各地で男性宣教師とは異なる社会的役割をにない活動を行いますが、日本においてもミッション・スクールの設立や運営に深く関わり、日本・アジアでの女性教育の成立に大きく貢献したことが知られています。教育者でもあった女性宣教師の内には、宣教活動の記録と同時に滞在した日本の文化や生活を、女性ならではの視線で記述し残した者も多く、それらは今日、日本の近代キリスト教史の史料としてだけでなく、教育史、女性史など幅広い日本の近代化や西洋との文化交流史、そしてまたジェンダー研究、英米帝国史研究のための文献として読み直されつつあります。

第1回は英国人女性宣教師の著作を収録、第2回以降は米国人女性宣教師の著作を年代順に出版する企画です。



第1回配本 英国人女性宣教師の日本 全5巻+別冊解説

Japan as Seen by British Women in Christian Mission

【監修・解説】並河葉子(神戸市外国語大学准教授)

2009年11月刊行 A5判・約2,250頁 本体セット価¥118,000-(+税) ISBN 978-4-86166-115-0

【収録内容】

VOLUME 1: (c. 410pp.)

Pitman, Mrs. Emma Raymond

Japan and Japanese - Extract from Central Africa, Japan and Fiji: A Story of Missionary Enterprise, Trials, and Triumphs, pp.103-196, London: Hodder and Stoughton, 1882, 95pp.

Butler, Annie R.

Stories about Japan, London: Religious Tract Society, 1888, 120pp.

Wilson-Carmichael, Amy

From Sunrise Land: Letters from Japan, London: Marshall Bros., 1895, 195pp

VOLUME 2: (c. 500pp.)

Page, Jesse

Japan: Its People and Missions, London: S. W. Partridge, 1895, 190pp.

Awdry, Frances

Daylight for Japan: The Story of Mission Work in the Land of the Rising Sun, London: Bemrose & Sons, 1904, 300pp.

VOLUME 3: (c. 525pp.)

Fisher, Gertrude Adams

A Woman Alone in the Heart of Japan, London: Sisley's, 1906, 305pp.

Arnold, Miss Alfreda (comp.)

The Light of Japan, Church Work in the Dioceses of South Tokyo, Osaka and Kiushiu under the Church of England, Hartford: Church Missions Publishing Co., 1906, 213pp.

VOLUME 4: (c.500pp.)

Allen, Beatrice Julian

Our Sister Beatrice: Recollections of Beatrice Julian Allen and Her Letters / collected by her sister Grace Grier..., London: Longmans, Green & Co., 1907, 305pp.

Bickersteth, Mrs. Edward

Japan (Handbook of English Church Expansion Series) London: A.R. Mowbray, 1908, 185pp

VOLUME 5: (c. 340pp.)

Ballard, Susan

Fairy Tales from Far Japan: translated from the Japanese; with a prefatory note by Mrs Isabella L. Bishop, London: Religious Tract Society, 1898, c.130pp.

Ballard, Susan

Jottings from Japan, Westminster: Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Parts, 1912, 105pp.

Ballard, Susan

More about Japan, Westminster: Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Parts, 1915, 90pp.

第2回配本 アメリカ人女性宣教師の日本

第1期：明治期編 13タイトル・合本5巻＋別冊解説

Japan as Seen by American Women in Christian Mission 1869-1910

【監修・解説】小檜山ルイ（東京女子大学教授）

2010年11月刊行 A5判・約2,500頁（図版白黒多数） 本体セット価¥128,000-（＋税） ISBN: 978-4-86166-116-7

英米プロテスタントの海外伝道事業が組織化されていった19世紀後半から20世紀初頭にかけて、多くの女性宣教師が日本を含むアジア諸国へ派遣されました。彼女たちは、各地で男性宣教師とは異なる社会的役割をにない活動を行いますが、日本においてもミッション・スクールの設立や運営に深く関わり、日本・アジアでの女性の教育の成立に大きく貢献したことが知られています。教育者でもあった女性宣教師に課された重要な仕事の一つには、自分の宣教活動や体験を本国で伝道事業を支える女性たちに知らせるということがありました。そうした報告の一部は書籍となり、広く流通しましたが、活動の記録と同時に滞在した日本の文化や生活を、女性ならではの視線で記述し残した者も多く、それらは今日、日本の近代キリスト教史の史料としてだけでなく、教育史、女性史、など幅広い日本の近代化や西洋との文化接触の歴史、またジェンダー研究、英米帝国史研究のための文献として読み直されています。

第2回配本では、中国でのプロテスタント宣教に大きな功績を残したJohn Livingstone Neviusの妻Helenが夫と共に訪れた日本の旅行記、横浜共立学園を設立したMary Pruynがアメリカの3人の孫たちに宛てた手紙形式で著された日本生活記、長老教会の宣教師として8年間日本で活動したJulia Carrothersが日本の女の子と男の子を主人公に庶民の生活を語った著作、東北学院第2代院長Schneiderの妻が語る仙台神学校での女子教育に協力したMiyamoto O Muraの生涯など計13点の著作を多くの図版も含め収録。

※収録文献の詳細は <http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-116-7.html> でご覧いただけます。

第3回配本 アメリカ人女性宣教師の日本

第2期：大正・昭和初期編 14タイトル・合本5巻＋別冊解説

Japan as Seen by American Women in Christian Mission 1913-1934

【監修・解説】小檜山ルイ（東京女子大学教授）

2013年6月刊行 A5判・約2,500頁（図版白黒多数） 本体セット価¥128,000-（＋税） ISBN: 978-4-86166-117-4

第3回配本では、聖学院を設立したチャールズ・E・ガルストの妻による日本での宣教活動を中心とした夫の伝記、中国・日本で宣教したメアリ・バートンの日本の女性教育および職業女性に関する調査、アメリカン・バプテスト女性海外伝道協会会長で社会改革者としても活躍したヘレン・バレット・モンゴメリの日本を含む海外宣教地の記録、東洋学園創立者宇田尚の妻宇田愛らとともに同仁キリスト教会女子寮ブラックマー・ホームや同仁美登里幼稚園で女子教育、幼児教育に力を注いだキャサリン・M・オスボーン、神戸女学院学院長を務めた宣教師シャーロット・B・デフォレスト、20世紀初めアメリカン・ボードの宣教活動を行い、戦後同志社で教えた国際基督教大学設立にも尽力したR.I. シーベリーらの著作を収録。当時の日本の生活や女子学校などの写真も多数含まれています。

※収録文献の詳細は

<http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-117-4.html> で
ご覧いただけます。



復刻集成 19世紀英国のアジア・イメージ

—ヴィクトリア時代評論誌所収論文選集— 全6巻+別冊日本語解説

Asian Images in the 19th Century British Reviews

【編集・解説】 東田雅博（金沢大学文学部教授）

2008年2月刊行 A5判・約3,200頁 本体セット価 ¥138,000-（+税） ISBN: 978-4-902454-24-6

残部僅少

本書の特色

- 英国ヴィクトリア朝社会の観念＝「文明化の使命」が醸成された場、評論誌で展開されたアジア3国に関する重要な論述を精選収録
- 近代英国のアジア・イメージ、さらに英国自身の帝国イメージの変遷を辿る好企画
- 経済のみならず科学技術、芸術、文芸、教育、法制度、布教など多様な視角から論文記事を選出

【日本】 Vol. 1-2 : Japan Vol. 1: 461pp, Vol. 2: 481pp (38文献) ※Japanのみ分売可
約900頁 ISBN 978-4-902454-97-0 本体セット価 ¥46,000-（+税） ◆限定販売 10セット◆

●ヴィクトリア時代を代表する総合・評論誌が19世紀後半に掲載した日本関連の記事・論文より38件を精選し、復刻収録。オルコック、オリファント、ディキンズ、コンダー、ダグラスなど英国の著名ジャパノロジストの寄稿論文をはじめ、19世紀に刊行されていた主要日本研究書の書評も多数含む。

【中国】 Vol. 3-4 : China Vol. 3: 482pp, Vol. 4: 521pp (40文献)

【インド】 Vol. 5-6 : India Vol. 5: 604pp, Vol. 6: 580pp (41文献)

【編者の言葉】

金沢大学文学部 東田雅博

ヴィクトリア朝英国の評論誌はどれくらいあるのだろうか。The Wellesley Indexに掲載されているものだけでも40を越える。これらの評論誌には、きわめて多様な論文が掲載されている。ためしに、アロー戦争が終結した1860年1月号の『クォーターリー・レビュー』*Quarterly Review*の目次を見てみよう。オーストラリア植民地と金の供給、綿紡績機、中国と戦争、ローマの壁、宗教的リヴァイヴァル、改革計画、こうした論文が掲載されていた。実に多様である。

これらの多種多様な論文を掲載していた評論誌は、イギリスの文化と歴史に関心を持つ者には資料の宝庫といえてよい。しかし、これらの雑誌の紙質はかなり劣悪であり、そのコピーを入手するのも困難になりつつある。大学によっては、コピーを禁じているところもある。適当なテーマでまとめたこれら雑誌論文の復刻資料集が求められていると言えよう。

この度これらの評論誌から4誌を選び、そこに掲載された日本、中国、インドに関する論文をまとめた資料集が刊行されることになった。『クォーターリー・レビュー』、『エディンバラ・レビュー』*Edinburgh Review*、『ウェストミンスター・レビュー』*Westminster Review*、『ブラックウッズ・マガジン』*Blackwood's Edinburgh Magazine*の4誌である。少なすぎるかもしれない。だがこの時代に刊行されていた評論誌はかなり多いが、ヴィクトリア朝時代を通じて発行されていた雑誌は意外に少なく、*The Wellesley Index*に掲載された雑誌の中では、これらの4誌のみである。さらに、これらの4誌は、それぞれ保守、自由、急進、トーリーというヴィクトリア朝の主要な政治的立場を代表してもおり、4誌の選択はバランス的にも問題がない。

先に述べたが、これらの雑誌論文は多種多様である。その中に、先の『クォーターリー・レビュー』の例にあるように、日本や中国、あるいはインドなどのアジア諸国に関係する論文も含まれていた。これらの論文を読むことでヴィクトリア朝英国におけるアジア観と英帝国のセルフイメージの変遷がかなりあざやかに浮かび上がるであろう。また、日本、中国、インドに対する認識の差異も理解できるであろう。

近年のアジア観、より広くオリエンタリズム研究の資料はきわめて多様になっている。言説資料でも、たとえば*Penny Illustrated Paper*のような大衆的な資料も入手できるようになっているし、絵画やイラスト、あるいは写真なども大いに利用されている。しかし、それでも『クォーターリー・レビュー』などの雑誌論文の資料的価値が減じるわけではない。

本コレクションを、専門研究者および、関連する学術機関・図書館に広く推したい。

図説百科 極東アジアの近代

～中国・香港・マラヤ・オランダ領インドネシア～

【英文・復刻版】 全3巻

Present-Day Impressions of the Far East

and Prominent & Progressive Chinese at Home and Abroad, the History, People, Commerce, Industries, and Resources of China, Hongkong, Indo-China, Malaya, Netherlands India
Managing Director: W. H. Morton-Cameron / Editor-in-Chief: W. Feldwick

2012年1月刊行（図版・地図21点） 本体セット価¥118,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-153-2

（底本：London&Chicago:Globe Encyclopedia, 1917年刊行） A4判・約1,220頁（図版白黒多数&カラー図版・地図21点）

2500点以上の写真と図版で20世紀初頭の東アジアを 西洋に紹介した大ヴィジュアル百科

- 20世紀初頭に英米で刊行されたヴィジュアル版アジア百科の復刻版。
- 新世紀に入り国際政治や商業・貿易だけでなく、ビジネスの投資先としても重要度が増していた中国及びその周辺東アジア諸国に関する、当時最新の情報を網羅し多数の写真や図表とともに収録。
- 同出版社による『図説百科 近代日本とその植民地 - Present-Day Impressions of Japan』（小社より復刻版既刊）と合わせ、2百科で当時最大の東アジア情報源となるよう企画され、1917年にロンドンとシカゴで刊行。
- 各国、各都市の歴史、地理、動植物、教育、宗教、文化、法律、政治、産業の詳説に加え、英字新聞社記者や商工会議所などの協力を得て、医療、治安、労働、交通など社会、生活に関する記述や各種統計も充実。
- 特に各地に進出していた、欧米や日本の商社、銀行、新聞、船舶業、製造業の活動については、支社の社屋やオフィス、駐在員や現地従業員の写真など、広く紙面を割いて紹介。
- 第2次大戦で失われてしまった、街並みや駅、港など公共建築物の貴重な写真に加え、政界、実業界で活躍した人物肖像写真も満載。
- 東アジア近代史、産業・経営・社会経済史、都市・建築史、比較文化学等広く研究、教育用の資料として利用可能。



王立アヘン委員会調査報告書 全6巻

The Royal Commission on Opium, 1893-94: Reports, Minutes of Evidence, and Appendices

新序文 ■ Joyce A. Madancy, Union College, Schenectady, NY

2003年4月刊行 A4判・約2,650頁 本体セット価 ¥148,000- (+税) ISBN 978-4-901481-47-2

本書の特色

- グラッドストーン内閣の王立アヘン委員会公式調査報告書を完全復刻
- Irish Univ. Press 版英国議会資料シリーズに未収録資料
- アヘン貿易に関わる様々な立場の人々から収集した700以上の証言を収録
- 豊富な統計資料
- 東アジア近代史や日本のアヘン政策の検証にも貴重な基礎資料

残部僅少

本書は王立アヘン委員会の詳細な報告書とその補遺版をすべて忠実に復刻するものです。報告書には宣教師、農民、外交官、医師、商人といった人々からの700を超える証言が収録されており、それらの大部分が非ヨーロッパ人から採録されたものです。またアヘン貿易をさまざまな角度から検証する信頼性の高い統計資料や、アヘン貿易に関する歴史的解説、詳細な項目索引やインド用語集なども付されており、19世紀から20世紀のアジア世界にアヘンが与えた影響を検証するまたとない基礎資料としてお勧めいたします。



スモレット編

世界の旅行記 全7巻

残部僅少

A Compendium of Authentic and Entertaining Voyages

Edited by Tobias Smollett

新序文 ■ Robert Mayhew, University of Wales, Aberystwyth

2003年2月刊行 ■ 底本 1766年第2版 (A5判 約2,250頁、図版・折込地図入り)

本体セット価 ¥148,000- (+税) ISBN 978-4-901481-39-7

本書の特色

- スモレット編集による世界旅行記の初の復刻
- 18世紀後半英国で大評判となった書物
- 多数の図版、折り込み地図も含め完全復刻
- 原本は稀覯本

トバイアス・スモレットー Tobias Smollett (1721-71) ーは、今日「ロデリック・ランダム」、「ペリグリノ・ピッケル」、「ハンフリー・クリンガー」など旅や冒険を題材にした18世紀の流行作家として知られますが、同時に編集者そして批評家として旺盛な活躍をしたことは見落とされがちです。編集者としての彼は数多くの出版に関わりましたが、従軍医として西インド諸島でスペインと戦い、ジャマイカで出会った女性を妻としたスモレットの体験と力量が最大限発揮され、また同時代に最も評価を得た作品が本書です。コロンブス、バスコ・ダ・ガマ、ドレーク等々、過去の探検記、旅行記をまとめ再編集した本書は、刊行当時大変な人気を博し、模倣出版物が相次いだと言われます。その背景には、覇権を確立しつつあった18世紀後半の英国の、世界各地への旅や地理的発見に対する関心の高さがうかがえます。

18世紀英文学研究に不可欠な文献であると同時に、豊富なイラストや地図とともにこの時代の英国の世界への眼差しを肌で感じさせてくれる本書は、比較文化やコロニアリズム・オリエンタリズムの研究にも大変貴重です。原本 (1766年刊第2版) 刊行以来初の復刻です。



鉄道院編纂 東亜英文旅行案内 【復刻版】全5巻+別冊解説

An Official Guide to Eastern Asia: Trans-continental Connections between Europe and Asia

Prepared by Imperial Japanese Government Railways

【復刻版監修・解説】老川慶喜（立教大学経済学部教授）

2008年9月刊行 本体セット価¥128,000-(+税) ISBN: 978-4-86166-087-0

*総頁数：約2,500頁（折込カラー地図多数）上製・A5判（ポケットサイズの原本を30%拡大）

Vol. 1: Manchuria & Chosen, 1913 [朝鮮／満洲]

Vol. 2: South-Western Japan, 1914 [南西部日本]

Vol. 3: North-Eastern Japan, 1914 [北東部日本]

Vol. 4: China, 1915 [中国]

Vol. 5: East Indies, including Philippine Islands, French Indo-China, Siam, Malay Peninsula and Dutch East Indies, 1917

[東インドーフィリピン、仏領インドシナ、蘭領インドシナ、海峡植民地ー]

本書の特色

- 満鉄総裁時に後藤新平が発案、後に鉄道院総裁になるや直ちに着手した『英文東亜案内』全5巻の完全復刻。
- 日本人の手により真の日本文化と日本精神を全世界に宣伝し、後藤新平の描いた「世界の日本」から「日本の世界」への躍進を支援する目的で、膨大な予算（当時の金額で約20万円）で事業化し出版された、日本人自身による初の海外向け公式旅行ガイド。約8年の歳月をかけ完成。
- ドイツの『ベデカー旅行案内』やその他の欧米人の日本旅行ガイドをはるかにしのぎ、各地の歴史、地理、文化も含め詳細な案内を多くの写真図版、地図とともに掲載。
- 日本、極東地域のガイドとしてながく権威を保ったが、なかでも満州、中国に関する巻は、1960年代になるまでこれ以外の欧文旅行ガイドが出版されなかったこともあり、重要な資料とされる。

※『正伝 後藤新平』第5巻「第二次桂内閣時代 1908～16年」第5.11章『東亜英文案内』参照。

■ 監修者のことば—『東亜旅行案内』（英文版）の復刻に寄せて■

老川 慶喜（立教大学経済学部教授）

日本の鉄道は、1906年から07年にかけて主要私鉄17社が国有化された。また、1906年11月には南満州鉄道が設立され、1908年12月には鉄道院が設置された。満鉄も鉄道院も初代総裁は後藤新平で、それからほぼ100年の年月が経過した。後藤新平の事業はきわめて多岐にわたるが、『東亜旅行案内』（英文版）の企画と刊行もそのひとつである。

後藤新平は、日露戦争後に逸早く訪露を実現し、満鉄と東清鉄道の連絡運輸開始に関する交渉を行い、西欧と東アジアを結ぶ大陸横断鉄道を完成させた。また、朝日新聞は、日露戦後における日本の国際的地位の向上と経済力の拡大を背景に、イギリスのトマス・クック社と提携して、「世界一周旅行」を企画した。大陸横断鉄道の開通と海外旅行ブームのなかで、鉄道院総裁の後藤新平は、欧米の旅行者への東アジアに関する情報提供を目的に、『東亜旅行案内』（英文版）の刊行を企画した。

後藤新平の調査好きはつとに有名であるが、『東亜旅行案内』の刊行にあたっては、20万円以上の巨額な予算を組み、専門家を現地に派遣して徹底した現地調査を実施し、膨大な資料を集めた。そして、「満州・朝鮮」（1913年10月）、「南西日本」「北東日本」（1914年7月）、「中国」（1915年4月）、「東インド」（1917年4月）の5冊を刊行した。

『東亜旅行案内』は、単に旅行上必要な情報ばかりでなく、欧米の実業家や資本家の投資を促すために、東アジアの産業や貿易についても詳細な調査を実施し、かなりの頁を割いている。したがって、交通史研究や後藤新平研究にとってはもちろん、アジアの「文明国」となった日露戦後の帝国日本と東アジア諸地域との関係を考える上からも、きわめて貴重な資料といえる。『東亜旅行案内』全5巻をすべて所蔵している機関はほとんどないので、同書の復刻はまことに時宜を得たもので、研究者には大いなる福音といえよう。

ベイヤード・テイラー編集 **19世紀世界旅行百科** 【復刻版】 全2巻

Cyclopaedia of Modern Travel:

A Record of Adventure, Exploration and Discovery, for the Past Sixty Years

Prepared and arranged by Bayard Taylor

Comprising narratives of the most distinguished travelers since the beginning of this century

Embellished with fine engravings on steel by Buttre, and illustrated by over forty wood engravings by Orr, and thirteen authentic maps by Schonberg.

Revised and Enlarged Edition in Two Volumes

2008年7月刊行 本体セット価 ¥48,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-101-3

A5判 約1,040頁 (図版白黒多数) 【底本】 Moore, Wiltach, Keys (New York), 1860



19世紀アメリカの著名な文筆家ベイヤード・テイラーは、世界各地を旅行しその旅行記で当時人気を博したことで知られます。日本へもペリー艦隊に遠征記録係として随行、*A Visit to India, China, and Japan* (1853) を出版しています。本書は、そのテイラーが1860年に編集した旅行百科で、1800年から1860年の間の、欧米人による主要な世界各地への旅行や探検につき、各旅行家の人物情報と旅行・探検の背景、そして旅行記からの抜粋等が多くの図版や地図とともにまとめられています。テイラー自身が序文で語るように、19世紀とともに、大航海時代とは異なった科学的目的や近代的知識をもった新たな旅の時代 “Age of Exploration and Discovery” が幕を開けます。このような時代、世界への進出を始めるアメリカに身をおき、自らそのさきがけとして世界を旅を実践したテイラーの手になる本書は、19世紀の西洋での旅への情熱や非欧米世界への限りなき探究心を表した記念すべき大事典といえます。

CONTENTS

Volume 1:

Life and Travels of Alexander von Humboldt
Mungo Park's Travels in Western Africa
Lewis and Clarke's Journey to the Pacific Ocean
Buckhardt's Travels in Syria, Africa, and Arabia
Belzoni's Explorations in Egypt
Caillaud's Journey to the Libyan Oases, Ethiopia, and Sennaar
Franklin's Overland Journey to Bokhara
Timkovski's Journey from Siberia to Peking
Cochrane's Pedestrian Journey through Siberia
Golownin's Captivity in Japan
De Lascaris's Secret Mission among the Bedouins
Denham and Clapperton's Expedition to Central Africa
Clapperton's Second Journey to Sackatoo
Explorations of the Niger

刊行時の本書への書評より

“A scholar, traveler, and writer, having a reputation so deservedly high in this three-fold relation as Bayard Taylor, may be presumed to give his name only to worthy of it. I shall have no doubt, a priori of the worth of any literary work bearing his name. The present volume I have examined carefully, and have read a considerable part of it; and I have found it prepared and arranged with excellent judgment, and filled with matter of the highest interest and value. Both the plan and execution are in my judgment marked by ability, extensive knowledge, good taste, and good sense.”

-by Cornelius Conway Felton, Professor of Harvard University

Volume 2:

Moffat's Life in Southern Africa
Sturt's Explorations in Australia
Back's Arctic Land Expedition
Wellsted's Travels in Oman
Explorations of the White Nile
Major Harris's Mission to Shoa
Parkyn's Life in Abyssinia
Wood's Journey to the Oxus
Fremont's Explorations of the Rocky Mountains and California
Huc's Travels in Tartary, Thibet, and China
Fortune's Journeys to the Tea-Countries of China
Recent Exploration in Australia
Lynch's Exploration of the Dead Sea
Layard's Explorations at Niveveh and Babylon
Travels of Ida Pfeiffer
Explorations of the Amazon River
Richardson and Barth's Expedition to Central Africa
Burton's Pilgrimage to Mecca
Exploration of Loo-Choo

Appendix:

Conclusion of Dr. Barth's Travels in Central Africa
Livingstone's Travels in Southern and Central Africa
Atkinson's Travels in Siberia and Chinese Tartary
Index



CHINESE TEA-CARRIER

世界周遊旅行の始まり

— 英文旅行ガイド・ハンドブック復刻集成 — 9 文献・合本 5 巻 + 別冊解説

The Emergence of the World Tour - A Collection of Early Travel Guides and Handbooks

【監修・解説】伊藤久子（元横浜開港資料館調査研究員）

2010 年 11 月刊行 A5 判・約 3,100 頁（折込地図多数） 本体セット価 ¥143,000-（+税） ISBN 978-4-86166-136-5

- 「世界周遊旅行」が始まった 19 世紀後半に英米で出版され、世界旅行者に広く利用された旅行ガイドや旅行者用の要覧など計 9 点を 5 巻に収録
- アメリカ太平洋郵船が太平洋航路を開設するにあたって作成した『中国・日本新航路要覧』、ユニオン・パシフィック鉄道とセントラル・パシフィック鉄道によるアメリカ大陸横断鉄道の開通にあわせて出版された旅行ガイド、中国や日本の開国で設けられた開港場の情報を詳しく網羅した旅行者・商人・住民用の完全ガイド、英国で出版されたレディー・トラベラー用の心得、そして英国の鉄道時刻表「ブラッドショー」が世界周遊旅行者のために初めて出版した 1903 年の世界旅行ガイドなど、いずれもこの時代の貴重な資料類を、多数の折り込み地図も含め収録

◆収録文献◆

VOL. 1: (約 630 頁) ◇太平洋横断定期航路、アメリカ横断鉄道ガイド 3 点◇

A Sketch of the New Route to China and Japan, by the Pacific Mail Steamship Co.'s Through Line of Steamship between New York, Yokohama, and Hong Kong, via the Isthmus of Panama and San Francisco. San Francisco: Turnbull & Smith, 1867. 104, [4] p.

Great Trans-Continental Tourist's Guide, Containing a Full and Authentic Description of Over Five Hundred Cities, Towns, Villages, Stations, Government Forts and Camps, Mountains, Lakes, Rivers, Sulphur, Soda and Hot Springs, Scenery, Watering Places, Summer Resorts... over the Union Pacific Railroad, Central Pacific Railroad of Cal., Their Branches and Connections by Stage and Water from the Atlantic to the Pacific Ocean. New York: Geo. A. Crofutt, 1870. 208 p., 1 folded map.

The Pacific Tourist: Williams' Illustrated Trans-Continental Guide of Travel, from the Atlantic to the Pacific Ocean, Containing Full Descriptions of Railroad Routes ...: A Complete Traveler's Guide of the Union and Central Pacific Railroads, edited by Henry T. Williams. New York: H. T. Williams, 1876. 293 p., 5 folded maps.

VOL. 2: (約 750 頁) ◇中国・日本開港場ガイド◇

The Treaty Ports of China and Japan: A Complete Guide to the Open Ports of Those Countries, together with Peking, Yedo, Hongkong and Macao, Forming a Guide Book & Vade Mecum for Travellers, Merchants, and Residents in General, edited by N. B. Dennys, Wm. Fred Mayers, and Chas. King. London: Trubner, 1867. 668 p., 29 folded maps.

VOL. 3: (約 720 頁) ◇世界周遊旅行者のための主要都市・港・旅行ルート事典◇

Our Ocean Highways: A Condensed Universal Hand Gazetteer and International Route Book, by Ocean, Road, or Rail, edited by J. Maurice Dempsey & W. Hughes. London: E. Stanford, 1870. cciv, 482 p.

VOL. 4: (約 340 頁) ◇レディー・トラベラーのためのガイド、女性ジャーナリストによる中国・日本旅行ガイド◇

Hints to Lady Travellers at Home and Abroad, by Lillias Campbell Davidson. London: Iliffe & Son, 1889. 256 p.

Westward to the Far East, A Guide to the Principal Cities of China and Japan with a Note on Korea, by Eliza Ruhamah Scidmore. 4th edition. [Montreal] Canadian Pacific Railway Co., 1893. 76 p., 1 folded map.

Peninsular & Oriental Steam Navigation Company's Guide Book for Passengers, London, 1893.

VOL. 5: (約 550 頁) ◇ブラッドショーの世界旅行ガイド◇

Bradshaw's Through Routes to the Capitals of the World and Overland Guide to India, Persia, and the Far East: A Handbook of Indian, Colonial and Foreign Travel. London: Bradshaw's Guide Offices, 1903. xlviii, 500 p. [pp.453-500 advertisements], 15 folded maps.

【和書復刻版】世界旅行 萬國名所圖繪 (全7冊)

付録●世界旅行 萬國全地圖 合本全4巻

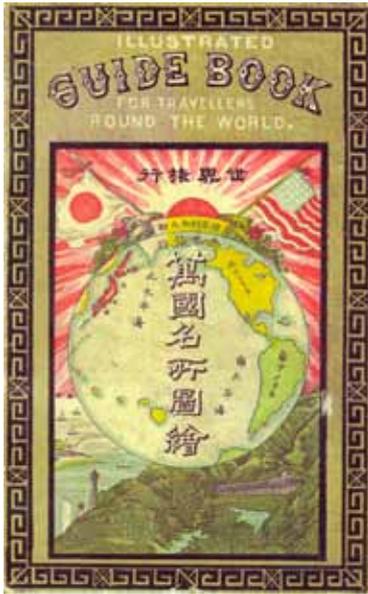
Illustrated Guide Book for Travellers round the World & The Map for Travellers round the World

青木恒三郎編輯 南枝醇閣 / 監修・解題：荒山正彦（関西学院大学文学部教授）

底本：大阪〔青木〕嵩山堂刊（明治18-19年）地図（明治20年）〔Osaka : Awoki Szandow, 1885-1887〕

2012年11月刊行 本体セット価：¥78,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-159-4

判型：B6判（原本版面を約20%拡大） / 別冊カラー地図：44 x 66cmをB6判に折込 総約1,110頁



- 青木恒三郎（1863-1926）が明治10年に大阪で創業し、出版から印刷、書籍（和洋書）小売にいたる総合図書ビジネスを東京から全国に広げた青木嵩山堂（あおきすうざんど）が、『内國旅行 日本名所圖繪』と並んで発行した『世界旅行 萬國名所圖繪』の復刻版。
- 明治18-20年に全7冊と別冊折込大地図の計8冊のシリーズで刊行された原本を4巻に合本、約20%拡大しB6判にて復刻。
- 仮名垣魯文の『西洋道中膝栗毛』が人気を博し、明治政府の欧化政策により鹿鳴館時代が幕開け、異国への関心を強く持った一般向けに出版された世界案内。
- 洋書販売も行っていた青木恒三郎が、海外文献からの豊富な情報を用い、世界各地の歴史、地理、風俗を詳しく紹介、さらにほぼ全頁に掲載されている半頁以上の版面を占める銅板挿絵により、明治期日本人のヴァーチャルな世界周遊旅行体験を可能にした。
- 1885年5月に創刊、当初西洋各国のガイドを隔月5巻のみ刊行するシリーズであったが、その後アジアを対象とした2巻を加え、全7巻を約1年間半を費やし完結、その後も版を重ねた。
- 初版本の美しい各巻表紙もカラーで再現し、巻頭の「外国時刻早見表」（回転板付き各国の時刻を表示）や、シリーズ完結後製作され今日入手の困難なカラー大地図も収録する。
- 図書館所蔵の原本は貴重書扱いが多く、今回の初の復刻出版で、研究資料としての本書の利便性を高める。
- 観光文化史の視点から近代日本を研究する監修者による解題入り。

【各巻内容明細】

第1巻：約235頁

解題：荒山正彦（関西学院大学文学部教授）

巻ノ一：北亜米利加之部、明治18年5月、約115頁

巻ノ二：英吉利、葡萄牙、西班牙、佛蘭西之部、明治18年8月、約100頁

第2巻：約275頁

巻ノ三：仏蘭西巴黎、白耳義、和蘭、日耳曼、暹馬、北洋旅行沿革、明治18年10月、約115頁

巻ノ四：北氷洋洲奇觀、那威、瑞典、魯西亞、土耳其、希臘、伊太利、奧斯利、瑞西、

明治19年1月、約160頁

第3巻：約365頁

巻ノ五：亞非利加、亞西尼亞兩洲之部、明治19年4月、約180頁

巻ノ六：亞細亞土耳其、阿刺比亞、波斯土耳其斯坦、阿非業斯坦、皮路直坦、印度又天竺、西藏

明治19年7月、約185頁

第4巻：約230頁+折込地図

巻ノ七：緬甸、巫來由半島、暹羅老？、東蒲寨、安南、支那、朝鮮、日本、明治19年1月、約230頁

『世界旅行 萬國全地圖』カラー地図1枚、明治20年1月

マリアンヌ・ノース自伝 全3巻

Recollections & Further Recollections of a Happy Life : being the Autobiography of Marianne North

2005年9月刊行 A5判・約1,505頁 本体セット価¥48,000- (+税) ISBN 978-4-86166-026-9



イザベラ・バードとならぶヴィクトリア朝時代の女性旅行家マリアンヌ・ノース(1830-1890)は、今日でもその名を残す英国王立植物園キュー・ガーデンのマリアンヌ・ノース・ギャラリーに収められた膨大な植物画でよく知られています。幼少時代より父の友人であった科学者や知識人と接して育った彼女は、若い頃から家族や父に連れられヨーロッパそして中近東へと旅して回ります。父の亡き後、旅は彼女にとっての生きがいとなり、北南米、シンガポール、インド、オーストラリアなどなど、世界各地を訪れることとなります。日本へも1875年から76年にかけて、横浜、神戸、京都周辺を訪問しています。バードと異なり、旅行記を自ら著すことのなかったノースですが、その情熱は、恵まれた芸術面の才能をいかした植物の写生に向かいます。その才能を評価したチャールズ・ダーウィンが、さらなる旅へと彼女を後押ししたこともあるようです。こうして書き溜められた植物画の一般公開のため、前述のノース・ギャラリーが1882年にオープンしています。彼女の功績を称えた王立植物園は、5種の植物に彼女にちなんだ命名をしています。

本書は、ノース自身が残した膨大な旅の記録を、その死後に妹が全3巻にまとめたものです。彼女自身の旅行での体験や他の女性旅行家の逸話などが挿入されており、ヴィクトリア朝女性旅行家の同時代の記録として代表的な文献です。

■ 内容明細 ■

第1-2巻

Recollections of a Happy Life : being the Autobiography of Marianne North

Edited by Mrs. John Addington Symonds

2nd ed., with corrections, London ; New York : Macmillan, 1893

Vol. 1: viii, 351pp.

Vol. 2: 343pp.

CONTENTS

Early Days and Home Life

Canada and United States

Jamaica

Brazil

Teneriffe-California-Japan-Singapore

Borneo and Java

Ceylon and Home

India

Hill Places in India

Rajputana

Second Visit of Borneo-Queensland-New South Wales

Western Australia-Tasmania-New Zealand

South Africa

Seychelles Islands

Chilli

第3巻

Some Further Recollections of a Happy Life, selected from the Journals of Marianne North, chiefly between the year 1859 and 1869

Edited by Mrs. John Addington Symonds

London : New York : Macmillan, 1893

viii, 316 p., [3] leaves of plates

CONTENTS

In the Pyrenees and Spain

Switzerland-Italy-Trieste-Pola-Fiume,,,

Adriatic and Syria

Egypt

Palestine and Syria

In the Dolomite Alps, Australia

Mentone and Sicily

Syracuse and its Neighbourhood - Taormina, Monte Generoso, and Trafoi

オイレンブルク

東アジア・日本遠征公式記録 全4巻

ドイツ語初版復刻

Die preussische Expedition nach Ost-Asien, nach amtlichen Quellen

2001年12月刊行 本体セット価格¥98,000-(+税) ISBN 978-4-931444-75-1

■底本 1864-73年刊 A5判 約1,750頁

ペリーやエルギン卿の遠征記とならぶ

日本開国期の最重要資料

残部僅少



本書は 1860-62 年にプロイセンが莫大な予算を投じて送り出した東アジア・日本への使節団の公式記録です。この遠征に関する文献は、参加メンバーによる回想録など様々な形で残されていますが、プロイセン政府の公式記録として編集されたものは本書のみで、最も詳細かつ権威ある文献です。シンガポールから江戸へ向かう航海、幕末期の日本の気候、風土、宗教、文化、芸術に関する記述、訪れた江戸、横浜、長崎での民衆や居留地での外国人の生活など、当時の日本社会や日常に関し、実に細部にまで記述されています。遠征団は日本との条約締結を果たしますが、条約締結にいたる折衝の報告や、交渉を通して観察、分析された日本の政治情勢の報告には、幕府の崩壊とその後の明治政府成立の予言も含まれており、幕末維新期の史料としての価値を高めています。原本は稀覯書で、古書でも入手は困難です。

■各巻内容■

VOL. 1

EINLEITENDES ZUM VERSTÄNDNISS DER JAPANISCHEN ZUSTÄNDE.

- I. Geographische Lage und Beschaffenheit, Mythologie und Geschichte
- II. Politische Einrichtungen und Zustände während der Absperrung
- III. Der Fremdenverkehr während der Absperrung und die Aufschliessung des Reiches

REISEBERICHT.

- I. Singapore. Vom 2. bis 13. August 1860
- II. Reise der Thetis von Singapore nach Yeddo. Vom 12. August bis 14. September
- III. Reise der Arkona von Singapore nach Yeddo. Vom 13. August bis 4. September
- IV. Yeddo. Vom 5. bis 19. September
- V. Yeddo. Vom 19. September bis 2. October

VOL. 2

- VI. Yeddo. Vom 2. October bis 1. November 1860
- VII. Yeddo. Vom 1. November bis 7. December 1860
- VIII. Die Fahrt der Elbe von Singapore nach Yeddo über Hongkong, Formosa und Nagasaki. Vom 4. September bis 3. December 1860
- IX. Yeddo Vom 7. December 1860 bis 1. Januar 1861
- X. Yeddo. Vom 1. bis 31. Januar 1861
- XI. Fahrt der Arkona und der Thetis von Yokuhama nach Nagasaki. Aufenthalt daselbst. Vom 31. Januar bis 23. Februar 1861
- XII. Reise der Arkona und der Thetis von Nagasaki nach dem Yangtsekiang. Vom 24. Februar bis 2. März 1861

Anhang I. Der Vertrag mit Japan

Anhang II. Die Ereignisse der letzten Jahre

Register zum I. und II. Bande

VOL. 3

CHINA'S BEZIEHUNGEN ZUM WESTEN BIS 1860.

- I. Die älteren Berührungen und die Handelsbeziehungen bis zum Erlöschen des Monopols der englisch-ostindischen Compagnie 1834.
- II. Der Opium-Handel und Opium-Krieg. Bis 1842.
- III. Die Zustände nach dem Frieden von Nan-kin. Bis 1849.
- IV. Die Tea-pin-Bewegung. Bis 1857.
- V. Der Lorcha-Krieg. Bis 1858.
- VI. Die Operationen der Gesandten bei Ta-ku 1859 und der englisch-französische Feldzug gegen Pe-kin 1860

REISEBERICHT.

- XIII. Shang-hae. Vom 7. März bis 22. April 1861.

VOL. 4

REISEBERICHT.

- XIV. Reise der Arkona von Wu-son nach der Pei-ho-Mündung. Vom 23. bis 29. April 1861
- XV. Tien-tsin. Vom 29. April bis 30. Juni 1861
- XVI. Tien-tsin. Vom 30. Juni bis 11. September 1861
- XVII. Ausflug nach Pe-kin. Vom 10. September bis 6. October 1861
- XVIII. Abreise von Tien-tsin. Reise der Arkona von der Pei-ho-Mündung nach Nagasaki und Hong-Kong. Vom 7. October bis 11. November 1861
- XIX. Hong-Kong. Kanton. Macao. Vom 11. November bis 5. December 1861
- XX. Reise der Arkona von Macao nach der Rhede von Paknam. Vom 5. bis 14. December 1861
- XXI. Bangkok. Vom 23. November 1861 bis 30. Januar 1862
- XXII. Ausflug nach Phrabat. Abreise aus Siam. Reise der Arkona nach Singapore. Vom 30. Januar bis 3. März. Schluss

Anhang I. Der Vertrag mit China

Anhang II. Der Vertrag mit Siam

Anhang III. Die Auswechslung der Ratifications - Urkunden in Shang-hae

Anhang IV. Das Ende der Tea-Pin

Litterature / Register zum III. und IV. Bande

ジョサイア・コンダー編

世界旅行者大全 【復刻版】 全 30 巻 / 全 5 回配本

The Modern Traveller

A Description, Geographical, Historical, and Topographical, of the Various Countries of the Globe
By Josiah Conder

底本：London: James Duncan, 1830 (2nd edition) [1st edition 1825-1829]

【監修・解説】原田範行（慶應義塾大学）

ヴィクトリア期直前の『大英帝国』が旅した世界

- 19 世紀前期の英国で、The Eclectic Review や The Patriot 紙の編集者として活躍していたジョサイア・コンダー（鹿鳴館の建築などで著名なコンドルの祖父）が、自ら執筆・編集した世界旅行ガイド全 30 巻を、多くの図版、折り込み地図を含め完全復刻。
- 蒸気機関の発明による交通革命時代の直前、1825 年から数年にわたり出版された本書は、それまでに多く出版されていた空想的な外国旅行記や航海記の内容とは一線を画し、地球が小さくなり始めていたこの時代の旅行者や一般読者に、最新の客観的な情報を出来る限り広く提供する方針で、中東諸国、アジア、アフリカ、南北アメリカなどを旅する際に有用な、各国の地理、歴史、政治状況、文化、風習、そして主要都市や旅行ルートに沿った名所旧跡、景勝地などを詳細に解説。携帯可能なポケット版で刊行された。（今回の復刻では約 20% 拡大し B6 判にて復刻。）
- 18 世紀の旅行・紀行記の出版スタイルを残しつつも、本書より約 10 年後に刊行が始まるマレーの旅行ハンドブックなど、今日につながる各国別の旅行ガイドを予感させる出版物で、近代ツーリズム史の研究にはもちろん、19 世紀英国文化研究資料としても貴重な文献。
- 各配本毎に監修者による解説（英文および和文）付。



世界旅行記、もしくはヴィクトリア朝覇権戦略の情報源—ジョサイア・コンダー編『世界旅行者大全』の魅力— 原田範行（東京女子大学教授）

ジョサイア・コンダー編『世界旅行者大全』は、1825 年から 29 年にかけて、十二折本全 30 巻として刊行された。「世界各国の地理、歴史、地誌に関する記述」という副題が示す通り、対象はヨーロッパから中東、アジア、アフリカ、南北アメリカに及び、まさしく世界旅行者のためのポケット版必携書となっている。今回復刻刊行されるのは、地図や図版なども整備されたその第二版（1830 年刊）で、原本は初版と同じく十二折本であったが、読みやすさを考え、20% ほど拡大した B6 判となっている。

『世界旅行者大全』の魅力は、何と云っても、その記述が詳細で、各国の地理・歴史のみならず、名所・旧跡や景勝地、そしてそれらを結ぶ旅行ルートの解説まで懇切丁寧になされているということである。その情報は、今日でも少なからず役に立つ。だが、それにも増して魅力的なのは、この詳細な記述こそ、1830 年の、すなわちヴィクトリア朝をむかえる直前の「大英帝国」が有した世界各地の情報を如実に反映したものであるということだ。それは、この帝国がその後世界中に覇権を展開していくための橋頭堡でもあったと言えるだろう。大英帝国がそれぞれの国をどう捉えていたのか、それがはっきりと分かるのである。

著述と編纂は、ジョサイア・コンダーという一人の精力的な文筆家によってなされた。『パトリオット』をはじめとする雑誌編集や讃美歌作者としても知られるが、イギリスにおける反奴隷制運動の中心的な人物の一人でもあった。鹿鳴館建築で有名な同名の「コンドル」は、彼の孫にあたる。興味深いことに、この『大全』には、実は重要な二つの地域が抜けている。オセアニアと、そして『ガリヴァー旅行記』のような 100 年前のフィクションにさえ登場する日本だ。その不在の理由をあれこれ詮索してみるだけでも実に楽しい。それだけ『大全』としての完成度が高いのである。

第 1 回配本：中東諸国編 全 6 巻+別冊解説 (英文・和文)

Part 1: Palestine, Syria, Asia Minor, Egypt, Nubia, & Abyssinia

2012 年 3 月刊行 総約頁 2,300 頁 ISBN: 978-4-902454-67-3 本体セット価 ¥88,000- (+税)

【第 1 回配本 各巻内容】

Vol. 1: 『パレスチナ』 Palestine, c. 382 p.

Vol. 4: 『アラブ諸国』 Arabia, c. 372 p.

Vol. 2: 『シリア』 Syria 1, c. 360 p.

Vol. 5: 『エジプト』 Egypt 1, c. 374 p.

Vol. 3: 『シリア & 小アジア地域』 Syria 2 & Asia Minor, c. 370 p.

Vol. 6: 『エジプト、ヌビア & アビシニア』 Egypt 2, Nubia & Abyssinia, c. 376 p.

第 2 回配本：インド、ビルマ、ペルシャ、中国 全 7 巻+別冊解説 (英文・和文)

Part 2: India, Birmah, Persia, & China

2013 年 2 月刊行 総約 2,700 頁 (図版 25 点、折込地図 4 点) ISBN: 978-4-902454-68-0 本体セット価 ¥88,000- (+税)

●第 2 回配本は、インドおよびビルマ、ペルシャ、中国を対象に、英国の一般読者へ向けてこの時代の「最新情報」を紹介。

●特に支配力を強めていたインドには 4 巻を費やし、ヴィクトリア朝直前の英国人のインド像を語る文献としても重要資料。

【第 2 回配本 各巻内容】

Vol. 7-10: 『インド』 India c.1,545 pp.

Vol. 12: 『ペルシャ』 Persia 1, c. 376 p.

Vol. 11: 『ビルマ』 Birmah, c. 387 pp.

Vol. 13 『ペルシャ、中国』 Persia 2 & China, c. 356 p.

第 3 回配本：トルコ、ギリシャ、ロシア、スペイン、ポルトガル 全 6 巻+別冊解説 (英文・和文)

Part 3: Turkey, Greece, Russia, Spain, & Portugal

2014 年 3 月刊行 総約頁 2,200 頁 (図版約 20 点、折込地図 3 点) ISBN: 978-4-902454-69-7 本体セット価 ¥88,000 - (+税)

●第 3 回配本は西側諸国とイスラム圏の接点であった 5 地域を中心に 6 巻を復刻。帝国主義の時代に、さまざまな国際紛争の舞台となるこれらの地域への、19 世紀初期の英国人の関心や理解を探る資料としても貴重な文献。

【第 3 回配本 各巻収録地域】

Vol. 14: 『トルコ』 Turkey, c. 368 p.

Vol. 17: 『ロシア』 Russia, c. 348 p.

Vol. 15: 『ギリシャ①』 Greece 1 & The Morea, c. 382 p.

Vol. 18: 『スペイン①』 Spain 1, c. 379 p.

Vol. 16: 『ギリシャ②』 Greece 2 (The Morea & Hellas), c. 352 p.

Vol. 19: 『スペイン②およびポルトガル』 Spain 2 & Portugal, c. 352 p.

第 4 回配本：アフリカ、北米 全 5 巻+別冊解説 (英文・和文)

Part 4: Africa & North America, c.1,820 p. (incl. 16 plates & 3 folded maps)

2015 年 6 月刊行 ISBN: 978-4-902454-70-3 本体セット価 ¥88,000 - (+税)

●第 4 回配本はアフリカと北米地域を扱う 5 巻を収録。

●奴隷貿易の禁止にもかかわらず奴隷制度の残る 19 世紀初頭にあつて、前世紀に三角貿易の中心となっていた英国はアフリカをどのように描いたのか、アメリカ独立の経緯やその後の様々な英米間の衝突、そして植民地カナダに対する「近代」イギリスの視線、等々、ヴィクトリア朝直前の英国と世界との複雑な関係を映し出す格好の同時代資料。

【第 4 回配本 各巻収録地域】

Vol. 20: 『アフリカ①』 Africa 1, c. 384 p.

Vol. 23: 『北アメリカ①』 North America 1, c. 383 p.

Vol. 21: 『アフリカ②』 Africa 2, c. 364 p.

Vol. 24: 『北アメリカ②』 North America 2, c. 342 p.

Vol. 22: 『アフリカ③』 Africa 3, c. 336 p.

第 5 回配本『中南米、南米』全 6 巻+別冊解説

Part 5: Mexico, Guatemala, Colombia, Peru, Brazil & Buenos Ayres, c. 2,170 p. (incl. 19 plates & 4 maps)

2016 年 9 月刊行 ISBN: 978-4-902454-71-0 本体セット価 ¥88,000 - (+税)

【第 5 回配本 各巻収録地域】

Vol. 25: 『メキシコ①』 Mexico 1, c. 382 p.

Vol. 28: 『ペルー』 Peru, c. 372 p.

Vol. 26: 『メキシコ②およびグアテマラ』 Mexico 2 & Guatemala, c. 332 p.

Vol. 29: 『ブラジル①』 Brazil 1, c. 358 pp.

Vol. 27: 『コロンビア』 Colombia, c. 366 p.

Vol. 30: 『ブラジル②およびブエノスアイレス』

Brazil 2 & Buenos Ayres, c. 354 p.

●日本・アジアの服飾・風俗をカラー図版 100 点以上とともに描いた●

ワールド・イン・ミニチュア

—日本・中国・東南アジア・南洋諸島—

全 7 巻 + 別冊解説

The World in Miniature; Japan, China, The Asiatic Islands and New Holland, & South Sea Islands

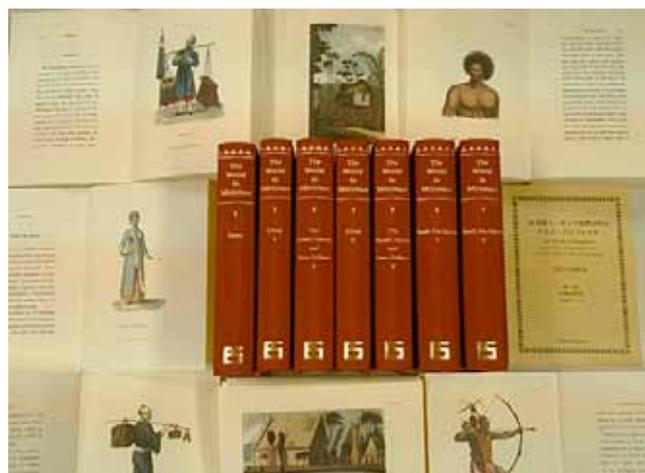
監修・解説●志渡岡理恵（実践女子大学）

2015 年 2 月刊行 A6 判・総約 2,320 頁（カラー図版 102 点）

本体セット価：¥128,000-（+税） ISBN:978-4-86166-185-3

ドイツから移民したルドルフ・アッカーマン（Rudolf Ackermann, 1764-1834）が 1796 年にロンドンに創立したアッカーマン社は、*The Microcosm of London* (3 volumes, 1808-1811), *Westminster Abbey* (2 volumes, 1812) など彩色版画入りの大型絵入り本や、絵入り雑誌 *Repository of Arts, Literature, Fashions* (1809-1829) で知られる、19 世紀の初めの英国を代表する書肆です。なかでも *Repository of Arts* の編集者で、自身イラストレーターでもあったフレデリック・ショバール（Frederic Shoberl, 1775-1853）の編著で刊行した *The World in Miniature* (43 volumes, 1821-6) は、世界各地の地理、文化、風習、服飾などをカラー図版入りで紹介し大成功したシリーズです。文字通り一般読者向けの小型本として製作され、海外に目を向け始めたヴィクトリア期直前の英国近代市民の間で人気を博し、6 年間に全 43 巻が刊行されました。

本集では、この *The World in Miniature* シリーズのなかの、日本（全 1 巻）、中国（全 2 巻）、フィリピン、インドネシアなど東南アジア地域（全 2 巻）、ハワイやニュージーランドを含むミクロネシア・ポリネシア地域（全 2 巻）の計 7 巻を 100 点以上の彩色図版とともに復刻するものです。伝聞や想像をもとに著された 18 世紀の書物の中にある記述とは異なり、この地域を旅し、滞在した西洋人の旅行記などから「事実」を抽出した編集を試みてはいますが、まだそこには多くの誤解や先入観の入ったアジア像が見出されます。産業革命や交通の近代化とともに世界が小さくなりだしたこの時代を象徴する本書は、英国や西洋に日本やアジアの国々がどのように映っていたのかを視覚的にも認識させてくれる興味深い資料です。



監修者より

本コレクションは、19世紀初頭に世界各国の情報を一般読者に提供する目的で刊行された43巻シリーズの一部である。編著者ショバールは、幅広い関心の持ち主で、*New Monthly Magazine* や *The Forget-me-Not* をはじめとする雑誌の編集に携わった。また、*A History of the University of Oxford* (1814) のような大学の歴史を辿った本、旅行文学なども多数出版している。雑学も豊富だったがに違いないショバールの編んだ日本の巻を開いてみると、まず何と言っても目を惹くのは色鮮やかな図版。そこに描かれているのはどこかヘンテコな日本人。目次には、宗教や農業、政府の形態、軍隊、鎖国の理由といった基本情報のほか、「嬰兒殺し」、「自殺」、「地震」などの項目が並ぶ。「蝦夷」も取りあげられている。序文には、参照した先達の名前—Kämpfer、Thunberg、Charlevoix、Titsingh—が挙げられている。例えば、アジアが一般の人々の旅先のひとつになり始めた19世紀末に書かれたイザベラ・バードの旅行記や現在の歴史教科書と読み比べつつ、誤解のメカニズムについて思いを巡らすなど、多様な読み方が楽しめる作品である。

志渡岡理虔



●収録内容●

VOLUME 1:

Japan: containing illustrations of the character, manners, customs, religion, dress, amusements, commerce, agriculture, etc. of the people of that empire

(The world in miniature / edited by Frederic Shoberl) Printed for R. Ackermann, 1823

c. 348 pp. incl. 20 colour plates

Contents: Japanese Islands / Persons of the Japanese / Form of Government / The Dairi, or Spiritual Emperor / Dress of Both Sexes / Houses and Furniture / Marriage / Japanese Language / State of the Roads, Modes of Travelling / Public Festivals and Amusements / Agriculture / Fisheries / Foreigners / Islands of Yesso and Sagaleen, etc.

VOLUME 2-3:

China: containing illustrations of the manners, customs, character, and costumes of the people of the Empire

(The world in miniature / edited by Frederic Shoberl) Printed for R. Ackermann, [1823]

v. 1: c. 275 pp. incl. 15 colour plates

v. 2: c. 304 pp. incl. 15 colour plates

Contents: Mandarin / A Lady of Distinction / Imperial Sedan-Bearer / A Female Bonze / A Watchman / A Matchlock Soldier / An Infantry Soldier / Juggler / A Chinese with Umbrella / Confectioner / Seamstress / Waterman / Itinerant Fruit-Seller / Fruit Stall / A Bookseller's Stall / An Itinerant Flower-Seller / Pedlar / Dog-Seller / Fisherman / Countryman with a Cloak of Rice Straw / Barber / Viper-Seller / Pigeon-Seller / Puppet-Show / The Miao-Tse / Chinese Mahometans / Eleuth Tartar / Corean Mandarin / Filial Respect of the Chinese / Mourning / Funeral, etc.

VOLUME 4-5:

The Asiatic islands and New Holland: being a description of the manners, customs, character, and state of society of the various tribes by which they are inhabited

(The world in miniature / edited by Frederic Shoberl) Printed for R. Ackermann, [1824]

v. 1: c. 338 pp. incl. 14 colour plates

v. 2: c. 324 pp. incl. 12 colour plates

Contents: The Philippine Islands / The Marian Islands / Sumatra / Engano / The Nassau or Poggis Islands / Poulo Nias / Nicoabar Islands / The Andaman Islands / Java / Bali / Timor / Savu / Rottie / Ombay / Borneo / Celebes / Amboyna / Rawak / Waigioo / New Guinea / New Holland / Van Diemen's Land

VOLUME 6-7:

South Sea Islands: being a description of the manners, customs, character, religion, and state of society among the various tribes scattered over the Great Ocean, called the Pacific, or the South Sea

(The world in miniature / edited by Frederic Shoberl) Printed for R. Ackermann, [1824]

v. 1: c. 362 pp. incl. 11 colour plates

v. 2: c. 362 pp. incl. 15 colour plates

Contents: The Friendly Islands / Sandwich Islands / The Marquesas / Easter Island / Society Islands / The Feejee Islands / New Zealand / Radack Islands / The Caroline Islands / New Caledonia / The New Hebrides / Pitcairn's Island

英領インド人の旅した世界

－ 19 世紀～ 20 世紀初頭紀行文集成－ 【復刻集成】 全 5 巻

Indian Travel Writing, 1841-1943

Edited by Pramod K. Nayar, Dept. of English, University of Hyderabad

2016 年 12 月刊行 総約 2,300 頁 本体セット価 ¥128,000- (+税) ISBN : 978-4-86166-193-8

◆英領インド時代に世界各地を旅したインド人が残した英文紀行文。

◆インド人のみた、ヴィクトリア期から戦前期のイギリス、ヨーロッパ、北米、日本含む極東アジア、オセアニア、中東、アフガニスタン、そしてアフリカ。

大英帝国による実質的な植民地化が進んだ 19 世紀半ばのインドでは、西洋の近代的教養を身につけた上流・知識人階級の人々がインド版グランドツアーともいえる海外旅行を始め、その見聞録が英語で出版されるようになります。宗主国イギリスやヨーロッパ大陸だけでなく、アメリカや日本、アジアを旅したこれらの著者の旅の目的はそれぞれですが、支配されている国の支配階級である彼（女）が西洋を旅した際の内からでも外からでもない視線、そして中近東、極東アジアなど非西洋文化圏へ旅したときに抱く西洋人とは異なるエキゾティシズムなど、複雑な植民地言説がこれらの旅行記の中に読み取れます。

本コレクションは、19 世紀～戦前期にインド国内や英米で出版されたインド人による海外旅行記を精選し、それらの抜粋を地域別に編集し復刻にて収録します。王族、政治家、法律家、社会改革家、商人、スポーツ家や芸術家など女性を含む多様な著者による記録で、各地の風俗、地理はもとより、文学・芸術、政治制度、人権、階級といった社会問題など、それぞれ異なる問題意識が特徴的にあらわれている文献を広く集めています。英国・ヨーロッパを 2 巻、北米、極東・オセアニア、中東・アフリカ・アフガニスタンをそれぞれ 1 巻にまとめ、各巻に編者の解説を付します。

植民地史、帝国史やオリエンタリズム、西洋と東洋の間だけでなく非西洋文化圏内の文化接触も含めたグローバル史など、近代史や文化史に関するより深い調査、研究に大変貴重な原資料集です。



■各巻内容■

Volume 1-2: England and Europe (Extracts from 17 books)

Volume 3: North America (Extracts from 8 books)

Volume 4: The Far East, Australia and New Zealand (Extracts from 6 books)

Volume 5: Africa, Afghanistan and the Middle-East (Extracts from 7 books)



■ 内容明細 ■

Volume 1: England and Europe

Introduction

1. Jehangeer Nowrojee and Hirjeebhoy Merwanjee, 'Tour to the Naval Arsenals and Principle Seaports', in *Journal of a Residence of Two Years and a Half in Great Britain* (London: WH Allen, 1841), pp. 385-450.
2. *Diary of the Late Rajah of Kolhapoor during his Visit to Europe in 1870*, Edward West (ed.), (London: Smith, Elder and Co, 1872), pp. 1-41.
3. Lala Baijnath, *England and India* (Bombay: Jehangir B. Karani, 1893), pp. 21-55, 185-207, 208-219.
4. N. L. Doss, *Reminiscences, English and Australasian* (Calcutta: MC Bhowmick, 1893), pp. 34-93.
5. Jhinda Ram, *My Trip to Europe* (Lahore: Mufid-I-Am Press, 1893), pp. 11-32, 45-9, 53-7, 75-85, 95-122.
6. Jagatjit Singh, *My Travels in Europe and America, 1893* (London: George Routledge, 1895), pp. 162-200.
7. Hajee Sulaiman Shah Mahomed, *Journal of My Tours Round the World, 1886-1887 and 1893-1895* (Bombay: Duftur Ashkara Oil Engine Press, 1895), pp. 264-281.
8. Berhamji Malabari, *The Indian Eye on English Life* (Bombay: Apollo, 1895), pp. 148-171, 246-287.
9. Romesh Chunder Dutt, *Three Years in Europe, 1868-1871* (Calcutta: SK Lahiri, 1896), pp. 204-304.

Volume 2: England and Europe

Introduction

10. T. B. Pandian, *England to an Indian Eye, Or English Pictures from an Indian Camera* (London: Elliot Stock, 1897), pp. 4-18, 20-31, 79-83, 91-94.
11. Rakhal Das Haldar, *The English Diary of an Indian Student, 1861-62* (Dacca: The Asutosh Library, 1903), pp. 26-68, 72-84, 88-93.
12. Syed Mahdi Hussain Bilgrami, *Oxford and 'Varsity Life* (NP: A. Venogopaul Pillya and Sons, 1907), pp. 1-55.
13. D. C. Jessawalla, *The Story of My Life* (Bombay: The Times, 1911), pp. 274-297, 334-341.
14. Cornelia Sorabjee, *India Calling: The Memoirs of Cornelia Sorabji* (London: Nisbet, 1934), pp. 19-53.
15. S. Natarajan, *West of Suez* (Bombay: The Indian Social Reformer, 1938), pp. 12-35, 72-93.
16. Kshitish Chandra Banerjee, *My Impressions of the West* (Calcutta: Phani Bhusan Roy, 1938), pp. 102-143.
17. K. J. Kharas, R. D. Gandhi, R. D. Shroff, *Across the Highways of the World*, 2nd ed. (Bombay: NP, 1941), pp. 28-43.

Volume 3: North America

Introduction

18. A. L. Roy, *Reminiscences English and American: Part I: Three Years among the Americans* (Calcutta: Roy, 1888), pp. 35-64, 88-104.

19. Hajee Sulaiman Shah Mahomed, *Journal of My Tours Round the World, 1886-1887 and 1893-1895* (Bombay: Duftur Ashkara Oil Engine Press, 1895), pp. 108-146.
20. Jagatjit Singh, *My Travels in Europe and America, 1893* (London: George Routledge, 1895), pp. 110-154.
21. Sudhindra Bose, *Fifteen Years in America* (Calcutta: Kar, Majumder & Co. 1920), pp. 24-38, 79-100, 261-279.
22. A. J. Appasamy, *Student Life in the West* (Madras: Christian Literature Society for India, 1929), pp. 9-16, 56-63, 72-83.
23. Cornelia Sorabjee, *India Calling: The Memoirs of Cornelia Sorabji* (London: Nisbet, 1934), pp. 290-299.
24. K. J. Kharas, RD Gandhi, RD Shroff, *Across the Highways of the World*, 3rd ed. (Bombay: NP, 1941.), pp. 98-120.
25. D. F. Karaka, *New York with its Pants Down* (Bombay: Thacker & Co., 1946), pp. 9-24, 33-40, 52-58, 81-87.

Volume 4: The Far East, Australia and New Zealand

Introduction

26. N. L. Doss, *Reminiscences, English and Australasian* (Calcutta: MC Bhowmick, 1893), pp. 163-219.
27. Hajee Sulaiman Shah Mahomed, *Journal of My Tours Round the World, 1886-1887 and 1893-1895* (Bombay: Duftur Ashkara Oil Engine Press, 1895), pp. 60-72.
28. Jagatjit Singh, *My Travels in China, Japan and Java, 1903* (London: Hutchinson & Co., 1905), pp. 5-14, 57-99.
29. Sarat Chandra Das, *A Journey to Lhasa and Central Tibet* (New York: EP Dutton and London: John Murray, 1902), pp. 1-44, 104-121, 171-194.
30. Syed Ross Masood, *Some Impressions of Japan* (Hyderabad: Government Central Press, 1926), pp. 3-22.
31. Lalubhai Samaldas, *My Impressions of Japan* (Bombay: DB Taraporewala Sons & Co., 1933), pp. 5-7, 10-21, 106-129.

Volume 5: Africa, Afghanistan and the Middle-East

Introduction

32. Mohan Lal, *Journal of a Tour through the Panjab, Afghanistan, Turkistan, Khorasan, and part of Persia* (Calcutta: Baptist Mission Press, 1834), pp. 71-124, 252-279, 289-305.
33. Hajee Sulaiman Shah Mahomed, *Journal of My Tours Round the World, 1886-1887 and 1893-1895* (Bombay: Duftur Ashkara Oil Engine Press, 1895), pp. 16-23, 40-50, 306-318.
34. Hamid Yar Jung, *A Trip to Baghdad* (Bombay: The Bombay Gazette Press, 1908), pp. 4-28.
35. C. M. Cursetjee, *The Land of the Date* (Bombay: DB Taraporewala, 1918), pp. 30-39, 42-45, 50-61, 70-73, 87-98, 120-124, 138-141, 150-157, 173-183, 212-222.
36. Sorab K. H. Katrak, *Through Amanullah's Afghanistan* (Karachi: DN Patel for Sind Observer and Mercantile Steam Press, 1929), pp. 25-34, 40-44, 60-65, 79-85.
37. K. J. Kharas, R. D. Gandhi and R. D. Shroff, *Across the Highways of the World* (Bombay, 1941), pp. 41-2, 47-70.
38. Kshitish Chandra Banerjee, *Across the Near East* (Calcutta, 1943), pp. 7-75.

アメリカ少年の旅した19世紀の 日本・中国・アジア・アフリカ 【復刻版】 全5巻 The Boy Travellers in the Far East

～ Adventures of Two Youths in a Journey to Japan and China / Siam and Java / Ceylon and India / Egypt and the Holy Land / Africa, By Thomas Wallace Knox

【解説】中垣恒太郎（専修大学）

約2,300頁（図版多数・一部カラー） 本体セット価¥118,000-（+税） ISBN 978-4-86166-154-9

19世紀アメリカの旅行作家トマス・ノックス（Thomas Wallace Knox, 1835-1896）による、1879年から84年に出版された子どもや若者向け旅行記シリーズの復刻版です。

南北戦争時に新聞記者として活躍したノックスは、その後世界を旅し、各地での豊富な経験から40作以上の旅行記を発表、この時代を代表する人気旅行記作家となります。中でも *The Boy Travellers* シリーズはもっとも成功し、世界へと目を向け始めていたアメリカ中産階級の子どもや若者向けの読み物、そして世界の中のアメリカを認識させる啓蒙書として刊行が続けられ、計20タイトルが出版されました。

今回復刻される *The Boy Travellers in the Far East* はこのシリーズ中の一部を成したもので、当初日本、中国からインドへの旅物語3巻本として企画されましたが、読者からの要望に応え、中近東とアフリカの巻が加えられ全5巻となり完結したものです。いずれもアメリカの二人の少年が各国を旅した冒険物語のスタイルをとっていますが、各地の地理、文化、社会、風俗に関する記述は、著者自身の経験に加え、当時の信頼できる書籍（例えば日本に関する情報はオルコックやグリフィスの著書）を活用し、できる限り正確に世界の最新情報を教えるよう心掛けられています。またカラー口絵や本文中の豊富な図版が、子ども達を見知らぬ地へと誘い、視覚的な理解も助けています。

アメリカの時代20世紀が始まる直前、アメリカの子どもたちはアジアについて何を教えられ、どのような知識とともにアジアを眺めていたのか？ 戦前のアメリカの日本・アジア研究者は若い頃にこのような冒険物語を読んでいたのだろうか？ 等々の問いかけとともに、様々な刺激を与えてくれる文献です。観光・旅行、アメリカ文化、児童文学・教育史、日米文化史、比較文化、東西文化接触など広い分野の研究にご活用ください。

【収録内容】

Volume 1:

The Boy Travellers in the Far East Part 1 - Adventures of Two Youths in a Journey to Japan and China, Harper & Brothers, 1879, c. 425 pp.

Volume 2:

The Boy Travellers in the Far East Part 2 - Adventures of Two Youths in a Journey to Siam and Java, with Descriptions of Cochinchina, Cambodia, Sumatra and the Malay Archipelago, Harper & Brothers, 1881, c. 450 pp.

Volume 3:

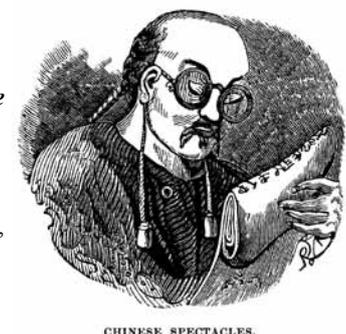
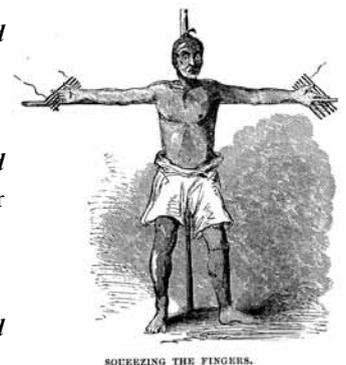
The Boy Travellers in the Far East Part 3 - Adventures of Two Youths in a Journey to Ceylon and India, with Descriptions of Borneo, the Philippine Islands and Burmah, Harper & Brothers, 1881, c. 490 pp.

Volume 4:

The Boy Travellers in the Far East Part 4 - Adventures of Two Youths in a Journey to Egypt and the Holy Land, Harper & Brothers, 1882, c. 440 pp.

Volume 5:

The Boy Travellers in the Far East Part 5 - Adventures of Two Youths in a Journey through Africa, Harper & Brothers, 1884, c. 480 pp.



米国キリスト教宣教師が語った 20 世紀初頭の東北

復刻版 英文東北案内 全1巻

Tohoku, the Scotland of Japan

by Christopher Noss & Associates of the Tohoku Mission

(Philadelphia: Board of Foreign Mission, Reformed Church of the United States, 1918)

2011 年 5 月刊行 (底本 1918 年刊) 約 385 頁 (図版多数、折込みカラー地図 2 点)

本体価 ¥9,524- (+税) ISBN: 978-4-86166-148-8

西洋に紹介された東北というと、まず英国人女性旅行家イザベラ・バードの名前があげられるでしょう。1878 年に来日したバードは、新潟、福島から東北地方の日本海側を北海道へと旅します。途中宿泊した山形の内陸盆地の自然の美しさを「東洋のアルカディア」と称賛し、その旅行記『日本奥地紀行』(*Unbeaten Tracks in Japan*) は、今日も版を重ねるバードの代表作となりました。しかし、英米で広く読まれたこの旅行記の成功にもかかわらず、その後東北地方を訪れ、記録を残した西洋人は少なく、日本を広く扱った英文概説書や旅行ガイドに触れられた短い記述を除けば、この明治から昭和初期に、東北を海外で紹介した本格的英文書はほとんど知られていません。このように、近代日本と西洋の接触で、この地方が表舞台に立つことは一般にはあまりなかったといえますが、1880 年代に来日し、仙台神学校、宮城女学校の創立に尽力した W. E. ホーイ (W. E. Hoy, 1858-1927) や D. B. シュネーダー (D. B. Schneder, 1857-1938) ら、米国改革派教会 (Reformed Church in America) の宣教師は東北の近代教育の成立に大きな足跡を残し、彼らのキリスト教伝道学校を母体に東北学院、宮城学院等の教育機関が設立されてゆきました。

今回復刻出版いたします *Tohoku, the Scotland of Japan* は、前述ホーイやシュネーダーの志を継ぎ、20 世紀初頭に東北でキリスト教伝道や教育活動にあっていた宣教師 3 名による、英語で書かれた初の東北案内といえる文献で、フィラデルフィアにて 1918 年に刊行されました。東北 (6 県に加え新潟も含む) の歴史、地理、宗教、産業や人々の生活などを記述した前半部分と、キリスト教伝道や東北学院、宮城学院での教育活動などを中心内容とする後半部分からなり、約 165 の項目がさらに細かい見出しに分けられ、東北事典としての利用もできるように編集されています。また、視覚的東北理解を助けるため、55 点の写真やカラーの折込み地図 2 点も加えられています。主筆者のクリストファー・ノッス (Christopher Noss, 1869-1934) は明治末期に来日、仙台で活動を始めた後、会津若松などに移り、青森でその生涯を終えた宣教師で、その間日本語教科書 *A Text-book of Colloquial Japanese* (1903) も出版、まさに日本と東北に捧げた一生だったといえます。本書のタイトルは、ホーイの協力のもと東北学院と宮城学院を創立した、押川方義の言葉「東北をして日本に於けるスコットランドたらしめん」によるものと考えられますが、そこには大英帝国のなかのスコットランドのように、帝国日本のなかで独自の歴史、文化をはぐくむ東北に対する、100 年前のアメリカ人の熱いまなざしが感じられます。



18世紀英国の風刺作品に描かれた日本

全5巻+別冊日本語解説

Japan in Eighteenth-Century English Satirical Writings

【編集・解説】 島田孝右

A5判・約1,720頁 本体セット価 98,000- (+税) ISBN 978-4-86166-034-4

●本文献集について●

風刺の時代を象徴する18世紀に刊行された、日本を舞台にしたフィクション集。イギリスを日本に譬えて、鋭い筆致でイギリスを風刺している作品が中心である。日本人だと自称し、ペテン師として有名なサルマナザールの『台湾の歴史と地誌』は、主人公は日本皇帝であり、モンタヌスの『日本誌』と同じくオランダ人の「踏み絵」を描いている。ピカレスク小説で知られるスモレットの『アトム冒険』は、ケンベルの『日本誌』(1727)から歴代天皇の名前などを借用して、イギリス政界を風刺する。スウィフトの『日本の宮廷と帝国』もイギリスを風刺する。『日本史断章』はイギリスとアイルランドの関係を追及する。『豊後の王シヴァン』(フランス語版、1754からの英訳)は、メンデス・ピントーの『東洋遍歴記』を題材にし、イギリスを日本に譬え、フランスなどを舞台にした小説で、シヴァンは豊後の王オリジヤンドー(大友宗麟)の息子。この作品は、パリで出版されたオーショアンの『平戸の王女、ミジリダ』(1738-43)を想起させる。(島田孝右)

■収録文献■

VOL.1: [c390pp]

Psalmanazar, George

A Historical and Geographical Description of Formosa, ... giving an account of the religion, customs, manners, &c. of the inhabitants. Together with a relation of what happen'd to the author in his travels; particularly his conferences with the Jesuits, and others ... Also the history and reasons of his conversion to Christianity ... To which is prefix'd a preface in vindication of himself from the reflections of a Jesuit lately come from China ... Illustrated with several cuts. London, 1704, 356pp.

Anon.

Man Unmask'd: being a wonderful discovery lately made in the Island of Japan: written in the Japanese language by the Spirit of Contradiction, and translated into English ... by Sir Tristan Nerebegood, etc., London, 1706, 32pp.

VOL.2:[c420pp]

Jolyot de Crebillion, Claude Prosper

The Skimmer; or, the history of Tanzai and Neadarne. [From the French of C. P. J. de C.], London, 1735, 415pp.

VOL.3:[c270pp]

Anon.

The Perseis; or, secret memoirs for a history of Persia.

[Translated from the French.], London, 1745, 232pp.

Loon, Van, pseud

A fragment of the Japanese History: translated from the High Dutch of Mr Van Loon.

With notes, London, 1749, 24pp

VOL.4:[c420pp]

Swift, Jonathan

An account of the court and empire of Japan, 1765, 10pp

Smollett, Tobias George

The history and adventures of an atom, Dublin, 1769, 417pp

VOL.5: [c220pp]

Anon.,

Civan, King of Bungo. [By J. M. Le Prince de Beaumont.] Translated from the French.

By a young lady of fashion, not more than twelve years old, Tamworth, 1800, 220pp



日英交流史近世書誌年表 全1巻

Bibliographic Chronology of Anglo-Japanese Relations 1497-1800

【編集】島田孝右（元専修大学教授）

2005年1月刊行 B5判・約250頁（上製函入） 本体価 ¥9,333-（+税） ISBN: 4-902454-06-8

本書の特色

- 16世紀から18世紀末までに刊行された、日本の記述を含む英文書を網羅した書誌年表
- 日英両国や日欧交流史の主要事項と書物史を並置した例のないレファレンス
- 日英交流史と日本のイメージ形成の主要素であった書物の関係を概観
- 同編者による『近世日本関係英国史料集成』（本の友社刊）を補完する史料としても重要
- 英学史、比較文学・文化、英国近世史、メディア史等の研究・教育に幅広く活用可能



日本関連英語文献書誌 1555-1800

全1巻

Japan 1555-1800: A Comprehensive Bibliography of Printed Books in English

【編集】島田孝右（元専修大学教授）

2012年3月刊行 B5判・約325頁 本体価：¥24,800-（+税） ISBN 978-4-86166-147-1

本書の特色

- 1800年までに英語で出版された刊本で、日本に関する記述を含む約4,500文献（著者数約2,270名）を網羅した書誌目録。
- 『近世日本関係英国史料集成』全28巻（本の友社）、『日英交流史近世書誌年表』（ユーリカ・プレス）、『近世日英交流地誌地図年表 1576-1800』（雄松堂出版）等、日英交流史研究に必携の史料を纏めてきた編集者の長年にわたる調査、研究の集大成。
- これまでの編著書に含まれなかった約3,000点のデータを含み、各文献中の日本関連記述のある頁ナンバーを記す画期的書誌目録。
- 巻末の索引により、著者名あるいは雑誌タイトルからの調査も可能。
- 日英交流史研究を始め、18世紀を中心とした英国近世・近代史や文学研究の基本レファレンスとしてご利用ください。

『ジャポニスムの系譜』第10配本

パリ装飾芸術美術館浮世絵版画展 1909～1914年 全図録集成

【復刻版】図録6点・合本3巻+別冊解説

Estampes japonaises, tirées de diverses collections et exposées au
Musée des Arts Décoratifs de Paris 1909-1914

Collection des Catalogues dressés par M. Vignier avec la collaboration de M. Inada

【監修・解説（日本語）】南明日香（相模女子大学教授）

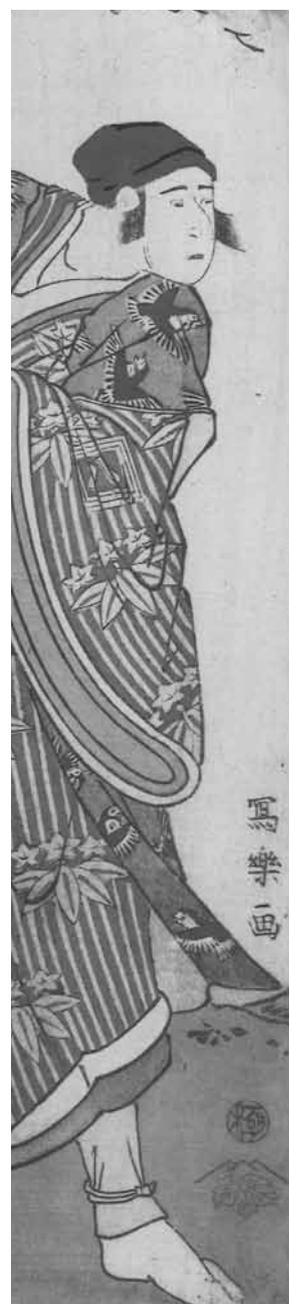
【シリーズ監修】馬淵明子（国立西洋美術館館長）

2018年9月刊行（限定100部） B4判 全3巻・総約950頁（図版約1056点、内カラー約68点）
本体セット価¥148,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-203-4



1909年から1914年の6年間、毎年1-2月にパリ装飾芸術美術館にて開催された、大規模な浮世絵版画展の大判図録6点の完全復刻版です。フランス19世紀末ジャポニスムブームの立役者で、後に同館の副館長となるR. ケクランの企画・監修により実現したこの展覧会では、師宣、写楽、歌麿、北斎のような人気浮世絵師から知名度の低い絵師まで約130作者の作品約2300点と関連の書籍を6回に分け展示するという類のないシリーズ展でした。ジャポニスム期を代表する美術商ビング、ラファエル・コラン、アンリ・リヴィエールといった同時代の画家、宝石商アンリ・ヴェヴェールのような美術愛好家など、多彩な日本美術コレクター66名の収集品が出品され、また日本美術の所蔵を始めていたルーヴル美術館とパリ装飾芸術美術館の所蔵品版画も一部展示されました。それまでに開催されていた個人コレクター収集品の日本美術展などとは規模、網羅性でも一線を画し、浮世絵版画史の時代区分に従い系統的に企画された初の浮世絵版画展で、ジャポニスム期の西洋での日本美術受容を明らかにするだけでなく、その後の西洋での浮世絵研究を大きく広げる画期的な展覧会となりました。しかし、6分冊で刊行された展示図録は各限定部数(100～130部)発行の豪華本であったため、図書館、研究機関での所蔵も極めて少なく、その全容を知ることが容易ではなく、本展覧会にかんする本格的な研究もまだあまり進んでいません。

今回の出版は余白を詰めますが、原寸に近い大判（B4判）で、カラー図版もすべて収録する初の完全版です。内容は、ケクランによる解説（一部共著）と展示品目録および主要作品の図版からなります。目録の編集は、詩人・文学者であると同時に美術商としてl'Hôtel Drouotでレイ・ゴンス収集品など日本美術の競売にも関わったシャルル・ヴィニエが担当し、展示作品の主題と判型、絵師名に加え、版元や彫師、所蔵者名などの情報もわかる範囲で掲載、この時代の西洋での浮世絵版画研究の水準を示しているといえます。ジャポニスム研究、国際浮世絵研究だけでなく、より広く日本美術史、東西文化接触史研究に必携の一次資料です。



推薦文

小林 忠（国際浮世絵学会会長）

従来『ヴィニエ - 稲田版画目録』の名で知られている稀覯書が復刻されるという吉報が届いた。

原書は、ジャポニスムの熱狂がまだ冷めやらない20世紀初頭、1909年から1914年にかけて、6年間6回にわたりパリの装飾芸術美術館で開催された系統的な浮世絵展の、詳細なカタログである。企画者は同館の副館長R・ケクランで、目録の編集にあたったのは、パリの美術商シャルル・ヴィニエと当時遊学中であった京都の美術商稲田賀太郎であった。

全展示作品の目録とそのうちの優品を収めた図版からなる大型図録は、当時のパリを中心とするヨーロッパの浮世絵コレクションの全貌をうかがうに足るものであった。しかしながら、刊行された6分冊は100部から130部という稀少な豪華限定本であり、日本の浮世絵やジャポニスムの研究者も容易に目にすることが叶わない、幻の画集と言って過言ではなかった。それが、ほぼ原書の味わいを損なうことなく再現されるとのことなので、復刻の意義はすこぶる大きく、有難い。

一日も早く手に取って、その床しい風味を味わいたく、全巻の刊行完結を切望している。



●収録内容●

第1巻

Estampes japonaises primitives, exposées au Musée des arts décoratifs en Février 1909

1909年浮世版画展図録：初期浮世絵版画（仏教版画や菱川師宣、鳥居清信など24名の絵師の作品）

解説（Raymond Kœchlin）3頁 | 目録（掲載328点）23頁 | 図版（白黒170点）：64頁

Harunobu, Koriusai, Shunsho : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1910

1910年浮世版画展図録：鈴木春信、磯田湖龍齋、勝川春章を中心に約33名の絵師の作品

解説（Raymond Kœchlin）14頁 | 目録（掲載328点）46頁 | 図版（白黒点90点、カラー5点）67頁

第2巻

Kiyonaga, Buncho, Sharaku : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1911

1911年浮世版画展図録：鳥居清長、一筆齋文調、東洲齋写楽を中心に約8名の絵師の作品

解説（Raymond Kœchlin）23頁 | 目録（掲載335点）31頁 | 図版（白黒点189点、カラー20点）102頁

Utamaro : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1912

1912年浮世版画展図録：喜多川歌麿を中心に約10名の絵師の作品

解説（Raymond Kœchlin）19頁 | 目録（掲載306点）28頁 | 図版（白黒点207点、カラー15点）114頁

第3巻

Yeishi, Choki, Hokusai : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1913

1913年浮世版画展図録：鳥文齋栄之、栄松齋長喜、葛飾北斎を中心に約24名の絵師の作品

解説（Raymond Kœchlin）25頁 | 目録（掲載405点）32頁 | 図版（白黒点249点、カラー14点）143頁

Toyokuni, Hiroshigé : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1914

1914年浮世版画展図録：歌川豊国、歌川広重を中心に約26名の絵師の作品

解説（Raymond Kœchlin & Charles Vignier）11頁 | 目録（掲載404点）30頁 | 図版（白黒点151点、カラー14点）100頁

『ジャポニズムの系譜』第9配本

ジェームズ・ロード・ボウズ 日本美術工芸関連著作集成

【英文復刻版】全5巻＋別冊日本語解説

Collected Works of James Lord Bowes on Japanese Art

●解説●桑和沙（日本女子大学）

Series: *Western Sources of Japanese Art and Japonism*

【監修】馬淵明子

2015年12月刊行 本体セット価¥148,000-（＋税）

ISBN 978-4-86166-192-1

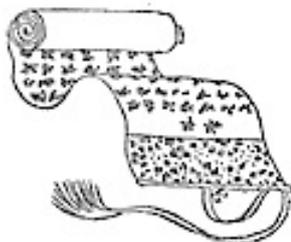
全約2,030頁（カラー図版約110点）判型：第1-4巻＝B5判／第5巻＝A4判



◆イギリス・ジャポニズムのもう一人の立役者ボウズの 著作など9文献を5巻に収録、カラー図版多数掲載◆

19世紀末の英国で、日本美術の蒐集やその紹介に大きな功績を残した、ジェームズ・ロード・ボウズ（James Lord Bowes, 1834-1899）の初めての著作集成です。産業革命期の英国の中心地の一つ、貿易都市リヴァプールの羊毛商として財をなしたボウズは、1867年のパリ万博で目にした日本の展示品から日本美術への関心を持ち、本格的なコレクションを始めたと言われていました。横浜と直通航路が開通したりリヴァプールという地の利もあり、林忠正、南方熊楠、高橋義雄、加藤高明ら多くの日本人と親交をむすんだボウズは、彼らから得た情報なども使い、生涯に2600点を超える日本の美術工芸品を蒐集します。1888年にはリヴァプールの初代日本名誉領事に就任、1890年に自らのコレクションの展示を目的とする英国初の日本美術館、ボウズ美術館を開館、さらに自宅を日本風に装飾して行った演劇や音楽のイベント「ジャパニーズ・ファンシー・フェア」を催すなど、その後半生を日本美術と日本文化の英国への紹介に捧げます。

ボウズは、自身の美術館の手引き書を始め、陶器や七宝に関する研究書など、出版活動も積極的に行いましたが、本著作集では、それら書籍全点を復刻し、また関連資料としてその美術コレクション競売時の売立て目録を収録します。死後、美術館が閉鎖され、コレクション全点は競売され散逸、その大半の所在が今日でも不明なため、彼の活動の全容を知ることは極めて難しくなっています。今回のこの著作集は、ボウズの英国での日本美術の受容において果たした役割を探る上で、大変貴重な資料となりますし、またボウズを通じ、ジャポニズムや19世紀英国と日本の文化接触に関する、新たな研究を展開するための一次文献集としても、広くご利用いただけます。



ボウズ著作集刊行によせて

ジェームズ・L. ボウズは、知名度は低い、じつに面白い人物である。実業家であり、1890年代に、リヴァプールに「日本美術館」を作って、さかんに日本美術の伝播に貢献した。リヴァプールに上陸する日本人を次々と歓待して自邸に泊め、交流した。なかに、南方熊楠や加藤高明などがいる。そのうえ、日本の工芸に関する本や論文を書いた。当時欧米語でのこの分野の本が極めて少ないころのことである。アメリカ人で日本にお雇いとしてやってきたエドワード・シルヴェスター・モースも陶磁器に関心を持ち、ボウズの書いたものを輸出用の近代の作品に基づいているとして批判したが、ボウズ自身はいわゆる名品コレクターというより、それらの作品に日本のものの見方や風俗を読み取ることが第一の目的であったと思われる。名品コレクターは自分の財力や鑑識眼を誇る傾向にあるが、そうしたボウズの「日本から多くを学ぶ」という姿勢は、コレクターとしては珍しい。残念なことに彼の早い死によって、美術館は十年で姿を消し、コレクションは散逸した。その復元はかなり困難であるが、英国や西洋各地に散って、彼が希望した日本の深い理解に貢献することになったと言えるのではないか。

このたびボウズの著作がまとまって刊行されることになった。ジャポニスム研究のうえでも、日本美術の海外での受容研のうえでも、きわめて重要な役割を果たすことになる。たいへんありがたいことである。

馬淵明子

CONTENTS

Volume 1:

Japan: An Interview with H.I.M. Consul at Liverpool, Liverpool: D. Marples (Printed by), 1889.

Handbook to the Bowes Museum of Japanese Art Work, Liverpool: E. Howell, 1890.

Handbook to the Bowes Museum of Japanese Art Work: Streatlam Towers, Liverpool, Liverpool, 1894.

A Vindication of the Decorated Pottery of Japan, Liverpool: D. Marples (Printed by), 1891.

Japanese Enamels, with Illustrations from the Examples in the Bowes Collection

Liverpool: D. Marples (Printed by), 1884.

Volume 2:

Notes on Shippo: As Sequel to Japanese Enamels, London: Kegan Paul, Trench, Trübner & Co., 1895.

Catalogue - The "Bowes" Collection of Japanese Art, Liverpool: Branch & Leete, Auctioners, 1901.

Volume 3:

Japanese Marks and Seals, London: Henry Sotheran, 1882.

Volume 4:

Japanese Pottery. with Notes Describing the Thoughts and Subjects Employed in Its Decoration and Illustrations from Examples in the Bowes Collection, Liverpool: E. Howell, 1890.

Volume 5:

Keramic Art of Japan [with George Ashdown Audsley]

Vol. 1: Liverpool & London: Henry Sotheran, 1875.

Vol. 2: Liverpool & London: Henry Sotheran, 1875.

別 冊

日本語解説：糸 和沙

The Gardens of Uyeno and Asakusa, Yedo, Liverpool, 1894, Transcribed Text



フランス人コレクターの 日本美術品売立目録

16 文献・合本 6 巻＋別冊日本語解説

Catalogues des Ventes des Collections d'Art Japonais

【編集・解説】馬淵明子

2011 年 9 月刊行 本体セット価¥148,000- (+税) ISBN 978-4-86166-059-7

B5 判 (Vol. 1-5) & A4 判 (Vol.6)・全約 3,200 頁 (図版多数)

本書の特色

- フランス・ジャポニズム期を代表する美術コレクター 8 名の日本・極東美術収集品のオークションカタログ 16 点を集成。多数の図版も洩れなく収録。
- フランスでの日本美術の受容の研究と同時に、今日注目される研究テーマ、海外へ流出した日本美術品調査のための一次資料としても極めて重要。

19 世紀末から 20 世紀初頭の、西洋における日本美術受容研究のための同時代の文献や史料を、原本の復刻で提供するシリーズの第 7 回配本は、ジャポニズム期を代表するフランス人日本美術コレクターの美術品売立目録を復刻集成します。

ジャポニズムという用語を初めて使用したとされる美術評論家フィリップ・ビュルティエ、「知られざるオリエンタリスト」ピエール・バルブト、林忠正の協力で『歌麿』や『北斎』を著した作家エドモン・ド・ゴンクール、『パリ・イリュストレ』誌などを手掛けた印刷業者で同誌の日本特集号では編集長を務めたシャルル・ジロ、ジャポニズムを代表する美術商で月刊誌『芸術の国日本』を出版したことで有名な S. ビング、印象派絵画のコレクターとしても知られるアレクシス・ルアール、アルザス地方ミュルーズの著名な製糸業者の一族で、オランダ美術、印象派、日本美術などのコレクターとして名を知られたジャン・ドルフュス、そして『ガゼット・デ・ボザール』の編集長でジャポニズム・ブームの立役者ルイ・ゴンス、以上 8 名のコレクションの売立目録計 16 点を収録します。利用の便を図り、一部の文献は原本を若干縮小しますが、多数の図版も含め出来る限り原本を忠実に復刻いたしました。

売立目録は、各時代に美術品がどのように評価され、社会に受容されていたのかを伝える生の記録として注目されている一次資料です。本コレクションも、フランス人美術コレクターの日本美術収集活動の研究だけでなく、林忠正やビングなど美術商がヨーロッパでの日本美術の受容に果たした役割、西洋で受け入れられた日本美術の傾向、そして今日注目の集まる日本美術品の海外への流出の調査など、美術・文化史研究に、広くご活用ください。

*本書出版に際しましては、利便性を考え、原本余白部分を必要に応じ削除し、コンパクトなサイズで復刻しておりますが、一部の目録はテキスト・図版部分にも若干の縮小がなされています。

【収録内容】

VOL. 1: [Philippe Burty] ビュルティエ 1891 年 3 月売立目録 2 点 (B5 判・570 頁)

VOL. 2: [Goncourt] ゴンクール兄弟 1904 年 3 月売立目録 1 点 (B5 判・464 頁)

VOL. 3: [Gillot, Charles] ジロ 1904 年 2 月 & 4 月売立目録 2 点 (B5 判・776 頁)

VOL. 4: [Pierre Barbouteau, Alexis Rouart] バルブト 1904 年 6 月、1905 年 11 月、1908 年 4 月、1924 年 3 月売立目録 5 点、ルアール 1911 年 5 月売立目録 1 点 (計 6 点 B5 判・628 頁)

VOL. 5: [Jean Dollfus & Gonse, Louis] ドルフュス 1912 年 5 月売立目録 1 点、ゴンス 1924 年 5 月、1926 年 4 月売立目録 3 点 (計 4 点 B5 判・580 頁)

VOL. 6: [Bing, S.] ビング 1906 年 5 月売立目録 6 分冊 1 点 (A4 判・約 330 頁)

ジュディット・ゴーチエ

—日本・中国趣味著作集—【復刻集成】全5巻+別巻『蜻蛉集』

Le Japon et la Chine dans les œuvres de Judith Gautier

5 vols. + Poèmes de la libellule

【編集・解説】小山ブリジット（武蔵大学）【別冊■解説和訳 隠岐由紀子（帝京平成大学）】

2007年3月刊行 約2,800頁 本体セット価 ¥128,000- (+税)

第1-5巻：A5判 / 別巻：変形B5判 [カラー] ISBN 978-4-86166-037-5

ピエール・ロティとならぶ、フランス文学におけるジャポニスム・オリエンタリズムの中心人物、ジュディット・ゴーチエ Judith Gautier (1846-1917) の初めての復刻著作集です。父テオフィル・ゴーチエの影響もあり東洋への関心を抱いたジュディットは、父とともに訪れた1862年ロンドン万博の後、本格的に中国語を学び、1867年に唐詩の翻訳 *Livre de jade*、69年に中国を主題とした小説 *Le dragon impérial* を発表します。その後、日本の開国により渡仏する日本人留学生や外交官の多くが彼女のサロンを訪れ、彼らとの交流から作品の主題も日本へと広げられ、1875年に日本を題材とした初めての小説 *L'usurpateur* を出版します。それは、後に戯曲 *La fille du ciel* を共著することにもなるピエール・ロティが『お菊さん』を刊行する約10年前のことです。その後も数多く著された日本・東洋趣味の作品の中には、1900年のパリ万博での貞奴の公演のための舞踊劇の台本 *La musique japonaise* のような珍しいものも含まれますが、なかでもパリ留学中の西園寺公望が『古今和歌集』などから選んだ和歌の仏訳『蜻蛉集』 *Poèmes de la libellule* (1884年) は、山本翠水の挿絵の効果もあり評判を呼び、19世紀末フランスでのジャポニスムブームを現す書物として大変貴重なものです。

本復刻集は、ジュディット・ゴーチエの日本と中国を題材とした作品のうち、現在の版で入手できるものを除き、初版または同時代の版を復刻するものです。フォリオ判の『蜻蛉集』も別巻に収録いたしました。

ジャポニスム研究が絵画、美術の分野からより広く文学、文化研究へと展開している今日、本著作集をどうぞこれからの幅広い研究のための一次文献集としてお役立てください。

■収録文献■

VOL. 1 [c.390pp]

Introduction de Brigitte Koyama-Richard

Le dragon impérial : Roman chinois

Paris: [1869] Librairie Armand Colin, Nouvelle ed. 1900, 344pp

Aventures de Momotaro: Très ancienne légende japonaise,

traduction et adaptation de Judith Gautier, illustrations du peintre japonais R. Isayama.

Paris: Édition de la Phosphatine Falières, 30pp

VOL. 2 [c.535pp]

La sœur du soleil (L'usurpateur)

Paris: [1875] Dentu & Cie., Nouvelle ed. 1887, 417pp.

La marchande de sourires

Paris: G. Charpentier et Cie., 1888, 117pp

VOL.3 [c.615pp]

Fleurs d'orient

Paris: Librairie Armand Colin, 1893, 277pp

La Musique japonaise à l'exposition de 1900

Paris: Librairie, Paul Ollendorff, 1900, 30pp

Les princesses d'amour

Paris: Société d'éditions littéraires et artistiques, 1900, 305pp

VOL. 4 [c.530pp]

Le paravent de soie et d'or

Paris: Librairie Charpentier et Fasquelle, 1904, 279pp

La fille du ciel (avec Pierre Loti)

Paris: [1911] Calmann-Levy, 15e ed., 1925, 249pp

VOL. 5 [c.590pp]

Le Japon (Merveilleuses histoires)

Vincennes: Les Arts Graphiques, 1912, 125pp

En Chine (Merveilleuses histoires)

Vincennes: Les Arts Graphiques, 1912, 125pp

Les parfums de la pagode

Paris: Librairie Charpentier et Fasquelle, 1919, 336pp

別巻: [c.130pp]

Introduction de Brigitte Koyama-Richard

Poèmes de la libellule, traduits du japonais d'après la version littérale de M. Saionzi, illustrés par Yamamoto

Paris: Gillot, 1884, 120pp

※別巻のみ分売を承っております。

本体価 ¥19,800- (+税) ISBN: 978-4-86166-049-8

全頁カラー・原本を B5 変形 (21 cm × 27 cm) に縮小



ヨネ・ノグチ英文著作集シリーズ

第1集：詩集・小説・評論 18タイトル・合本6巻+別冊

Collected English Works of Yone Noguchi: Poems, Novels and Literary Essays

【監修・解説】 亀井俊介（東京大学名誉教授）

本体セット価 円128,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-036-8

- ◆明治26年、アメリカに渡り、20世紀初頭の英米文壇でセンセーションを巻き起こした、「アメリカ産の日本詩人」ヨネ・ノグチ＝野口米次郎の英文著作の初の集成。
- ◆「朝顔嬢」(Miss Morning Glory)の偽名で発表したジャポニスム小説を初め、当時の英米での日本文化像に大きな影響を与えた文芸評論、随筆と詩集のすべてを復刻。

●各巻収録文献●

VOL. 1: [Novels]

The American Diary of a Japanese Girl, by Miss Morning Glory, New York: Frederick A. Stokes & Co., 1902

The American Letters of a Japanese Parlor Maid, by Miss Morning Glory, Tokyo: Fuzanbo, 1905

VOL. 2: [Literary Essays]

Ten Kiogen in English, Tokyo: Tozaisha, 1907

Kamakura, Yokohama: Kelly & Walsh / Kamakura: The Valley Press, 1910

Lafcadio Hearn in Japan, London: Elkin Mathews / Yokohama: Kelly & Walsh, 1910

VOL. 3: [Literary Essays]

Through the Torii, London: Elkin Mathews, 1914

The Spirit of Japanese Poetry, London: John Murray, 1914

The Spirit of Japanese Art, London: John Murray, 1915

VOL. 4: [Literary Essays]

The Story of Yone Noguchi, Told by Himself, London: Chatto & Windus, 1914

Japan and America, Tokyo: Keio University Press / New York: Orientalia, 1921

VOL. 5: [Poems]

Seen & Unseen; or, Monologues of a Homeless Snail, 2nd ed., New York: Orientalia, 1920

The Voice of the Valley, San Francisco: William Doxey, 1897

From the Eastern Sea, 3rd ed., Tokyo: Fuzanbo, 1903

Japan of Sword and Love, by Joaquin Miller and Yone Noguchi, Tokyo: Kanao Bunyendo, 1905

The Summer Cloud, Prose Poems, Tokyo: Shunyo-do, 1906

VOL. 6: [Poems]

The Pilgrimage, Kamakura: The Valley Press / Yokohama: Kelly & Walsh, 1909

Japanese Hokkus, Boston: The Four Seas Co., 1920

The Ganges Calls Me, Book of Poems, Tokyo: Kyobunkwan Press, Tokyo, 1938

別冊 (c.62 pp.) * 日本語解説「ヨネ・ノグチの英文著作」 亀井俊介

* Miscellaneous Writings on Yone Noguchi

1) The Poetry of Yone Noguchi, by Arthur Ransome

2) America as a Fountain of Youth to the Japanese,
by John Walker Harrington

from The New York Times Magazine, January 18, 1920

3) 7 Reviews from The Times Literary Supplement



ヨネ・ノグチ英文著作集シリーズ 第3集

ヨネ・ノグチとリトル・ポエトリー・マガジン 全3巻 + 別冊解説 (日本語)

Yone Noguchi and the Little Magazines of Poetry :

A Facsimile Collection of “The Lark”, including “The Epilark” “The Twilight” and “The Iris” (『あやめ草』 & 『豊旗雲』)

【監修・解説】 亀井俊介 (東京大学名誉教授)

総約 730 頁 判型: A5 判 本体セット価¥58,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-121-1

世紀末のアメリカ西海岸文化にひろがるボヘミアニズムは、単身日本を離れサンフランシスコに移り住んだヨネ・ノグチに強い刺激を与えました。とくに、この風潮のなかで若き詩人や芸術家が、表現の場として自ら作り出していった多くのリトル・マガジンは、詩人としての成功を夢見るノグチにとっても大変魅力的な発表の場だったようで、さまざまなボヘミアン雑誌へ詩の投稿を始めます。そのなかで、ノグチの才能に注目したのが *The Lark* 誌です。詩人 Gelett Burgess と芸術家 Bruce Porter を中心にした Les Jeunes という名称のグループが発行していたこの詩誌は、1896年7月号の巻頭に一举5篇のノグチの詩を掲載し、詩人としてのデビューの場を彼に与えました。その作品はその後定期的に本誌面を飾り、雑誌廃刊後には、Burgess と Porter の尽力で初めての詩集 *Sea and Unseen*、そして *The Lark* の発行者 William Doxey が第2詩集 *The Voice of the Valley* を出版し、詩人として認められることとなります。同じ頃ノグチは、*The Twilight* という8頁のガリ版刷雑誌を手作りし、自らの韻文作品を M. Takahashi というイラストレータ (?) の挿絵とともに出版し、販売することも試みます。これは、わずか2号で廃刊してしまうものの、この時代のアメリカ西海岸で、無名の日系詩人が身を置いていた文化的環境を、今でもいきいきと伝えてくれる、貴重で魅力的な文学資料です。

英米での成功の後、帰国しすでに国際詩人としての名声をほしいままにしていたノグチは、内外の詩人達との交流を広げ、「あやめ会」という詩人の会を主宰、その会から英和2ヶ国語による詩の小雑誌 *The Iris* (「あやめ會詩集」) を創刊します。*The Lark* にノグチの詩が掲載されてからちょうど10年後のことです。当初季刊誌を目指したこの詩誌は、会の内紛などもあり2号しか刊行されずに終わりますが、日本から蒲原有明、岩野泡鳴、上田敏などの新体詩人、英米から Arthur Symons, W. B. Yeats, Mary Fenollosa らの作品が誌面を飾っています。

ヨネ・ノグチの英文著作を復刻にて集成するシリーズの第3集は、これら3誌の全号を復刻収録いたしました。国際詩人ノグチを育てたこれらの小雑誌は、ノグチ研究の文献であるだけでなく、アメリカ・モダニズム詩・文化と日本の近代詩史の比較研究などにも役立つ貴重な文献です。少数発行のこれらの雑誌は、すでに稀覯文献となっている上、紙質も悪く原本の研究への使用も難しくなっております。どうぞこの復刻版を広くご活用ください。

ヨネ・ノグチ (野口米次郎) 英文著作集第2集

復刻集成版 浮世絵および日本美術評論集 全3巻

Books on Ukiyoe and Japanese Arts in English by Yone Noguchi

監修・解説 ■ 稲賀繁美 (国際日本文化研究センター教授)

総約 1200 頁 A5 判 (Vol. 1 & 2) / A4 判 (Vol.3) 本体セット価¥89,800- (+税) ISBN 978-4-86166-095-5

20世紀に英米で絶賛された国際詩人ヨネ・ノグチは、詩、小説や文芸評論と同時に、日本美術の西洋社会への紹介者としても、多くの英文著作を残しています。浮世絵論を中心としたこれらの著作は、ヨネ・ノグチの「日本主義」を研究するための文献として重要ですが、同時にジャポニスム期が過ぎた西洋社会に対し、「世界の日本美術」への評価をさら高めようとする日本人の試みとしても興味深い資料です。今回のコレクションでは、彼の浮世絵作家論に加え、鉄道院が刊行した外国人向け観光ガイド『広重と日本の風景』や個人で出版した『初期浮世絵論』、太平洋戦争開戦の半年前に執筆された大著『聖武天皇と正倉院』など、ノグチが単行本で出版した日本美術論をすべて復刻いたしました。

エツ・イナガキ・スギモト (杉本鉞子)

英文著作集 【復刻集成版】 全5巻 + 別冊解説

Collected English Works of Etsu Inagaki Sugimoto

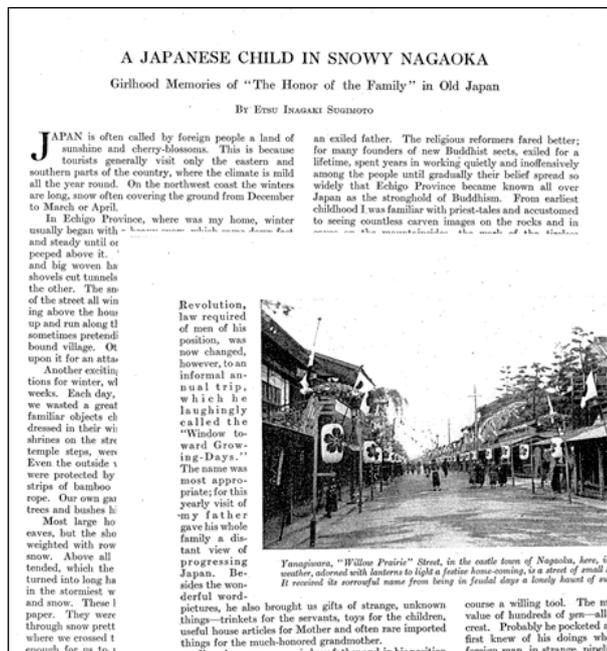
【監修・解説】 植木照代 (神戸女子大学名誉教授)

本体セット価：¥95,000- (+税) ISBN 978-4-86166-158-7

判型：A5判 (第1-4巻) & A4判 (第5巻) / 総頁数：約1,700頁 (図版白黒&カラー多数)

『武士の娘』の語る日本とアメリカ

- 1925年米国で出版されるや一躍ベストセラーとなり、世界7ヶ国語に翻訳された『武士の娘』の著者エツ・イナガキ・スギモト [杉本鉞子; 1873 (明治6)年～1950 (昭和25)年] の初の英文著作集。
- 代表作 *A Daughter of the Samurai* (邦訳『武士の娘』) をはじめ、米国で発表した英文小説作品すべての初版をカラー図版も含め復刻集成。
- *A Daughter of the Samurai* は、ニューヨーク・ジャパソサイエティーが限定発売した初版特別版にそれ以降の版のカラー図版を加えて復刻、合わせて雑誌 *Asia* に10回にわたり連載された初出時の記事を始めた雑誌・新聞記事や主要書評なども収録する。
- ジャポニズムブームが去り、1924年の排日移民法の成立などで対日感情の厳しくなった時代に出版されたスギモト作品が、何故欧米一般読者に広く受け入れられたのか？ 武士の娘として儒教的教育を受け、ミッションスクールの教育を通してキリスト教に触れ、和と洋の文化・価値観を融合する中で生み出されたスギモトの作品は、近代日本の異文化接触の道程を映し出している… 日米文化比較・日米文化交渉史、多文化研究など、様々なテーマの研究資料・文献として利用可能な作品集。
- アジア系アメリカ文学を研究課題としてきた監修者の視点から、日本およびアメリカにおけるスギモト作品の受け止め方を再評価し解説する。(日本語解説付)



◀ 『武士の娘』アジア誌初出時の記事 (本復刻著作集第5巻に収録)

エツ・イナガキ・スギモト英文著作集

■収録内容■

第1巻：[約350頁、図版約10点]

A Daughter of the Samurai, How a daughter of feudal Japan, living hundreds of years in one generation, become a modern American, Illustration by Ichiro Hori. Special Edition published by Doubleday, Page & Co., New York for Japan Society, [1925], xv, 314 p. (With additional illustrations in color from the editions in 1926 & 1934, c.10 plates)

第2巻：[約500頁、図版約11点]

With Taro and Hana in Japan [with Nancy Virginia Austen] Illustration by George W. Hood New York: Frederick A. Stokes & Co., 1926, 122p., 10 plates

A Daughter of the Narikin, Garden City, NY : Doubleday, Doran and Co., 1932, 325 p., 1 plate

第3巻：[約350頁、図版約20点]

A Daughter of the Nohfu, Illustration by Tekisui Ishii Garden City, NY : Doubleday, Doran and Co., 1935, 346 p., c. 20 plates

第4巻：[約320頁、図版1点]

Grandmother O Kyo, Garden City, NY : Doubleday, Doran and Co., 1940, 320p.

第5巻：[約180頁、図版多数]

Part 1: Articles in Newspapers and Journals by Etsu Inagaki Sugimoto, 1901-27

Cincinnati Enquirer, March 1901 to June 1902

March 17, 1901; Quaint Japan Dedicates This Month of March to Its Gentle Women Folk

July 28, 1901; Spirit of the Dead

October 27, 1901; The Japanese Halloween

December 22, 1901; Japan's Pathetic Struggle

June 8, 1902; At Home in Japan

The Brooklyn Daily Eagle, June to December 1902

June 1, 1902; In the Land of the Mikado (The same article appeared in the June 1 issue of Cincinnati Enquirer)

July 6, 1902; Cherry Blossom Season A Holiday Time in Japan

October 12, 1902; Sad Ceremonial in Memory of the Dead, A Picturesque Japanese Custom

November 30, 1902; Wrestling Japan's National Sport

December 7, 1902; Odd Old Time Wedding Customs are Still to be Seen in Japan

Cincinnati Enquirer, August to September 1916

August 6, 1916; Little Corner for Little People

August 13, 1916; The Blind Firefly

August 20, 1916; Sangoro and His Shadow

August 27, 1916; Snow-Maiden and Crow-Maiden

September 3, 1916; The Cunning Fly and the Simple Fan

Evening Public Ledger (Philadelphia), May to August 1918

May 10, 1918; Who is More Modest?

May 13, 1918; Two-Toed Folks

May 23, 1918; Curly Hair

July 23, 1918; Kissing

July 30, 1918; Twelve Centuries of Meatless Days

August 9, 1918; The Social Standing of Dogs

August 24, 1918; Chewing Gum

The Bookman, February to May 1919

February 1919; Japan

May 1919; The First Books of a Japanese Child

Asia, November to December, 1924: A "Samurai's" Daughter

Vol. 23 # 11 (Nov., 1923); Along the Trail with the Editor

Vol. 23 # 12 (Dec., 1923); I. A Japanese Child in Snowy Nagaoka,

Vol. 24 # 1 (Jan., 1924); II. "Curly-Locks" in the Land of Lacquered Coiffures

Vol. 24 # 2 (Feb., 1924); III. Japanese Fete-Days in Feudal-Hearted Nagaoka

Vol. 24 # 3 (March, 1924); IV. Off to Tokyo

Vol. 24 # 4 (April, 1924); V. The Fairy-Land of Tokyo School-Days

Vol. 24 # 8 (August, 1924); VI. My First Days in America

Vol. 24 # 9 (Sept., 1924); VII. "Flower in a Strange Land"

Vol. 24 # 10 (Oct., 1924); VIII. Japanese Hearts Homeward Bound

Vol. 24 # 11 (Nov., 1924); IX. "Untrained Feet" in a Tokyo Home

Vol. 24 # 12 (Dec., 1924); X. Honorable Grandmother

Articles in Journals by Etsu Inagaki Sugimoto, June 1926 to October 1933

The Bookman (June 1926); Japanese Love Stories

The Saturday Review of Literature (Jan. 22, 1927); Women of Japan

(Book Review of *The New Japanese Womanhood*, by Allen K. Faust)

Part 2: A Booklet privately printed by Etsu Inagaki Sugimoto: [In Loving Memory of Florence Mills Wilson, October, 1933], Courtesy of Keisen Jogakuen Archives

Part 3: Book Reviews of Etsu Inagaki Sugimoto's Novels, 1926-40

New York Times (Jan. 10, 1926); Book Review of *A Daughter of the Samurai*

New York Times (Oct. 23, 1932); Book Review of *A Daughter of the Narikin*

New York Times (Dec. 1, 1935); Book Review of *A Daughter of the Nohfu*

New York Times (May 12, 1940); Book Review of *Grandmother O Kyo*

The Saturday Review of Literature (New York) (March 26, 1926); Book Review of *A Daughter of the Samurai*

The Saturday Review of Literature (New York) (May 27, 1933); Book Review of *A Daughter of the Narikin*

The Saturday Review (New York) (Dec. 7, 1935); Book Review of *A Daughter of the Nohfu*

The Times (London) (March 10, 1933); Book Review of *A Daughter of the Samurai*

The Times Literary Supplement (March 9, 1933); Book Review of *A Daughter of the Samurai*

The Times Literary Supplement (Nov. 19, 1933); Book Review of *A Daughter of the Narikin*

The Times Literary Supplement (March 21, 1936); Book Review of *A Daughter of the Nohfu*

The Times Literary Supplement (Oct. 12, 1940); Book Review of *Grandmother O Kyo*

Part 4: Miscellaneous Articles related to Etsu Inagaki Sugimoto, 1898-1950

Cincinnati Enquirer (June 3, 1898); Japanese Wedding was Solemnized in This City Yesterday

Cincinnati Enquirer (Feb. 23, 1902); Literary Women of Japan Discussed by Mrs. Sugimoto at a Reception of Women's Press Club

Evening Public Ledger (April 24, 1919); The Electric Chair

The Bookman (May 1920); The Literature of a Modern Japanese Girl (Article by Hanano Inagaki Sugimoto)

New York Times (July 4, 1920); Find Japanese Easy at Columbia

The Bookman (Jan. 1926); The Gossip Shop

New York Times (June 22, 1950); Obituary

Part 5: Two-page Autograph Letter signed by Etsu Inagaki Sugimoto (No Date)

●別冊：「武士の娘」の見たアメリカ

(『婦人之友』昭和15年1月～3月号)

アメリカ女性作家の描いた日本

第1回：メアリー・フェノロサ&フランセス・リトル作品集 6タイトル・合本3巻

Japan in American Fiction, Series 3: Works by Female Authors

Part 1: Mary Fenollosa & Frances Little

【監修・解説】羽田美也子（日本大学）

A5判・約1,450頁（白黒・カラー図版多数） 本体セット価¥78,000-（+税） ISBN 978-4-86166-131-0

本書の特色

- 19世紀末から20世紀初頭のアメリカにて流行した、ジャポニズム小説を復刻にて集成するシリーズ続刊。
- 特に人気の高かった女性作家3人（メアリー・フェノロサ、フランセス・リトル、オノト・ワタンナ）を取り上げ、彼女たちの日本・日本人を題材とした小説作品を2回配本にて復刻出版。
- 盛んになっているオリエンタリズム、エスニック文学研究用文献であると同時に、アメリカの大衆小説や女性文学、家庭小説の系譜のなかでのジャポニズム小説の新たな位置づけを探るための資料としても貴重。
- すべて初版本を図版、カラー口絵も含め収録し、挿絵とジャポニズムの関係の研究資料としても利用可能。
- 監修者〈『ジャポニズム小説の世界—アメリカ編』彩流社（第26回ジャポニズム学会賞受賞）著者〉による、英文解説入り。

◆収録内容◆

第1巻

Introduction by Miyako HADA

Fenollosa, Mary (McCall, Sidney)

The Breath of the Gods

Boston: Little, Brown and Co., 1905, c.440 pp. (Colour Plate 1)

Fenollosa, Mary

Blossoms from a Japanese Garden, A Book of Child-Verses

New York: Frederick A. Stokes, 1913, c.70 pp., (Colour Plates 20)

第2巻

Little, Frances

Little Sister Snow

New York: The Century Co., 1909, c.150 pp. (Colour Plates 12)

Little, Frances

The Lady and Sada San

New York: The Century Co., 1912, c.230 pp. (Colour Plate 1)

第3巻

Little, Frances

The House of The Misty Star, A Romance of Youth and Hope and Love in Old Japan

New York: The Century Co., 1915, c.275 pp. (Plates b/w 8)

Little, Frances

Jack and I in Lotus Land

New York: Harper & Bro., 1922, c.265 pp. (Plate b/w 1)

メアリー・フェノロサ

(Mary Fenollosa, 1865-1954)

ボストン美術館にてアーネスト・フェノロサの助手となり、後に結婚。夫とともに来日し、ラフカディオ・ハーンと親交。その影響もあってか、小説の執筆を始める。今回収録の2作品の他、*Japan in American Fiction* 第2期に収録した小説 *The Dragon Painter* や浮世絵論を雑誌で発表した。

フランセス・リトル

(本名 Frances Caldwell Macaulay, 1863-1941)

1901年に来日し、その後4年間広島女学校（現広島女学院）附属幼稚園にて幼児教育に携わる。その日本での体験をもとに執筆した小説 *The Lady of the Decoration* (*Japan in American Fiction* 第2期に収録) が、全米でベスト・セラーとなり、その成功を受け今回収録するジャポニズム小説を書き続ける。また故郷ケンタッキーで日本についての講演活動を行う。



アメリカ女性作家の描いた日本

第2回：オノト・ワタンナ作品集 8タイトル・合本4巻

Japan in American Fiction, Series 4: Works by Female Authors

Part 2: Onoto Watanna 【監修・解説】羽田美也子（日本大学）

A5判・約2,000頁（白黒・カラー図版多数） 本体セット価¥98,000-（+税） ISBN 978-4-86166-132-7

19世紀末から20世紀初頭のアメリカにて流行したジャポニズム小説を、貴重なカラーの挿絵を含め当時の版の復刻で再現するシリーズ最終配本は、当時の米国で最も人気の高かった女性小説家オノト・ワタンナの作品7点をまとめました。

1875年に英国系の父と中国系の母の間にカナダ・モントリオールで生まれたワタンナ（本名 Winnifred Eaton Babcock Reeve）は、若くして作家の才能をあらわし、18歳の頃より地元の新聞、雑誌などで短編小説を発表します。当初は Winnie Eaton などのペンネームを用いていましたが、日本趣味の小説を書き始めるにしたがい、オノト・ワタンナという日本風の名前を使い始め、1901年に発表した長編小説 *A Japanese Nightingale* (*Japan in American Fiction* 第1期に収録) が大成功、この小説は、ヨーロッパ4ヶ国語にも翻訳出版され、演劇版もブロードウェイはじめ英国、フランスでも上演、ワタンナは一躍人気作家となります。ペンネームだけでなく、着物風の装いで自ら著書の口絵に登場し、その東洋風の風貌を利用し日系人作家であるように振る舞った彼女の作品には、美しい日本的な装丁と挿絵がほどこされていました。『蝶々夫人』やオペレッタ『ゲイシャ』が舞台でも人気を博していた世紀転換期アメリカ大衆社会や、文学における日本観とその変遷を研究する資料としても、今日注目が集まっています。また、この時代の西洋社会に登場した「新しい女」や、女性の社会進出の一方で流行したこれら「日本人」女性を扱った小説群の、文学・社会史における位置づけ、あるいは日系女性作家に扮したワタンナの異人種装の問題など、多様な文化研究のテーマを提供してくれます。

今回のコレクションでは、ワタンナの最初の単行本 *Miss Nume of Japan* から、最後のジャポニズム作品 *The Honorable Miss Moonlight* まで、8作を収録しています。シリーズ第1回にて復刻しました2作品を加え、代表作がすべて網羅されます。監修者による、英文解説が序文として書き下ろされます。

◆収録タイトル◆

Volume 1: c. 500pp.

Introduction by Miyako HADA

Mrs. Nume of Japan: a Japanese-American Romance

Chicago & New York: Rand, McNally, 1899, c.242pp. (plates in color 2, b/w 8)

The Heart of Hyacinth

New York: Harper & Bro., 1903, c.258pp. (plates in color 5)

Volume 2: c.641pp.

The Wooing of Wisteria

New York: Harper & Bro., 1902, c.395pp. (plates in color 2)

The Love of Azalea

New York: Dodd, Mead and Co., 1904, c.246pp. (plates in color 7)

Volume 3: c.400pp.

Daughters of Nijo: A Romance of Japan

New York: Macmillan, 1904, c.398pp. (plates in color 9)

Volume 4: c.454pp.

A Japanese Blossom

New York: Harper & Bro., 1906, c.272pp. (plates in color 5)

The Honorable Miss Moonlight

New York: Harper & Bro., 1912, c.182pp. (plates in color 2)

Volume 5: c. 315pp.

Sunny-San

New York: George H. Doran Company, 1922, c.315



●フランスのジャポニスム小説●

◆監修・解説（フランス語）：Brigitte Koyama-Richard（小山ブリジット・武蔵大学教授）◆

フランス小説に描かれた日本

●第1期：19世紀末編 4作品・合本2巻

Le Japon dans la littérature française - de la fin du XIXe siècle au début du XXe siècle -
Série 1 : 1880-1899

A5判・約965頁 本体セット価¥47,500-（+税） ISBN: 978-4-86166-118-1

アフリカやアジアなど異国舞台にした旅行小説を著した Eugène Parès、政治家で政治小説を執筆する傍ら、ジュール・ヴェルヌとの共作でSF小説も数多く出版した André Laurie、子供向けの物語や恋愛小説など幅広く発表した女性作家 Gabrielle d'Arvor、台湾を舞台にした冒険小説なども著している Jean Dargène による小説の集成。

●収録文献●

Volumes 1: (c.495pp.)

Introduction par Brigitte Koyama-Richard

Parès, Eugène, *Promenade à travers le Japon*

Limoges : Eugène Ardant et cie, 1881, c.160pp.

Laurie, André [Paschal Grousset], *Autour d'un lycée japonais*

Paris : Bibliothèque d'éducation et de récréation, J. Hetzel, 1886,
c.326pp. [Illustrations par Félix Régamey]

Volume 2: (c. 470pp.)

Arvor, Gabrielle d', *La Rose du Japon*

Paris : Bloud et Barral, 1884, c.100pp.

Dargène, Jean, *Arc-en-ciel, roman du néo-Japon*

Paris : Léon Chailley, 1895, c.300pp.



●第2期：1900-1910 5作品・全6巻

Le Japon dans la littérature française - de la fin du XIXe siècle au début du XXe siècle -
Série 2 : 1900-1910

A5判・約2,325頁（図版多数・カラー10点を含む）本体セット価¥118,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-119-8

ジャポニスムブームが去りつつあったこの時代のヨーロッパでは、日本のイメージも東洋の神秘から東洋の脅威へと変化していきましたが、中でもロシアと同盟関係にあったフランスでは、日露戦争の開戦と日本の勝利は社会に衝撃を与えました。このように、日本の美に対する憧憬を残しながら反日感が生まれたアンビバレントな国民感情を反映し、ここに集められた小説も、極めて対照的な性格の作品群になっています。

吉原の芸者を主人公に、ロマンティックな大衆小説を執筆した Jane de la Vaudère、ルタン紙の記者として極東取材にあたった Charles Pettit が、中国人の視点を取り入れて日本人を描いた小説作品、若者向けの本を数多く執筆した Pierre Maël の、日露戦争を扱いながら白人の優位性や愛国心を鼓舞した冒険小説、陸軍大佐であると同時に戦争小説作家としても人気を博した Capitaine Danrit が、イエロー・ペリルから西洋を救う主人公達を活躍させた2巻からなる長編小説など、今日では忘れ去られている作品をカラー図版も含め完全復刻いたします。20世紀初めフランスでの変わりゆく日本イメージの研究など、比較文化・文学、フランス文学・大衆社会史の研究素材として広く活用が可能です。

●収録内容●

Volume 1:

Introduction par Brigitte Koyama-Richard.

La Vaudère, Jane de, *La Guescha amoureuse.*

Roman japonais

Paris : Ernest Flammarion, 1904, 302pp.

Volume 2: (c.365pp.)

Maël, Pierre, *Blanche contre Jaunes. Roman d'aventures sur la guerre russo-japonaise*

Paris : Librairie générale, 1904, 358pp.

Volume 3:

La Vaudère, Jane de

La Cité des sourires. Roman de mœurs japonaises

Paris : Librairie des publications modernes, 1907, 312pp.

Volume 4:

Pettit, Charles

Le Chinois de Mademoiselle Bambou. Roman sino-japonais

Paris : Calmann-Lévy, 1907, 339pp

Volume 5-6:

Capitaine Danrit [Emile-Augustin-Cyprien Driant]

L'invasion jaune, Paris : E. Flammarion, 1909, 858pp.



●第3期：1910-1929 5作品・全5巻

Le Japon dans la littérature française - de la fin du XIXe siècle au début du XXe siècle -

Série 3 : 1910-1929

A5判・約1,700頁（図版多数・一部カラー） 本体セット価：¥93,000-（+税） ISBN 978-4-86166-120-4

第3回配本は、1910年から1929年の間に刊行された小説5作品を収録しています。今日では忘れ去られている作品群をカラー図版も含め復刻いたしました。20世紀初めフランスでの変わりゆく日本イメージの研究など、比較文化・文学、フランス大衆社会史の研究素材として広く活用が可能です。

●収録文献●

Volume 1 :

Pettit, Charles

Dogues et félins, Aventures d'un baron prussien au Japon

Paris: Editions du monde illustré, 1910, c. 290 pp.

Volume 2 :

Champsaur, Félicien, *Poupée japonaise*

Paris: Librairie Charpentier et Fasquelle, 1912, c. 390 pp.

Volume 3 :

Ivoi, Paul d' [pseud. de Paul Deleutre]

Message du Mikado, Voyages excentriques

Paris: Boivin, 1913, c. 435 pp.

Volume 4 :

Farrère, Claude [pseud. de Charles Bargone]

La Bataille

Paris: Ernest Flammarion, 1921, c. 250 pp.

Volume 5 :

Naudeau, Ludovic

Plaisir du Japon

Paris: Ernest Flammarion, 1922, c. 285 pp.

[+ Préface et illustrations par Louis Sabattier de l'édition de *La Petite Illustration*, c.1920]



●第4期：1927-38 5作品・合本4巻

Le Japon dans la littérature française - de la fin du XIXe siècle au début du XXe siècle -

Série 4 : 1927-1938

A5判・約1,100頁 本体セット価¥78,000-（+税） ISBN: 978-4-86166-190-7

最終配本では、1920-30年代に刊行された小説類を全4巻に収録します。ゴンクール賞受賞作家 Francis de Miomandre による日本人形を登場人物にした子供向けの絵入り小説、軍の仕事で滞日した際に目の当りにした、近代化する日本への複雑な思いをベースにする Jean Suliac の作品、戦前のパリの知識人社交界の花で、滞仏中の北白川宮妃房子内親王と親交のあった Titayna による、異なる時代の日本人女性を主人公にした短編小説集、日本文学の伝訳でも活躍した Georges Bonneau が日本女性の幸福と不幸を題材に、作家自身が住んだ博多を舞台に執筆した小説、外交官として日本に駐在した Georges Bagulesco が忠臣蔵をフランス語小説に仕立てた作品の、合わせて5作品が、原書中のイラストなども含め復刻収録されます。それぞれ非常に異なる日本との体験を持った作者たちによる、個性的な作品のコレクションです。

●収録文献●

Volume 1 :

Introduction par Brigitte Koyama-Richard, c. 13 pp.

Miomandre, Francis de

Histoire de Pierre Pons, Pantin de Feutre

Paris: Les Arts et Le Livre, 1927, c. 153 pp.

Titayna, *La Japonaise*

Paris: Nouvelle Société d'Édition, 1931, c. 107 pp.

Volume 2 :

Suliac, Jean, *Heures japonaises*

Paris: Nouvelle Éditions Latines, 1932, c. 247 pp.

Volume 3:

Boneau, Georges

Aux trois bonheurs, ou le Japon de la tradition, Roman

Paris: Plon, 1934, c. 219 pp.

Volume 4:

Bagulesco, Georges, *Yamato damashii, Roman*

Tokyo: L'imprimerie Kenkyusha, 1938, c. 317 pp.



フィラデルフィア万国博覧会 (1876年)

—公式資料と日本関連文献集成— 全5巻+別冊解説

International Exhibition of 1876 in Philadelphia: A Collection of Official Records and Miscellaneous Publications

【監修・解説】大井浩二 (関西学院大学名誉教授)

2014年4月刊行 A4判・総約2,650頁 本体セット価¥138,000(+税) ISBN: 978-4-902454-85-7

- 1876年5月10日から11月10まで、アメリカ独立100年を記念して開催されたフィラデルフィア万博は、アメリカの成長と進歩の宣伝を目的としたアメリカの工業製品などの展示とともに、海外からも30か国以上が参加、7つの主要会場を含む広大な敷地には約250のパヴィリオンが作られ、978万人を超える入場者があった。
- 日本はウィーン万博に続き2度目の公式参加をはたし、会場内に日本家屋を建て、陶磁器を中心とした工芸品をジャポニスムブーム最中の欧米に紹介した。また本万博は、翌年から日本で開催が始まった「内国勸業博覧会」のモデルとなったことも指摘されている。
- 今回まとめられる本万博の初の資料集には、会場で販売されたガイドおよび出品品の公式目録と図入り万博史、そして日本政府の出品目録に『日本史略』と題された同万博用の英文日本紹介冊子を加え、全6点の資料を5巻に収録する。
- 西洋近代史研究やアメリカ史、アメリカ文化研究だけでなく、国際文化接触、多文化研究、メディア研究など、多様な視点から研究の進む初期万博研究の基礎資料として必要不可欠な文献集。

■収録文献■

Volume 1: [ガイドブックおよび日本関連資料] 総約435頁

Visitors' Guide to the Centennial Exhibition and Philadelphia, 1876

Magee's Illustrated Guide of Philadelphia and the Centennial Exhibition: A Guide and Description to All Places of Interest in or about Philadelphia, to the Centennial Grounds and Buildings, and Fairmount Park, 1876

『費府博覧会日本出品目録』

International Exhibition, 1876, Official Catalogue of the Japanese Section and Descriptive Notes on the Industry and Agriculture of Japan, 1876

『日本史略』

The Empire of Japan, Brief Sketch of the Geography, History and Constitution, 1876

Volume 2-3: [公式出品目録] 総約1,210頁

United States Centennial Commission

International Exhibition 1876, Official Catalogue, 1876, 2vols.

Volume 4-5: [図説万博史]

James D. McCabe

The Illustrated History of the Centennial Exhibition Held in Commemoration of the One Hundredth Anniversary of American Independence, 1876, 2vols.



万国宗教会議 第1回1893年大会講演集 全2巻+別冊解説

The World's Congress of Religions:

The addresses and papers delivered before the Parliament, and the Abstract of the Congresses, held in Chicago, August 1893 to October 1893, under the Auspices of The World's Columbian Exposition

編集 ■ J. W. Hanson

解説 ■ 足羽與志子 (一橋大学)

2005年12月刊行 約1,200頁 (図版約150点) 本体セット価 ¥47,500- (+税) ISBN 978-4-901481-98-4

底本: The Official Publishers of the World's Columbian Exposition Catalogue, 1893



19世紀末のアメリカに全世界の宗教家が初めて集った記念すべき大会の全記録

1862年国際博覧会（第2回ロンドン万国博覧会）資料総覧

～公式図解カタログと『絵入り家庭新聞』国際博覧会特集～ 【復刻版】全5巻+別冊解説

The International Exhibition of 1862, London:

Official Illustrated Catalogue & Cassell's Illustrated Family Paper Exhibitor

【監修・解説】松村昌家

2014年2月刊行 本体セット価¥168,000- (+税) ISBN: 978-4-902454-82-6

総約3,400頁 (全5巻+別冊) 折込地図・図版 (一部カラー) 多数 / 判型: B5判 (第1-4巻)、A4判 (第5巻)

1862年にロンドンで開催された国際博覧会（第2回ロンドン万国博覧会）は、アルバード公死去翌年の開催だったこともあり、水晶宮で行われた第1回ほど華やかさに欠けてはいましたが、世界各地より39か国が参加、1862年5月から半年間に610万人が来場し、会場のスペース含めその規模において第1回ロンドン万博を上回るものでした。クリミア戦争や植民地インドでの反乱などを経験した英国でのこの万博は、大英帝国の国家主義が強く打ち出され、軍需産品や最新の工業製品が広く展示されましたが、また同時に、植民地各地の展示やライバルのパリ万博を意識した美術・工芸品の展示にも大きなスペースを割り、ヴィクトリア中期の大英帝国や世界の最先端の科学・技術、文化・芸術が結集した歴史的なイベントでした。



幕末の日本からは、正式な出展はなかったものの、初代駐日英国公使ラザフォード・オールコックが自身の日本美術品のコレクションを多数出品し、イギリスのジャポニスム・ブームに火をつけることになりました。また、開港延期の交渉に幕府より派遣されていた文久遣欧使節はこの万博の開会式に賓客として出席しましたが、使節団の中には福澤諭吉、福地源一郎も含まれており、彼らがアームストロング砲など西洋の最新兵器や技術に大きな刺激を受けたことは想像に難くありません。

今回の復刻資料集には、第1回ロンドン万博から第2回万博に至る歴史などの解説を含む英国展図入り目録全2巻に、植民地や海外各国の目録各種をまとめ全4巻で刊行された公式資料集に、キャッセル社が発行した『絵入り家庭新聞』の国際博覧会特集を加え全5巻にて出版いたします。いずれも初めて復刻される資料です。博覧会史、ヴィクトリア朝研究、大英帝国史、日英交流史などから産業史、社会経済史研究まで、分野を超えてご利用いただける文献集です。

■ CONTENTS ■

Volume 1-4 : The Illustrated Catalogue of the International Exhibition of 1862, London, Printed for Her Majesty's Commissioners

Vol. 1 (c. 835 pp.): *The Illustrated Catalogue of the Industrial Department, British Division - Vol. I*

Grand Plans of Building and of Galleries

A Concise History of the International Exhibition of 1862

Vol. 2 (c. 875 pp.): *The Illustrated Catalogue of the Industrial Department, British Division - Vol. II*

Vol. 3 (c. 560 pp.): *The Illustrated Catalogue of the Industrial Department, Colonial and Foreign Divisions*

Colonial Possessions: Australia, South / Australia, Western / Bahamas / Barbados / Bermuda / Borneo / British Columbia / Canada / Cape of Good Hope / Ceylon / Channel Islands (Jersey and Guernsey) / Dominica / Hounduras, British / Jamaica / Malta / Mauritius / Natal / New Brunswick / Newfoundland / New South Wales / New Zealand / Nova Scotia / Prince Edward's Island / Queensland / St. Helena / St. Vincent / Tasmania / Trinidad / Vancouvre / Victoria

A Classified and Descriptive Catalogue of the India Department

The Illustrated Catalogue of the International Exhibition, Foreign Division

Africa, Central / Africa, Western / Belgium / Brazil / China / Costa Rica / Denmark / Ecuador / France / France, Colonies of

Vol. 4 (c. 780 pp.): *The Illustrated Catalogue of the Industrial Department, Foreign Division*

Germany: Austria at the International Exhibition of 1862

Hanse-Towns / Mecklenburg-Schwerin

Special Catalogue of the Zollverein-Department, First Division

Special Catalogue of the Zollverein-Department, Second Division

Greece / Hawaiian or Sandwich Islands / Hayti / Ioneian Islands / Italy / Japan / Liberia / Madagascar / Netherlands, The / Norway / Peru / Portugal / Rome / Russia / Siam / Spain / Sweden / Switzerland / Turkey / United States / Uruguay / Venezuela

Vol. 5 (c. 315 pp.): *Cassell's Illustrated Family Paper Exhibitor - containing About Three Hundred Illustrations, with letter-press descriptions of all the principal objects in The International Exhibition of 1862*, Published by Cassell, Peter, & Galpin, London, 1862

日英博覧会 (1910年) - 公式史料と関連文献集成 -

【復刻集成版】 全11 文献・合本6 巻+別冊解説 (日本語)

The Japan-British Exhibition of 1910:

残部僅少

A Collection of Official Guidebooks and Miscellaneous Publications

【監修・解説】 松村昌家

2011年11月刊行 約3,500頁 (折込地図、図版 (一部カラー) 多数) 判型: 第1-2巻: A5判 / 第3-6巻: A4判
本体セット価¥148,000- (+税) ISBN: 978-4-902454-75-8

20世紀初頭の英国に、近代日本と台湾、朝鮮、満州を紹介した最大級のイベント

- 1910年にロンドンにて開催された日英博覧会に関する、英文公式史料と博覧会に合わせて刊行された関連英文文献をを集成する初の本格的史料・文献集
- 英国や日本で刊行された英文による入場者向けガイドやカタログ、開催後に発表されたレポートに加え、この博覧会開催に合わせて刊行されたロンドン・タイムズ紙の日本関連記事集成、日本の英字新聞ジャパン・ガゼット社刊行の英国産業界向けの日本案内、政治家で英文通信社の経営にも関わっていた望月小太郎が、博覧会記念に出版した800頁を超える日本を宣伝用の大著『今日の日本』など、周辺の英文書も同時に復刻

●収録内容●

■ VOL. 1-3: OFFICIAL GUIDE, CATALOGUES & REPORT OF THE EXHIBITION

VOL. 1: *Japan-British Exhibition, 1910, Shepherd's Bush London, Official Guide*, 2nd ed. revised.

London: The Japan-British Exhibition British Commission, 1910, c. 185 pp. (fold maps & numerous plates, some in colour)

Japan-British Exhibition, 1910, Shepherd's Bush, London, Official Catalogue, 3rd ed.

London: The Japan-British Exhibition British Commission / Bemrose & Sons, 1910, c. 342 pp.

Imperial Geological Survey of Japan: with a Catalogue of Articles exhibited at the Japan-British Exhibition held at London, England in 1910, Tokyo: Imperial Geological Survey, 1910, c. 102 pp. c. 102 pp. (fold maps)

VOL. 2: *An Illustrated Catalogue of Japanese Old Fine Arts displayed at the Japan-British Exhibition, London, 1910.*

Tokyo: The Shimbi Shoin, 1910, c. 255 pp. (numerous plates)

An Illustrated Catalogue of Japanese Modern Fine Arts displayed at the Japan-British Exhibition, London, 1910.

Tokyo: The Shimbi Shoin, 1910, c. 181 pp. (numerous plates)

Kyoto, [Handbook] issued by Kyoto's Exhibitors' Association to the Japan-British Exhibition 1910.

Kyoto Exhibitors' Association, 1910, c. 160 pp. (plates some in colour)

VOL. 3: *Official Report of the Japan British Exhibition, 1910, at the Great White City, Shepherd's Bush, London*

London: Printed by Unwin Brothers, 1911, c. 559 pp. (numerous illustrations and a fold map)

■ VOL. 4-6: MISCELLANEOUS PUBLICATIONS RELATED TO THE EXHIBITION

VOL.4: *The Japanese Empire: A Reprint of the Times Japanese Edition, July 19, 1910*

London: J.P. Bland, 1910, c. 445 pp. (fold maps & numerous plates)

VOL. 5: *The World's Work, June 1910, a Japanese Number (The Alliance and the Empire / The Manchurian Railway /*

The Japan-British Exhibition), London: William Heineman, 1910, c. 110 pp. (plates)

Japan Alliance Exhibitional: to promote Anglo-Japanese Commerce

Yokohama: Japan Gazette, 1910, c. 239 pp. (fold map & numerous plates, some in colour)

VOL. 6: *Japan To-day; a Souvenir of the Anglo-Japanese Exhibition held in London 1910*

(a Special Number of the "Japan Financial and Economic Monthly"), by Kotaro Mochizuki.

Tokyo: "The Liberal News Agency", 1910, c. 892 pp (fold map & numerous plates, some in colour)

英領インドと女性

18～20世紀初頭の一次史資料集成 全5巻

Women in Colonial India: Historical Documents and Sources

【編集・解説】 Pramod K. Nayar, University of Hyderabad, India

2013年9月刊行 総約2,000頁 本体セット価：¥128,000- (+税) ISBN: 978-4-86166-179-2

※プリント・オンディマンド版

英国の支配が強まった18世紀から大英帝国のなかで植民地化の進む19世紀のインドには、数多くの英国人女性が滞在します。外交官、商人の妻として同地に居住または旅する女性、宣教、教育、医療などの職業に携わり、インドに新たな世界を求め移住する者、その目的は様々ですが、既に女性教育が進み知的水準も高かったこれらの女性の多くは、近代的な女性の意識で植民地インドにおける女性の諸問題に関わり、新聞・雑誌等のメディアで報告や問題提起を行います。本書はこれら同時代の文献約180点の史資料を集め復刻するもので、英国や植民地インドで刊行された英文資料を中心に、雑誌、新聞、パンフレットなどの記事を各巻テーマ別に編集、編者の解説を付します。教育、健康、結婚といった一般的なテーマと合わせ、女児殺し (Female infanticide)、サティー (寡婦焚死) といったインドにおけるジェンダーの問題に真っ向から取り組んだ多数の文献も収録、女性による著述と同時にに関する男性側からの主張も併録し、この時代のインドの女性問題の全体像を俯瞰できるように配慮しています。

今日も解決できていない深刻なテーマを含む本資料集は、大英帝国史、インド女性史等歴史研究の史資料としてだけでなく、現在のジェンダー研究や現代インド研究者の方々も是非ご活用ください。

◆収録文献の一部◆

Volume 1: The Woman Question

Preface / A Note on the Texts / Acknowledgements / Introduction

‘Account of the Zenana of an Asiatic Chief’, The Edinburgh Magazine, or Literary Miscellany (Nov. 1789)

‘Description of Tippoo Sultaun’s Zenana’, The Weekly Entertainer (16 Dec. 1799)

‘Nautch-Girls’, Calcutta Journal 20 October 1819, Selections from the Indian Journals. Vol. I: Calcutta Journal. Calcutta: Firma KL Mukhopadhyay, 1963

Review of WB Hockley’s The Zenana, The Oriental Herald and Journal of General Literature (Jun. 1827)

Emma Roberts, from Scenes and Characteristics of Hindoostan, London: WH Allen, 1835.

+その他 計49文献

Volume 2: Female Infanticide

Edward Moor, from Hindu Infanticide (1811)

John Cormack, ‘Manner of Destroying Female Infants’, ‘Difficulties Experienced by Colonel Walker ... in the Abolition of Female Infanticide’

Review of John Cormack’s Account of the Abolition of Female Infanticide in Guzerat, The Literary Panorama (May 1815)

‘Female Infanticide’, from, Selections from the Indian Journals. Vol. II: Calcutta Journal. 1965

‘Female Infanticide’, The Literary Examiner (Oct. 1823)

+その他 計16文献

Volume 3: Sati

JZ Holwell, from Interesting Historical Events, Relative to the Provinces of Bengal and the Empire of Indostan, Part II, London: T. Becket and PA De Hondt (1767)

John Wilson, ‘The Custom of Women Burning themselves with their Husbands Still Practised in India’, The Weekly Miscellany (19 Jan 1778)

‘Narrative of an Hindoo Woman, who lately Burnt herself on the Funeral

Pile of her Husband’, The Weekly Entertainer (25 June 1804)

‘Account of an Indian Woman Burning Herself’, Scots Magazine and Edinburgh Literary Miscellany (Mar 1809)

‘Burning of Widows’, ‘Horrible Human Sacrifice’, ‘Another Sacrifice’, ‘Prevented Sacrifice’ from, Selections from the Indian Journals. Vol. I 1963

+その他 計25文献

Volume 4: Education

‘Native Female Education’, Calcutta Gazette 2 May 1825. From, Anil Chandra Das compiled and edited, The Days of John Company: Selections from the Calcutta Gazette 1824-1832.

‘Female Education’, The Friend of India (27 July 1837)

Priscilla Chapman, from Hindoo Female Education (1839)

‘Native Female Education’: Review of Alexander Duff’s The Life and Happy Death of Charlotte Green, Calcutta Review 25 (1855)

Mary Carpenter, On Female Education in India. London: WW Head, 1868

+その他 計31文献

Volume 5: Health and Marriage

‘Marriage of Hindoo Widows’, The Friend of India (7 Dec. 1837)

‘Parsi Marriages’, from, Erskine Perry, Cases Illustrative of Oriental Life, 1853

‘Indian Marriage Ceremonies’, The London Journal (11 Aug. 1860)

‘Indian Marriage Customs’, The London Reader (13 Jun. 1863), 156-7.

WJ Elmslie, ‘On Female Medical Missions to India’, The Indian Female Evangelist 1.5 (Jan. 1873)

+ その他 計60文献 (全5巻計180文献)

※詳細は⇒ <http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-179-2.html>

早稲田大学政治経済学部教授・慶應義塾大学名誉教授

坂本達哉英文著作集 全1巻

David Hume and Adam Smith, A Japanese Perspective

By Tatsuya Sakamoto

Foreword by Ryu Susato / 壽里 竜 (慶應義塾大学経済学部教授)

2020年10月刊行 B5判変・318頁上製 本体価格9,800円(+税) ISBN:978-4-86166-221-8

『ヒュームの文明社会 勤労・知識・自由』(創文社1995年、1996年サントリー学芸賞、2001年日本学士院賞)、『ヒューム希望の懐疑主義 ある社会科学の誕生』(慶應義塾大学出版会2011年)、『社会思想の歴史 マキアヴェリからロールズまで』(名古屋大学出版会2014年)等の著作で知られる、坂本達哉教授の初めての英文単著です。それまで二つの異なる側面として論じられることの多かった、ヒュームの経済学と社会思想を統合的にとらえた著者の研究は当初より国際的にも高く評価され、日本イギリス哲学会(2014-2016年会長)、社会思想史学会(2016-2019年代表幹事)、そして今なお唯一のアジアでの年次大会(東京大会2004年)開催に尽力した[国際]ヒューム学会など、坂本教授は国内外の学術団体で広く活動、今日もヒュームとアダム・スミス、啓蒙思想、社会思想史の研究に大きな役割を担っています。

1990年から2017年までに公刊された10点の学術論文を収録する本書は、40年近い著者の研究活動のなかで英文学術誌、英文論集に発表された7点(ヒューム、スミス研究の大家D.D.ラファエル教授との共著論文1点をふくむ)と、日本語による公刊論文から今回初めて英訳された3点の論文を収録、自身のヒューム研究を主題の時系列順に編集した第1部と、明治維新以来のスミス、ヒュームらの日本での受容を、福澤諭吉、内田義彦への影響を中心に論じた第2部からなります。すべての論文において最新の研究状況を反映する大幅な改訂、増補が行われており、一例としては、著者の問題提起による「ヒューム「初期草稿」論争」にさらなる一石を投じる内容ともなっています。

全体として本書は、ヒューム、スミスを中心とする国際的な研究動向に新たな展開を促し、大きな指針と刺激を与える注目の著作といえるでしょう。

新世代のヒューム研究を国際的にリードする壽里竜教授による解題(「前書き」)も必読です。

経済学史研究と日本 全1巻

—田中敏弘(関西学院大学名誉教授) 英文論文集

Japan and the Study of the History of Economic Thought - Collected English Essays

【著/文】田中敏弘 【著/文|編集】井上琢智

2020年3月刊 A5判 280頁上製 本体価格13,800円(+税) ISBN978-4-86166-222-5

田中敏弘(関西学院大学名誉教授)が国内外の学会誌等に英文で発表された論文27編の集成です。戦後若くして米国へ留学した著者は、コロンビア大学、シラキューズ大学で学び、修士号取得後帰国、その後関西学院大学で長く教鞭をとりました。その間、経済学部長、図書館長を歴任、同大学の経済学、経済学史教育、研究の発展に尽くすと同時に、経済学史関連の貴重文献、資料の収集にも精力的な活動をしました。学外でも経済学史学会やアメリカ経済学史研究会などの中心人物の一人として活躍、海外でもグラスゴウ大学やケンブリッジ大学での研究や吉林大学での教育、さらにオーストラリア経済学史学会設立の支援などにも尽力、経済学史研究の日本と海外の架け橋ともなりました。本英文論文集は、マンデヴィル、ヒューム研究から、著者が特に力をいれたJ. B. クラークを中心としたアメリカ経済学史研究、そして日本における経済学史研究を海外に紹介した雑誌記事など幅広く網羅し、編者による注釈、書誌解説が加えられます、

幕末・明治初期邦訳経済学書 全7巻

Western Economics in Meiji Japan: Collection of Early Japanese Translations

【編集・解説】井上琢智（元関西学院大学学長）

2006年3月刊行 A5判・約3000頁 本体セット価¥138,000-（+税） ISBN 978-4-902454-09-3

残部僅少

本書の特色

- 明治期に西欧より導入された経済思想を、その主要邦訳書の系統的復刻によりたどる初めての試み
- 西洋経済学の名著の翻訳だけでなく、日本での経済学確立期に主要な役割を果たした文献やお雇い外国人の講義録の翻訳なども収録

◆編者の言葉◆

関西学院大学教授 井上琢智

現代の日本経済思想史、日本思想史、さらに広く日本近代史や比較思想史に関心を抱く研究者や学生にとってもっとも不便なのは、これらの研究対象となる原書や邦訳の原典が今やその入手がきわめて困難であり、その機会にめぐまれたとしてもきわめて高価である。そのため、原書や原典にもとづく原典主義研究の促進と拡大をいちじるしく難しくしている。確かに、前者については、近年、水田洋編集・序文『Western Economics in Japan: The Early Years - 『西欧経済学の日本への導入』（全8巻）』が出版され、原典の研究資料整備の第一歩が踏み出された。しかし、後者については、古くは『明治文化全集』があり、その「経済編」にこれら原典がわずかに収録された過ぎず、また『東京経済学講習会講義録』（全21巻）や石川暎作・嵯峨正作『国富論』などの最近の復刻も、研究者・学生にとって福音ではあるものの、その数はきわめて少なく、ましてや幕末・明治期にかけての主要邦訳書を、欧米の経済学者と邦訳者の影響力の大きさをも念頭に入れながら、選書され、系統的に復刻されたシリーズは皆無であったと思います。これらの観点を考慮しながら編集された本シリーズは、（神田孝平）その点だけでもきわめて有意義な復刻であるといえます。

加えて、本シリーズは、その選書に際して、幕末・明治期における欧米経済学の邦訳もしくは訳述・著作による日本への導入ルートの違いにも注目した点にも特徴があります。すなわち、第一に、輸入された外国語で書かれた原書の邦訳、第二に、欧米の留学先で指導を受けたり受講した経済学者の著作や講義録の邦訳、さらに第三に、お雇い外国人による日本での講義録の邦訳です。例えば、第一の邦訳書がその大半を占めるものの、第二の例にあたる大野直輔著の『経済新話』を収録し、また、第三の例にあたる鬼頭悌次郎訳の『経済叢書』を収録したのもこのような選書の視点によるものです。

いずれにせよ、本シリーズの各巻がこのテーマに関する研究者・学生の皆さんの身近に置ける基礎資料となり、これまで資料上の制約から生じていた研究上の不便さが少しでも軽減することを願っています。

■収録内容■

第1巻（約300頁）

解説 井上琢智、約20頁

○神田孝平重訳『経済小学』、1867年

【（原書）Ellis, William: Outlines of Social Economy, 1846】

○小幡篤次郎訳述『生産道案内』、1870年

【（原書）Whately, Richard: Easy Lessons on Money Matters, 1833】

第2巻（約342頁）

○福澤諭吉編纂『西洋事情外編』、1867年

【（原書）Chambers, William and Chambers, Robert (eds.): Political Economy for Use in Schools, and for Private Instruction, 1851】

第3巻（約432頁）

○何礼之訳『世渡りの杖——名経済便蒙』、1872-74年

【（原書）Wayland, Francis: Elements of Political Economy, 1873】
（福澤諭吉）

第4巻（約592頁）

○永田健助訳述『宝氏経済学』、1877年

【（原書）Fawcett, Millicent Garret: Political Economy for Beginners, 1870】（Francis Wayland）

第5巻（約435頁）

○永田健助編述『経済説略』、1879年

【（原書）Fawcett, Millicent Garret: Political Economy for Beginners, 1870】

○堀越愛国訳『百科全書（経済論）』、1874年

【（原書）Chambers, William and Chambers, Robert (eds.): Chambers's Information for the People, 1833】

○大野直輔著『経済新話』、1877年

【（原書）Cairnes, John Elliot: Lectures on Political Economy, University College】

○鬼頭悌次郎訳『経済叢書』第二号、1878年

【（原書）Siebold, Heinrich Philipp Freiherr による未刊の講義録】
（Millicent G. Fawcett）

第6-7巻（約360、360頁）

○川本清一訳『彼理氏著理財原論』、約720頁、1880年

【（原書）Perry, Arthur Latham: Elements of Political Economy, 14th ed. 1867】

アフリカ学の系譜 *Series: History of African Thought*

【復刻版】 J・C・ヘイフォード著作集 全3巻

Writings of Joseph Casely Hayford (Ekra-Agiman)

残部僅少

新序文：Tom Lodge, University of the Witwatersrand, Johannesburg

2003年4月刊行 本体セット価¥45,000- (+税) ISBN 978-4-901481-43-6

- アフリカのアイデンティティー確立を目指したヘイフォード著作の初の復刊。
- 政治思想著書2作に加え、アフリカ人が英語で発表した初の小説を収録。
- 南アフリカを代表するアフリカ研究者 Professor Tom Lodge による序文

英領西アフリカ出身で、英国で教育を受けた法律家 Ekra-Agiman (英名: Joseph Casely Hayford) は、19世紀から20世紀初頭にかけて、アフリカの主体性を最も明確に擁護した知識人の一人といわれます。現在のガーナに生まれ、英国で法律家の資格を得た後1896年にゴールド・コーストに戻ります。ヨーロッパで教育を受けたこの時代のアフリカ人同様、彼も英国やヨーロッパのアフリカへの侵食に相反する感情を持ちます。英国を国家モデルとしたアフリカ独自の政府の設立を主唱する一方で、英国の西アフリカ統治は進歩でなく後退であり、アフリカの国家意識を阻害し、独自の民主的国家設立の可能性を否定すると考えます。こうして、Hayford は西アフリカ・ナショナリストのパイオニアの一人となり、1920年の National Congress of British West Africa 設立を助けることとなります。彼の思想は後の汎アフリカ主義に大きな影響をあたえたと考えられています。本著作集は、彼の発表した3つの主著をまとめます。第一作の *Gold Coast Native Institutions* は、Hayford の英国の統治に反対する姿勢を明確にした代表作です。第三作の *The Truth about the West African Land Question* は英国の土地政策に反対する Aborigine's Rights Protection Society の依頼で執筆されたもので、アフリカにおける近代的国家アイデンティティーの確立と、英帝国の中での自由な政府の設立への強い意志が読み取れます。これら2作に対し、*Ethiopia Unbound* は自叙伝的性格の強い文学作品で、英語で出版されたアフリカ人による初めての小説です。アフリカ人の主人公とそのイギリス人の友との対話を通し、アフリカ人や文化の多様性、そして神や精神についての思想を語り、アフリカ近代化への理想と現実を描き出しています。

■内容明細■

Vol. 1: *Gold Coast Native Institutions, with thoughts upon a healthy imperial policy for the Gold Coast and Ashanti* [Sweet & Maxwell, London, 1903] 434pp.

Vol. 2: *Ethiopia Unbound* [C.M. Phillips, London, 1911] 215pp.

Vol. 3: *The Truth About the West African Land Question* [C.M. Phillips, London, 1913] 203pp.

【復刻版】 J・M・サルバ著作集 全3巻

残部僅少

Writings of John Mensah Sarbah

新序文：Tom Lodge, University of the Witwatersrand, Johannesburg

2004年10月刊行 本体セット価¥49,800- (+税) ISBN 978-4-901481-57-6

西アフリカのゴールドコーストのファンティ族出身の John Mensah Sarbah (1864-1910) は、10代にロンドンにわたり法律を学び、1888年にゴールドコースト出身者で初めて英国法廷弁護士の資格を得ます。その後法律知識を生かし、英国の西アフリカでの土地所有の不当性を批判、aborigines' Rights Protection Society の設立に参加、植民地主義批判の代表的アフリカ知識人となってゆきます。彼はアフリカ人自身の手による近代的統治と、そのための教育の重要性を訴えましたが、同時にアフリカの異なる部族の伝統も保持してゆこうと考えていました。このような彼の政治理念からまとめられていった著作が、本著作集に収録される Customary Law に関する2著書と、彼の政治思想の集大成ともいえる 'Constitution' です。これらの著作のなかには初期のアフリカ・ナショナリズム思想が集約されているといえるでしょう。四十数年の短い人生の大半をアフリカ人自身の政府の設立に尽くした彼の功績は現在も称えられており、ガーナ大学はその講堂を Sarbah Hall と名づけています。

■内容明細■

Vol. 1 (363pp) : New introduction by Tom Lodge

Fanti Customary Laws: a brief introduction to principles of the native laws and customs of the Fanti and Akan districts of the Gold Coast, London: Clowes, 1897

Vol. 2 (189pp) : *Fanti Law Report of Decided Cases on Fanti Customary Law; Selected from the records of the appeal and Divisional courts at Accra, Axim, Cape Coast Castle, and Elmina*, London: Clowes, 1904

Vol. 3 (297pp) : *Fanti National Constitution*, London: Clowes, 1906

イスラム学の古典

英国・アイルランド王立アジア協会復刻シリーズ

神学・倫理学・形而上学 全5巻 + 別冊日本語解説

Royal Asiatic Society: Classics of Islam

Series 1: Theology, Ethics, and Metaphysics. (8 works, in 5 vols. 1995pp)

Preface by Prof. Anthony Stockwell, Royal Holloway College, University of London

Introduction by Prof. Clifford Edmund Bosworth, University of Manchester

【編集・解説】真下裕之（神戸大学）

2003年2月刊行 本体セット価 ¥125,000- (+税) ISBN978-4-931444-47-8

残部僅少

<各巻明細>

Vol.1 【フワーリズミー 『ムフタサル・ヒサーブ・アッジャブル』：代数学 (Algebra)】

Frederic Rosen 1831 : The Algebra of Mohammed ben Musa, London. 1 vol. 300pp (OTF19)

Vol.2 【ムハンマド・ダワーニー 『アフラーキ・ジャラーリー』：倫理学】

W. F. Thompson 1839 : Practical philosophy of the Muhammadan people, exhibited in its professed connexion with the European, so as to render either an introduction to the other; being a translation of the Akhlak-i-Jalaly, the most esteemed ethical work of Middle Asia, from the Persian of Fakir Jany Muhammad Asaad: (with references and notes), London. 1 vol. 500pp (OTF50)

Vol.3 【ピールーニー 『アーサール・アルバーキヤ』：諸民族の暦法】

C. Edward Sachau 1879 : The chronology of ancient nations. An English version of the Arabic text of the Athar-ul-Bakiya of al-Biruni, or "Vestiges of the Past," collected and reduced to writing by the author in A.H. 390-1, A.D. 1000. Translated and edited, with notes and index, London. 1 vol. 480pp (OTF73)

Vol.4 【イブン・アルアラビー 『タルジュマーン・アルアシュワーク』：スーフィー詩集】

A. Nicholson 1911 : Ibn al-'Arabi, Tarjuman al-Ashwaq 1 vol. 160pp

bound with (OTFNS20)

【ガッザーリー 『ミシュカート・アルアンワール』：スーフィー理論】

W.H.T. Gairdner 1924 : al-Ghazzali, Mishkat al-anwar, "The Niche for Lights". 1 vol. 175pp (ASM19)

Vol.5 【イブン・アルムタッハル・ヒッリー 『アルバーブ・アルハーディー・アシャル』：シーア派教条】

W. M. Miller 1928 : Ibn al-Mutahhar, al-Babu' l-Hadi 'Ashar. 1 vol. 110pp

bound with (OTFNS29)

【イブン・アビルドゥンヤール 『ザム・アルマラーヒー』、アフマド・ガッザーリー (d.1126) 『パワーリク・アルイルマーウ』：音楽に対する非難、スーフィズムにおける音楽勤行の擁護】

James Robson 1938 : Tracts on listening to music : being Dhamm al-malahi by Ibn abi 'l-Dunya and Bawariq al-ilma by Majd al-Din al-Tusi al-Ghazali, London. 1 vol. 200pp

bound with (OTFNS34)

【ハキーム・ナイサーブリー 『マズハル・イラー・マアリファト・アルイクリール』：ハディース学】

James Robson 1953 : Introduction to the science of tradition, being al-Madkal ila ma'rifat al-iklil. 1 vol. 70pp.

…今回復刊の *Theology, Ethics, and Metaphysics* は、数学、倫理学、暦学、哲学、イスラーム神秘主義、ハディース学などの古典の翻訳からなる。翻訳者には、ドイツのイスラーム学の巨星 C.E. Sachau (1945-1930)、イスラーム神秘主義研究の泰斗 R.A. Nicholson (1868-1945) などの大家も名を連ねる。また、全八点のうち四点が、翻訳とともに原典テキストを備えている点は特筆される。長らく入手の困難であったこれらの著作の参照が容易になることは、研究者に裨益するところが大きいであろう。

「編集にあたって（真下裕之）」より